上、中、下劣ノ五品等ニ分チアルニヨリ、其ノ該當欄ニ○印ヲ記入スルコト

B　精神的素質

1　精神的素質ノ意味

諸種ノ方向ニ發展シ得ル先天的能力ヲ云フ

2　精神的素質ノ特色

精神的素質ハ教育感化等後天的影響ヲ受ケテ發達スルモノナリ

3　知的素質

(1)　意　味、知的素質トハ知能上ノ根本性質ヲ云フ

(2)　考察方法、方法ハ種々アリ、然レトモ兒童教育上最モ必要ナルハ記憶、想像、思考ノ三方面ト其等ノ表現形象即チ表象ナリ

(3)　記　憶

(イ)　記憶ノ意味、現在ノ刺激ガ誘因トナリ或ル精神現象ヲ生ジ、ソレヲ過去ニ於テ經驗シタルモノナリト認ムル精神作用ナリ

(ロ)　記憶作用ノ四過程

1　一定ノ印象ヲ識得スルコト即チ學習スルコト

2　其ノ印象ガ一定ノ時間把住サレテヰルコト

3　其ノ把住サレテヰル觀念ガ何等カノ刺激ニ誘發サレテ再生スルコト

4　其ノ再生觀念ヲ骨テ經驗セルモノト同一ナリト再認スルコト

(ハ)　感覺的記憶（又ハ一名機械的記憶）

1　意　味、接近聯合ニヨリ相繼續スル事項ヲ其ノマヽ記憶スルコト

2　其　例、反覆ニヨリ言語、文字、名稱等ノ暗記（例ヘバ九九ノ如シ）ヲスルガ如ク視覺、聽覺運動、感覺等ノ感覺ニ訴ヘテノ記憶ナリ、筆寫、談話練習等ノ如シ

(ニ)　抽象的記憶（又ハ一名論理的記憶）

1　意　味、記憶セントスル事項ヲ其ノ理由ニヨリテ結合シ、且コレヲ既有ノ觀念ト密接ニ聯絡サセ、一ツノ系統ヲ作リ記憶スル、即チ抽象ニヨリテ記憶スルナリ

2　其　例、理科、算術等ノ法則、地理ニ於ケル氣候風土ト產物トノ關係、國史ニ於ケル原因結果ノ關係ノ如シ

(4)　想　像

(イ)　想像ノ意味既有觀念ヲ分解シコレヲ材料トシテ、未ダ經驗セザル新觀念ヲ構成スル作用ナリ

(ロ)　觀念ノ意味

心理學上――直接感官ニ現ハレザル事物ヲ心ニ再現セル時ノ像ナリ

哲學上――常住不變ノ實在ナリ

（ハ）直觀的想像（又ハ受動的想像）

1　意　味、浮ンデ來ル觀念ヲ自然ノマヽニ任セテヰル想像、即チ想像觀念ガ明瞭ニ再生スルモノ

2　其　例、修學旅行ノ前夜明日ノ旅行地ノ光景ヲマザ〳〵ト思ヒ浮ベルガ如シ

（ニ）結合的想像（又ハ發動的想像）

1　意　味、一定ノ目的企畫ニ從ツテ諸種ノ觀念ヲ結合シテ、想像觀念ヲ構成スル、コレハ能動的ニ變形シテ、特別ノ觀念ヲ創造スルモノ

2　其　例、談話文章ヲ綴ル、藝術上、科學上ノ事業ヲナス等ノ如シ

(5)　思　考

（イ）思考ノ意味、事物間ノ關係ヲ明カニシテ其レヲ統一スル精神作用ナリ

（ロ）形式上思考ノ三區別

概　念＝或關係ヲ有スル事物間ノ通有性ヲ綜合シテ得タ抽象的觀念

例―口、黑、日本、馬

判　斷＝概念ト其屬性トノ關係ヲ確定シテ一ツノ意味ヲ表ハスコト

例―コノ花ハ赤イ、犬ハ獸ナリ

推　理＝判斷ヲ材料トシテコレヲ吟味シ、其ノ關係ヨリ新シキ判斷ヲ導出スルコト

（ハ）演繹的推理

1　意　味―二ツ以上ノ判斷ヲ基礎トシ其ノ關係ヨリシテ新シキ判斷ヲ導キ出ス間接推理ノ一種デ一般ノ原理ヨリ特殊ノ場合ヲ導出スルモノナリ

2　其　例―高等二年生ハ小學生ナリ

北村ハ高等二年生ナリ

故ニ北村ハ小學生ナリ

（ニ）歸納的推理

1　意　味―間接推理ノ一種デ特殊ノ場合ヨリ一般ノ原理ヲ導出スモノナリ

2　其ノ例―「金、銀、銅、鐵、鉛等ハ熱ニヨリ膨張ス」

「金、銀、銅、鐵、鉛等ハ金屬ナリ」

「故ニ總ベテノ金屬ハ熱ニヨリ膨張ス」

(6)　表　象

（イ）形　式―知的素質ノ記憶想像思考ノ三方面ガ表象サレル形式ヲ記入スルニアリ

（ロ）種　類―口述的、記述的、技藝的ノ三トス

（ハ）注　意―此ノ欄ハ記憶、想像、思考ノ三欄ト對立的ニ見ルベキデナク前者ノ分析的內面的ナルニ反シ、綜合的外面的ナル立場ニ於テ調査スルモノトス

4　情意的素質

(1) 意　味　情　意的素質トハ情意上ノ根本性質ナリ

(2) 分　類、兒童教育上最モ必要ナルハ情質及性格ノ二トス

(3) 氣　質

（イ）意　味、情緒ヲ中心トスル情的素質ナリ

附、情緒トハ憤怒、恐怖ノ如キ多少複雜ナ感情ナリ、感情トハ外界ノ刺激ヲアルガマヽニ受ケタル際、快又ハ不快ヲ感ズル意識ナリ

（ロ）種　類、ヴントノ四分類ニヨル

膽汁質、神經質、多血質、粘液質

（ハ）膽　汁　質

情緒反應強速ナルガ故ニ外物ニ心動カサレ易ク、靜思熟慮ヲ缺キ、短氣ニシテ激シ易ク不快ノ情ニ傾クヲ云フ

例―歷史上ノ人物―織田信長

（ニ）神　經　質

不快ノ情強ク、從ッテ陰氣ニ何事モ悲觀シ易シ其ノ輕キモノニアリテハ思慮ニ富ミ事物ノ眞義ヲ洞察スルニ適ス

例―歷史上ノ人物―平重盛

（ホ）多　血　質

快ノ情ニ傾キ陽氣ニシテ、其ノ反應ニ輕快、事物ニ對シ、淡泊ナリ

例―歷史上ノ人物―楠木正行

（ヘ）粘　液　質

眼前ノ刺激ニ比較的無頓着、思慮ニ富ミ一定ノ計畫ノ下ニ着々活動ス、快ノ情ニ傾キ萬事ヲ樂觀ス

例―歷史上ノ人物―德川家康、ワシントン

（ト）氣　質　概　觀

人ハ各々氣質ヲ併有スルモノナレド、其ノ分量ノ多少ニヨリ、カクノ如ク大別スルノミ

氣質ハ年齡ニヨリ、性別ニヨリ一方ニ傾キ易ク、今、年齡的特徵ヲ比較スレバ左ノ如シ

1　少年―多血質　2　青年―膽汁質　3　成人―粘液質

(4) 性　格

（イ）意味同一ノ意志的行爲ガ反覆サレテ遂ニ習慣トナレバ、茲ニ意志的傾向ヲ生ズルニヨリ、其ノ後ハ同一ノ事件ニ對シテハ常ニ確信的ニ同一ノ方向ヲ取ルニ至ル意志作用ヲイフ

（ロ）種　類、意志作用ハ頗ル複雜ナルモノアルニヨリ人ノ性格ヲ截然ト區別スルコトハ極メテ困難ナリ、然レドモ形式的、內容的ニ左ノ如ク分類シ得

形式的—1　薄弱ニシテ動搖シ易イ性格
2　確實ニシテ鞏固ナル性格
内容的—1　善良ナル性格
2　劣惡ナル性格

（ハ）善　良

性格ノ内容的方面ノ上等ナルモノニシテ、品等ニヨリ反對ノ劣惡及其ノ中間ヲ示スモノナリ

（ニ）鞏　固

性格ノ形式的方面ノ上等ナルモノニシテ、品等ニヨリ反對ノ薄弱動搖シ易キ性格及其ノ中間ヲ示スノモノナリ

(5)生　活　形　式

精神的素質ガ綜合的ニ生活ニ表象セラレタル形式ヲ云フ、コレヲ一般的ナ型トシテ、理論的、審美的經濟的、奉仕的、勢力的、信念的ノ六ニ分ツ

C　品　性

1　意　味、精神ノ一定ノ働キ方ヲ云フナリ

2　分　類、品性ヲ知情意ノ三方面ヨリ考察シ、知的ハ叡智、世智、慧敏ノ三部面ニ、情的ハ敬虔、同情廉恥、淡泊、快活、意的ハ服從、進取、剛毅、勤勞、質朴ノ各々五部面ニ分チテ調査ス

3　知　的

(1)叡　智—最モ深遠ナル才智—(深ミ)
(2)世　智—世渡リノ才、如才ナク常識ニ富ミ社交ニ長ズ—(廣サ)
(3)慧　敏—悟ク賢イ、外界ノ刺激ニ對シ敏感ニシテ鋭イ—(速サ)

4　情　的

(1)敬　虔—敬ヒツヽシムコト
(2)同　情—思ヒヤリ
(3)廉　恥—恥ヲ知リ性行正シク節義ヲ重ンズ
(4)淡　泊—アツサリシテヰルコト
(5)快　活—心爽カニテ勇シイコト

5　意　的

(1)服　從—長上ノ命ニヨリ從フコト
(2)進　取—進ンデ事ヲ行フコト
(3)剛　毅—意志ガ強ク物事ニ恐レヌコト
(4)勤　勞—骨惜マズ働クコト
(5)質　朴—飾リノナイアリノマヽナルコト

D 行　爲

1 意　味—道德的判斷ノ對象トナルベキ動作

2 具備スベキ要件

(1) 動作ガ有意的デ、多少ノ思慮ヲ加ヘタルモノナルコト

(2) 動作ノ主体ガ道德心ヲ具フルコト

隨ツテ瘋癲白痴ノ動作ハ第二ノ條件ヲ缺クガ故ニ、反射運動ノ如キハ第一ノ條件ヲ缺クガ故ニ、何レモ道德上「善ナリ」又ハ「惡ナリ」トノ判斷ヲ下ス能ハズ

3 種　類

行爲ヲ教育上特ニ職業指導的見地ニ立チ、必要ナル數種類ヲアケテ、之ヲ調査スルナリ

(1) 正　直—心正シク僞ハラザルコト

(2) 熱　誠—マコト

(3) 規　律—キマリ

(4) 自　發—ヒトリテニ行フ

(5) 愼　重—愼ミ輕々シク物事ヲセズ

(6) 敢　爲—思ヒキツテ事ヲナス

(7) 綿　密—細ク精シイコト

E 擧　動

1 意　味、フルマヒ樣子ノ事デ卽チ動作トシテ外見ニ表ハレタル諸形式ヲ云フ

2 種　類、擧動ヲ分チテ左ノ四種トス

(1) 着　實—落着イテ眞面目ナルコト

(2) 活　潑—勢ノヨイコト又ハ元氣ノアルコト

(3) 敏　捷—スバヤイコト

(4) 嫻　雅—ミヤビヤカナコト

F 言　語

1 教育上ノ留意点

明瞭、叮嚀、多辯、高聲、上品等留意スベキ点ハ多々アレト最モ必要ナルハ正確ト流暢トナリ

2 種　類

(1) 正　確—正シク確カナルコト

(2) 流　暢—スラ〳〵シテヰルコト

G 容　儀

1 意　味—身ナリ、身振リ、樣子ノコト

2 種　類

(1) 容　姿―スガタ、カタチ、容色ノ意
(2) 身　嗜―身ノマワリニ關スル心掛
(3) 氣　品―氣グラヰ、品位ノコト
H 特　技―特ニ珠算、書方、圖畫等ノ上手ナルコト
I 趣　味―繪畫、音樂、讀書、談話、園藝、運動等ニ對シテ特別興味ヲ有スルモノヲ記入ス
J 良習慣―朝起、世話好、老人ヲ勞ハル等ノ良イ習慣ヲ具体的ニ記入ス
K 偏向性癖―アル一方ノ事ニカタヨル癖ヲ記入ス
以上ノ四項目ハ特別目立ツモノノミ記入シ、他ハ無ト記入ス
L 其ノ他―性行ニ關シテ以上記載サレタル以外ニ更ニ必要ト認ムル事項アル時ハ此ノ欄ニ記入スルコト

三、進學及選職

兒童及保護者欄ニハ志望ト其ノ事由ヲ記入スルコト
教師ノ欄ニハ見解トシテ綜合的査定ト補導上ノ意見ヲ記入スルコト

四、備　考

以上ノ欄以外ニ必要ト認ムルコトアル時ニスルコト

3 個性調査

個人に就いて調査するには如何なる特徴を調査したならばよいか。實際に個性調査を行ふ場合には、調査さるべき特徴の選ばれる理由がはつきりしてゐなければならぬ。又その選ばれる理由が種々なるものが唯雜然と相混じてゐる場合もある。個性調査が種々の目的を持つものである限り、個人に就いて調査される特徴の選ばれる理由が種々のものであり、實際の個性調査は結局その綜合的なものとして行はれて差支へないのであるが、如何なる特徴を調査するかといふ、夫々の理由、種々の見地を先づ明かに意識して置くことが必要であると思ふ。かゝる點より見れば主要なるものとして三つが數へ擧げられる樣である。

一は教育に依る直接的改善といふ見地、二は類型論的見地或は性格構成論的見地、三は職業選擇的見地であると思ふ。

これらの見地は夫々目的を持つてゐる見地であるから、それによつて調査すべき特徴を定め、その特徴によつて個人を調べた結果は夫々の目的に應じて用ひられなければならない。調査結果を如何にするかといふ問題がこれで、個性調査に於ては最も重要な點である。調査は調査のし放しであつてはならない。必ずこれを充分に用ひなければならないのであつて、その爲には豫め如何に用ひるかを豫想して置いて調査法を定めなければならない。

調査すべき特徴が選ばれ、結果の利用の豫想があるならば、個々の特徴に就いて如何に調査すべきか、調査結果を如何に表現すべきかの問題が自ら其處に出て來る。調査の方法としては檢査に依るものと、觀察による評定とを二大別する事が出來、表現の仕方は質的な叙述と共に如何に數量的叙述を用ふるが善きか、殊に觀察による

評定は如何に表現さるべきか、その信憑性を高めるには如何なる方法が採らるべきか等が考へられなければならないものである。

とにかく個性調査に就いてはやむにやまれぬ教育愛の流露と抑へがたき人間愛の表現を元として特徴選擇の問題と、各特徴に就いて調査する方法及びその表現の問題と調査結果の利用の問題について苦心さるべきものと思ふ。

なほその他に個性調査に關係し來る問題は種々あると思ふが中でも殊に調査結果と個性の發達との關係を、結果の表現方法に關聯させ、又結果の利用に關聯させて考へる事も必要であらうと思ふ。又調査結果の利用の問題は當然、個性を如何なるものと考へるか、又所謂個性尊重を如何なる意義に解するかといふ重要問題に依繋するものであるから、これらをも考察しなければらぬと思ふ。

職業選擇的見地よりの個性調査

此の見地から選ばれる特徴が、其他の二つの見地から選ばれるものと全然別であるとは思はない。多くの職業が教育に依つて改善せしめられる機な諸徳を非常に必要とし又職業の別と性格の別と相應するものがあると思ふ。然しながら、かやうな重り合ひにもかゝはらず、これは又一つ別個の見地として立てられるものと思ふ。それは各職業に於て重んぜられる個性の特徴は、必ずしも教育に於て一般的に價値多しと認められる特徴と同じでなく、又各職業活動は人間の類型や性格構成を特に顧慮せずに營まれて居つて、職業活動の別そのものを根據として人間の類型を見ることも出來るからである。

直接教育的見地と、職業選擇的見地との別は、「氣分の恒常」といふ樣な特徴に對して明瞭であると思ふ。現代の分業の發達した工場に於けるあの作業は、單調といふことが一つの特徴になつてゐるもの〻樣である。其處に働く者には「氣分の恒常」といふ性質がかなり要求されてゐる樣である。然るに學校に於てはどうであらうか。これ程の單調と長時間は決してない。それのみか新思潮は、教室と机と教科書とを以てする學習を滿足とせず、生活を体驗するのでなければいけないとしてゐる。きまりきつた事、その繰り返しは最も嫌はれる。兒童は多方面に、價値の多いものに向つて、生き生きした興味を働かせなければならない。そして創造的でなければならないとされるのである。學校で言ふ生活とは理想的な生活でないかと思ふ。實際の社會に存在してゐる生活はもつともつと惡い狀態にあるもの〻樣である。それならば工場の條件を改善すべきではないか。とにかく勞働時間が、或は作業の單調が問題になつてから既に久しいものと思ふ。又最近の失業時代に於ては仕事の分配も問題になる。然しこれらは個性調査や、差し當つての職業選擇とは別個の問題でなければならない。職業選擇の見地は先づ現狀をそのまゝ受け入れ、なほその上に來るべき現實の變化を考ふべきものである。その意味からは「氣分の恒常」も現代に於ては必要な特徴となつて來る。學校の作業に於てはあまり解らないが、ある單調な作業が繰り返されて機械的になつた時に、一生懸命に働いてゐるといふ感じ、何となしに滿足の感じを覺え、能率を擧げる者がある。かやうな人に仕事の中止を命じ、全く新しい指示をなして新しい仕事に就かせようとするならば、彼が不滿の顏をしたり、不平を言つたりするのを見出すであらう。反對に新しい指示と仕事を喜んで受けるものもあるのである。かういふ譯で「氣分の恒常」は職業選擇的見地からは必要な一つの特徴であると言へるものと思ふ。

然らば職業選擇的見地からとして、網羅的にはどんなものが選ばれるか。それは網羅的な職業分析の結果に待たなければならないものであると思ふ。

先づ多くの個性調査や職業分析の中から、其處に用ひられてゐる特徴を網羅的に集めるべきで、次の如き方面より見るべきものと思ふ。

一、身体的條件
二、智的能力
三、常識及び學業
四、運動能力
五、感覺知覺
六、情意的特性
七、人物

又調査に於て、職業指導に用ゐらるべきは、その結果が實際に役立たなければならぬ。それがためには調査は職業的行作と對應する必要がある。しかるに今日此の方面の業績は決して滿足すべき狀態に達してゐない樣な感がする。蓋し、これ、一には、調査の方法が未だ個性の全貌を捉へるには不十分であるのと、二には、個人をその職業的生活行藏に於いて特徴づけるものに關する洞察が不十分であることゝから來てゐる。一は如何にして個性調査は完成せらるべきかの問題であり、二は何について調査すべきかの問題である。何故に或る方面の檢査が選ばれて、何のために或條件の下にそれが施行せられるか、或は個性の或特徴に就いての結果が、職業的行作の上に如何なる意義を有つか等に就いて、未だ充分な檢討が加へられないまゝで實施せられる結果は、甚しく實用性に乏しい調査であつたり、或は最後を常識で補填したものであつたりして、此點注意を要するものと思ふ。次に最も考慮を拂はねばならぬものとして、習熟の能及びその効果である。今日學校に於いて、兒童の將來の職業を指導する種々の個性調査に於いて、個人の將來、實際に就いた仕事に於て伸ぶべき樣相と、到着すべき限界とに關して、幾千の顧慮が拂はれてゐるか、反省すべきである。一般に或る作業に於て必要とせられる性能の、要素的なるものは、その作業への習熟の初期に於いてはそれの個人差が中心的問題となるけれども、少し進むと全くそれが問題にならない程に個人差が消殺せられて來る。殊にその仕事への門外者が頭で考へた、その仕事への所要性能に、かくの如きものが屢々あるらしい。又或る方法に依りて檢査したる性能は、專ら習熟の速度に關係し、或るものは專ら、到達した高原に於ける高さと關係する。又或性能は或作業の練習の初期に於ける發達を支配し或資質はその中期の動搖度と關係があり、又或るものは後期に於ける作業量と、或るものはその質と密接なる關係を保つ。かくの如く、習熟の殺階によりて、中心的に重要な性能は變化して來るのみならず、それへの關心がいづれの層にあるかも亦變化して來るものと思ふ。

右の事は機械觀的寄木細工流の調査の結果の實際的無効果の一であると思ふ。而して是と關聯して、殊に性能檢査の實施條件に於いて、その檢査時間及び回數を如何にせば、その豫診的價値に對して必要且つ有効であるか等について、考察が拂はれねばならぬ。勿論、種々の方面に就いて或個人の持つ病的缺陷を檢出するための調査

ならば、健康診斷的に、種々の方法が用ひられる事に對して、其方法が的確であれば、敢て異論はない。けれども、少くとも生理的範圍内に於ける性能の個人差について、それと職業能力との關係を云爲する場合には、かゝる點に就いて精細な考察が必要である。

以上の如き見地から又以上の如き各種の注意の下に、現在信賴し得る、あらゆる方面の檢査と觀察の結果とから、兒童の進むべからざる職業の方面を排除して行けば、そこに殘る方面は、現在に於いて最も安心して進み得べき大道であると思ふ。

一、知能檢査

知能測定に際して大伴「知能テスト」甲號第三種を適用して、實施してゐる。職業指導に於て、知能品等の手法乃至その表示形式が全國的に共通したものが望ましいものである事を思ひ、比較的全國共通の標準尺度で品等判定されたる本テストを選んだ所以である。

以上の知能測定の結果に依つて見るに、知能標準評點は比較的、恒常的のものであるから、若しこの程度の上に、型の方の長期間に涉る觀察結果を加へておく時は、單に學業成績のみに依るよりも有効である樣に思ふ。

第一小學校を卒業する時に、上級學校へすゝむ事が出來るかどうか、更に專門程度の學校へ進めるかどうかも大體に於いて判定する事が出來る。

第二中等學校位より上級へは望めない程度であるならば、そして型等も分明すれば、中學校よりも實業學校の方がいゝかも知れず、又實業學校の種類も大體に於て決定出來ると思ふ。

第三上級專門學校へ進むにしても、高等學校から大學へ進めるか、專門程度の方がいゝか、それにしては何れの方面が適當であるかが、知能程度や知能型式に依つて大體の判定がなされる樣に思ふ、知能に依つて以上の樣に學校選擇の資料とする外更に職業選擇に際しては、各種職業に於ける知能標準表に照し合はせて、不適の部分を取除き、最も安全なる大道を見出す樣に努力してゐる。

今本年度に於ける知能テストの結果に就いて見るに男兒に於ては普通兒一〇〇の者が最も多く四一パーセントを超へ普通上に當る一一〇は二二パーセントを占め秀才下に當る一二〇の者が二二パーセント秀才上の一三〇が五パーセントを占めてゐる、又普通以下に當る普通下九〇が約五パーセントに當つてゐる尙稍鈍才に入るものとして八〇が約三パーセントを示してゐる。

女兒に於ては秀才下一二〇が三九パーセントを占め秀才上が六パーセントを表してゐる最も普通と考へらる一〇〇は一五パーセントにて普通下たる九〇は六パーセントをしめし稍鈍才に入るものと思はれる者が九パーセントを占めてゐる。

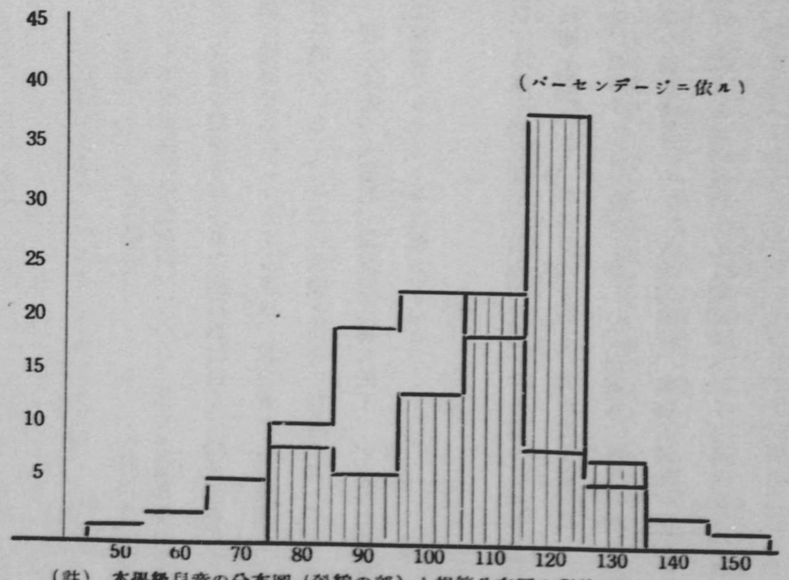
女兒は之を見ると普通以上の者が大半を占め男子に比して稍良好である。

男子は尋常小學校卒業に際して優等兒と見られたる者が中等學校の方へ入學した關係上稍低下してゐるものゝ如く女兒も女學校等へ入學したる關係もあらうが男兒に比して比較的優等兒がとゞまつてゐる樣である。

高二22學級（女）33人ノ知能頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	—	—
80	3	9.09
90	2	6.06
100	5	15.15
110	8	24.24
120	13	39.39
130	2	6.06
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 4.7	

上表ニ於ケル知能頻數分布圖

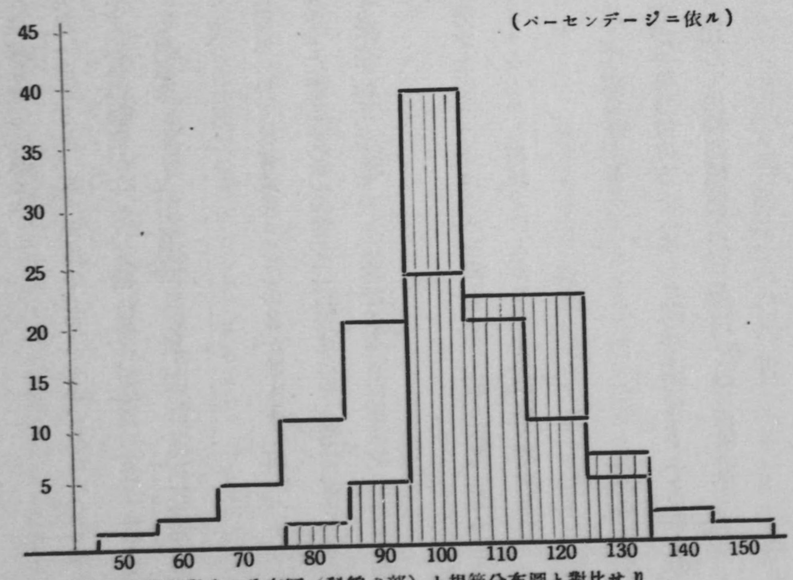


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二21學級（男）36人ノ知能頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	
60	—	
70	—	
80	1	2.77
90	2	5.55
100	15	41.65
110	8	22.21
120	8	22.21
130	2	5.55
140	—	
150	—	
平均標準評點	110 2.2	

上表ニ於ケル知能頻數分布圖



（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

ロ、情意檢査

1　情意不安定性テスト

此の檢査に於ては大伴「情意不安定性テスト」を適用して不安定性の兒童を調べてゐる。私共が情意不安定性兒童を其儘職業に導く事は、人道的に教育的に、社會的に或種の犯罪を有つ事の樣に思はれる。心是にあらざるものを、唯彼の才能が此職業に適するからとてその職業に從事せしめようとする事は、教育者として反省すべき事と思ふ。我々は少くとも情意不安定性の程度及び内容を明かにして、そこに治療と指導の努力を加へて後、彼をして彼の實生活に奮闘せしめなくてはならぬと思ふ。我々は先づ人道的、教育的立場に於て、かうした諸徴候を明かにして、更に適當に治療指導して行かんが爲めに綿密なるテストを實施してゐる。

2　興味テスト

職業指導に於ける人間分析に於て情意不安定性を觀察する事を情意觀察の消極的考慮とするならば興味を觀察する事を情意觀察の積極的考慮とすべきものと思ふ。興味を觀察して、その型式を知り、其程度を明かにし、その方向を特定する事が出來るならば、恐らく職業指導は、理解されたる彼を土臺として相當高い程度の効果を收める事が出來ると思ふ。そこで先づ型式に於ける個人差を觀察する。そして人物的興味、事物的興味、活動的興味、事件的興味の四者を區別する、此の型式は職業選擇に際して參考資料として閑却すべからざるものと思ふ。此テストに於ては大伴「興味テスト」を使用してゐる。

又興味に就いて特に職業的興味を考察する必要がある之は希望職業を明かにする事に依つて或程度迄分明する事が出來る。之の興味は、種々の影響に依つて變動するものであるから數次に渉り調査せなければならぬ。その變動の中に一貫する内在的傾向に着眼して個人指導に努めてゐる。兎も角も男子、女子、殆んど凡てのものが、將來の職業に對して、自由な興味を有ち、放たれたる憧憬を抱き、活潑なる企劃をなす事が出來るのであるから、職業の指導は、實際多忙且つ多望といふべきである。

職業的興味の調査は、然しながらかくの如き一般的な考察から、個人的觀察にはいらねばなりませぬ。それが爲には、次の如き順序に於て調査する事にしてゐる。

1　どんな職業が一番いゝと思ひますか
2　どんな職業が一番よくないと思ひますか
3　どんな職業に就くつもりですか
(1)　それはどんな理由によつてですか
(2)　いつ頃からそんなに思つてゐますか
(3)　どんな手段によつてその職業につくつもりですか

即ち最もいゝと思ふ職業と最も悪いと思ふ職業を指摘させ、就きたいと思ふ職業については、その職業名を指摘させるばかりでなく、其理由、その念願してゐる期間、その就職するための決心手段の程度を調査する事としてゐる。

3　氣質テスト

内働的、外働的氣質を調査するために、氣質テストを實施してゐる。内働的氣質だから外働的氣質よりはいゝとかわるいとか判定する事は意義ある事でなく、又前後に置くべきものでなく、同列に並べるべきものと思ふ。氣質を諒解した上の教育指導でなければ適切なものであるとは言へないと思ふ。

職業指導に於ては、大体に於て、青少年の氣質が、その正常なる先天的偏向を示すものであるとして、指導の實際にては、此兒童は内働的氣質であるから、かういふ職業には適當であるが、此の職業には不適當であるといふやうに指導してゆく事が必要である。或は寧ろこの職業には不適當であるといふ點より、氣質の消極的指導を試みる事がより大切であると思ふ。

4　道德判斷力のテスト

情意方面の調査に於て、その最後の努力を、道德的判斷力の調査に注がうとする。第一に私共は情意狀態の安定、不安定を問題とし、不安定ならば職業に就かしめる前、先づ其の治療を試みねばならぬ。安定してゐるとすれば第二に興味を觀察してその型式と程度と變動の具合を明かにし、その個人の向くところを推斷する樣にする。第三は主として生理狀態に基因する先天的偏向としての氣質を見、第四には主として意志に基因する後天的習慣性としての性格を見ようとする、第五には道德的判斷力を觀察し、これを究明する事に依つて、その道德的生活の基調を見、この方面より彼人間を理解するとともに、かく理解されたる個人をして適當の職業に從事せしめ、その職業に從事する事よりして彼の道德的生活の完成を期しようとする。

道德判斷テストに於て、道德知識の判斷力と道德行爲の判斷力とから見ようとして左記テストを實施してゐる。

道德判斷力テスト
- テスト 1 ……道德語彙に依るテスト
- テスト 2 ……道德事實の叙述に依るテスト　} 道德知識の判斷力テスト
- テスト 3 …… 道德行爲の判斷力テスト

私共は職業指導にあたつて、この道德力を二つの意味に於て重要視する。一は道德的判斷力の劣れるもの、いひかへれば或意味に於ける不良性のものを、職業に從事せしめる前に、教育指導に依り德性を涵養し德行を遂行せしめる事に陶冶の努力を續け、二は職業指導といふ具象的な努力に依つて、道德的判斷力をより練磨しようとするものである。

道德的判斷力が道德生活の最も有力なる一基調をなすものであり、社會生活に於ける最も重要なる一契機となるものである事は、更めて言ふ迄もない。從つて何れの職業に從事するに當つてもそこに道德生活が充實し、社會生活が展開するものであると觀ずる以上、特にこの道德的判斷力が、何れの職業にも必要にして且つ重要なる根本的調査事項であると思ふ。

ハ、敎科の科學的檢査

學業成績は學業の成績であつて素質でないと思ふ。知能は素質であるが成績ではないと思ふ。だから學業成績

は知能から明かに區別されねばならぬ様に思ふ。

學業成績は種々の原動要素の集積であり、知能は其の中の大きい原動要素であるが、知能に依つてのみ學業成績が現れて來るものでないと思ふ。知能の他に、情意的動力もあるならば、個人の身体的動力もあり、家庭的動力も、更に年齢による經驗といふものも看過する事は出來ぬと思ふ。

學業成績は普通に點數で示され、其點數の表示方法が從來は主觀的で不正確との評から如何にしたならば合理的なものになるかといふ研究にすゝみ、教育測定の運動となつたものと思ふ。

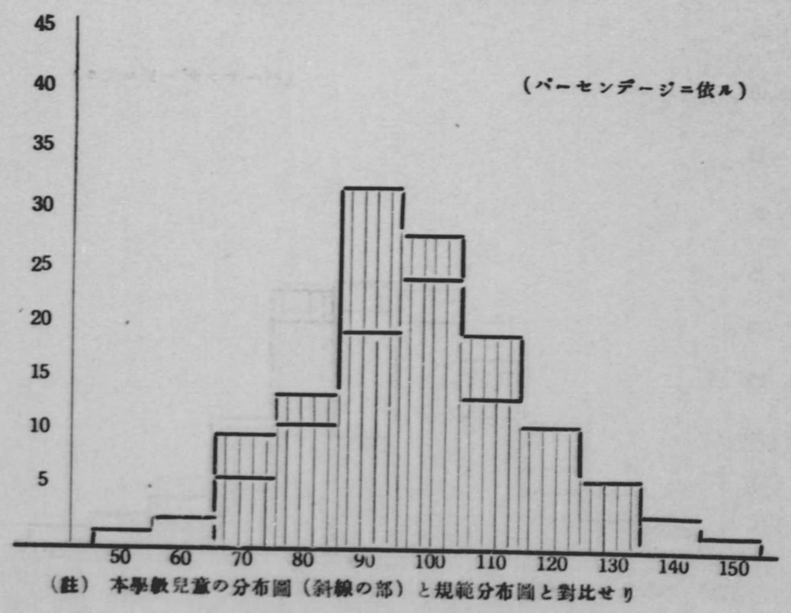
學業成績の測定法として讀書テストと算術テストの兩テストを行ひ讀書テストは讀字力テスト、字句解釋力テスト、大意把捉力テスト、聯想統覺力テスト、書取力テストの五種のテストを實施してゐる。算術テストは計算能力、推理能力の二テストを實施してゐる其他歷史、地理、理科に於ては考査法を適用して其知識内容の吟味に努めてゐる。そして誤謬や困難を見つけて見たいと思ふ。

以上の學業成績の調査がなされて、學業成績を品等的に判定し、その速度、研度、深度の關係を明かに、誤謬や困難の内容が吟味され、更に知織内容が檢討されたる上、最後に個人の學業が何科に於て得意であり、何科に於て不得意であるか、又全般的に觀察して、均衡を保持した成績か、更に過去數年間の發達の具合を觀察して、成績が恒常的であるか、それとも變動的であるかといふ様な事を決定して行き、よりよく個人を理解せんとするものである。

高二21學級（男）37人ノ算術計算頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	一	一
60	一	一
70	3	9
80	5	14
90	12	32
100	10	27
110	5	14
120	一	一
130	2	5
140	一	一
150	一	一
平均標準評點	90 6.0	

上表ニ於ケル算術計算頻數分布圖

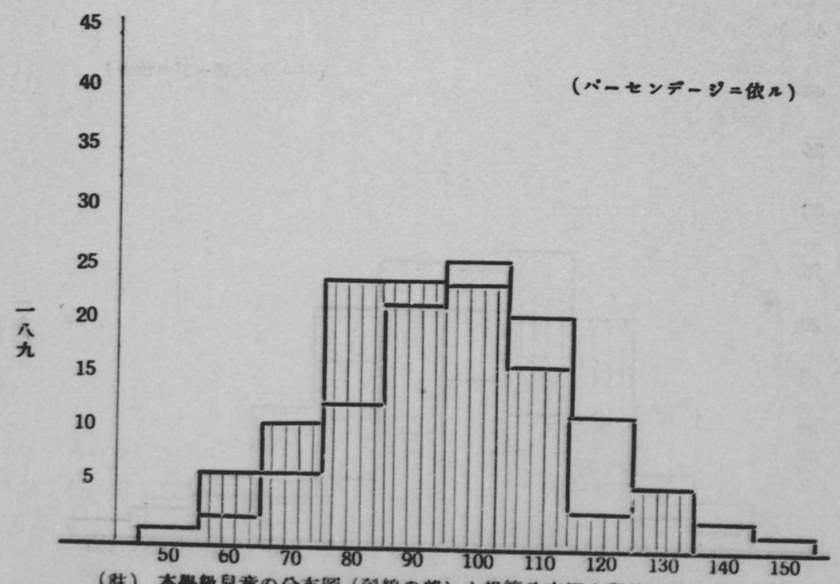


（註）本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖とを對比せり

高二21學級（男）37人ノ算術推理頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	2	5
70	3	9
80	8	22
90	8	22
100	8	22
110	5	14
120	1	3
130	2	5
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	90 7.4	

上表ニ於ケル算術推理頻數分布圖

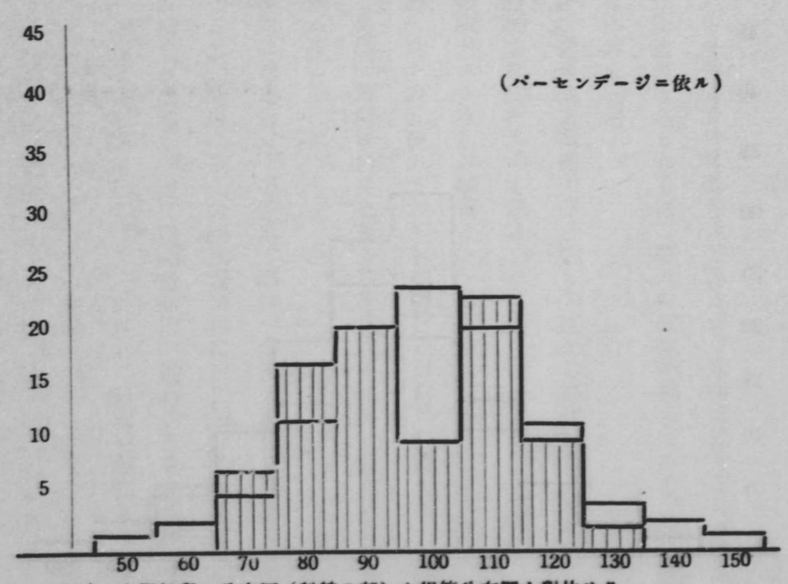


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二22學級（女）31人ノ算術計算頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	2	6
80	5	16
90	10	32
100	3	10
110	7	23
120	3	10
130	1	3
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 0.8	

上表ニ於ケル算術計算頻數分布圖

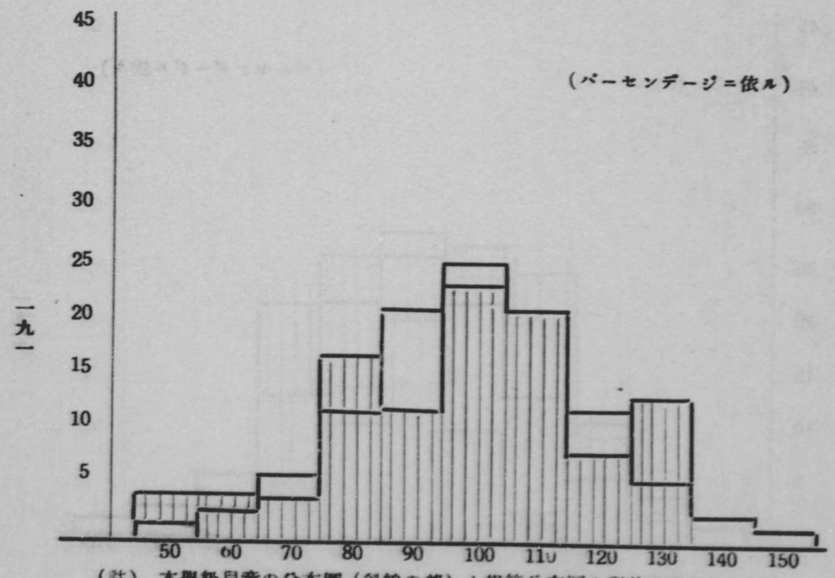


（註）　本學級兒の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二21學級（男）37人ノ讀字力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	1	3
60	1	3
70	1	3
80	6	16
90	4	11
100	8	22
110	8	22
120	3	8
130	5	13
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 5.3	

上表ニ於ケル讀字力頻數分布圖

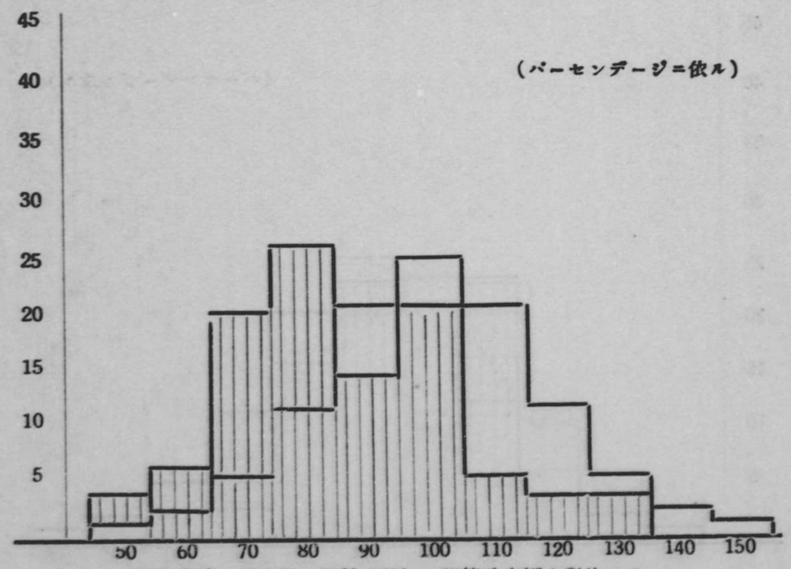


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二22學級（女）31人ノ算術推理頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	1	3
60	2	6
70	6	20
80	8	26
90	4	13
100	6	20
110	2	6
120	1	3
130	1	3
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	80 9.6	

上表ニ於ケル算術推理頻數分布圖

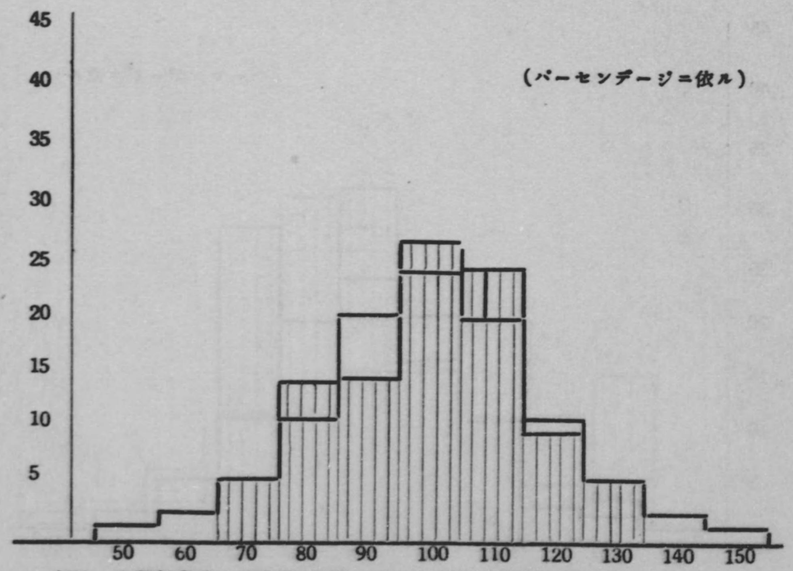


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二21學級（男）37人ノ聯想統覺力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	2	5
80	5	14
90	5	14
100	10	27
110	9	24
120	4	11
130	2	5
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 0.5	

上表ニ於ケル聯想統覺力頻數分布圖

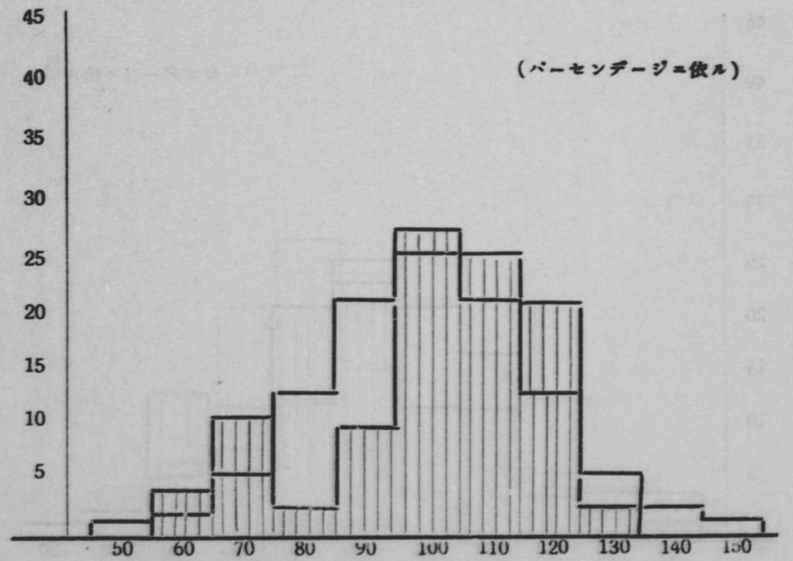


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二22學級（女）31人ノ讀字力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	3
60	1	10
70	3	3
80	1	10
90	3	27
100	8	24
110	7	2
120	6	3
130	1	—
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 6.3	

上表ニ於ケル讀字力頻數分布圖

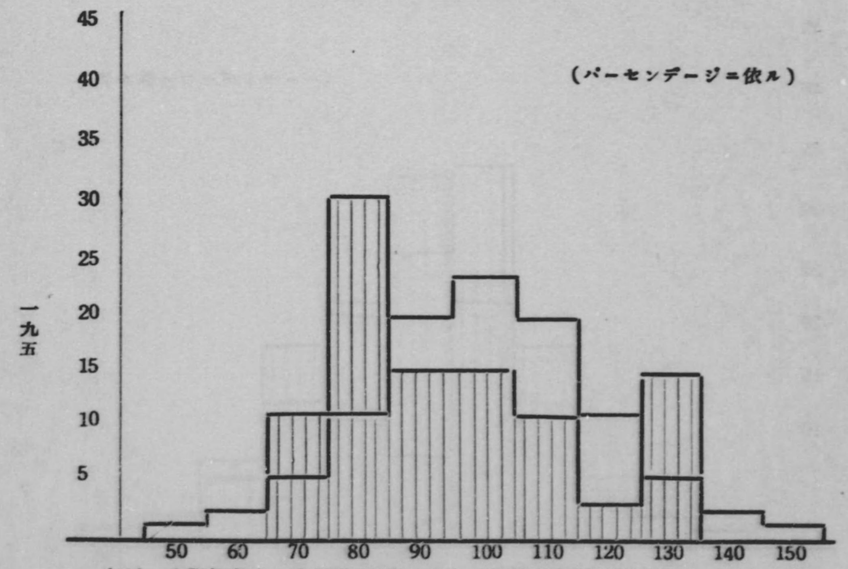


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二21學級（男）37人ノ書取力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	4	11
80	11	30
90	6	16
100	6	16
110	4	11
120	1	3
130	5	14
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	90 9.9	

上表ニ於ケル書取力頻數分布圖

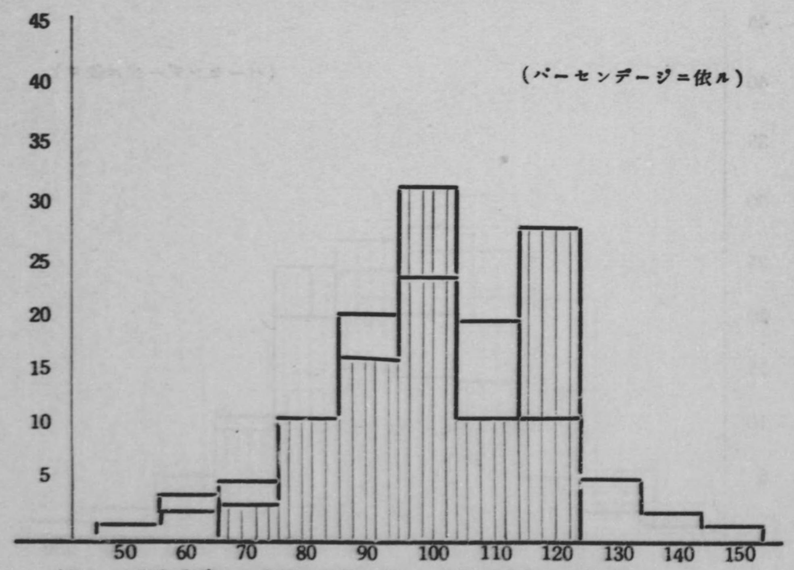


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二22學級（女）31人ノ聯想統覺力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	1	3
70	1	3
80	3	10
90	5	16
100	10	32
110	3	10
120	8	27
130	—	—
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 5.3	

上表ニ於ケル聯想統覺力頻數分布圖

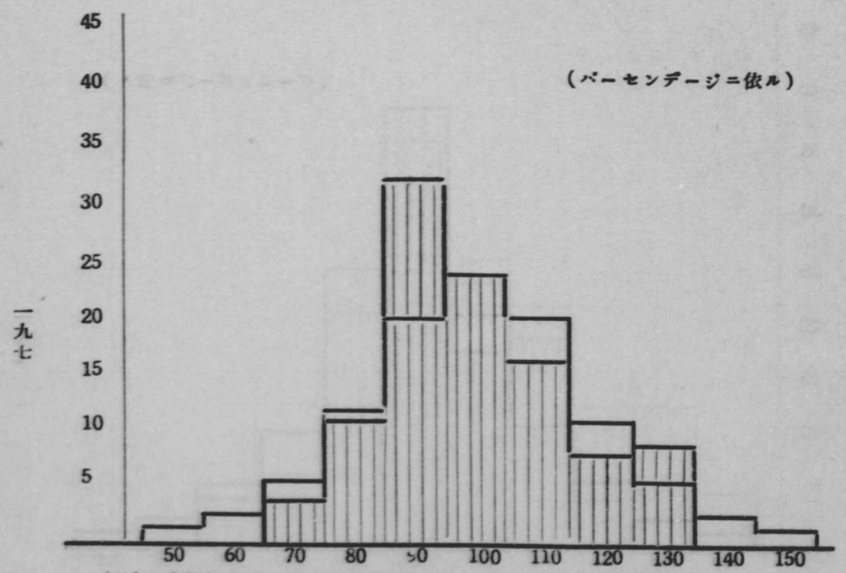


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二21學級（男）37人ノ大意把捉力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	1	3
80	4	11
90	12	32
100	9	24
110	5	14
120	3	8
130	3	8
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 0.9	

上表ニ於ケル大意把捉力頻數分布圖

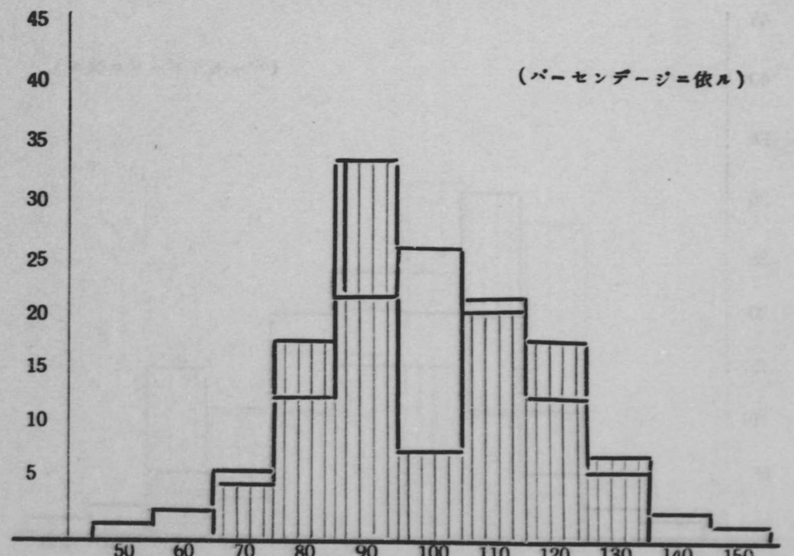


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二22學級（女）31人ノ書取力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	1	3
80	5	16
90	10	32
100	2	7
110	6	19
120	5	16
130	2	6
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 4.7	

上表ニ於ケル書取力頻數分布圖

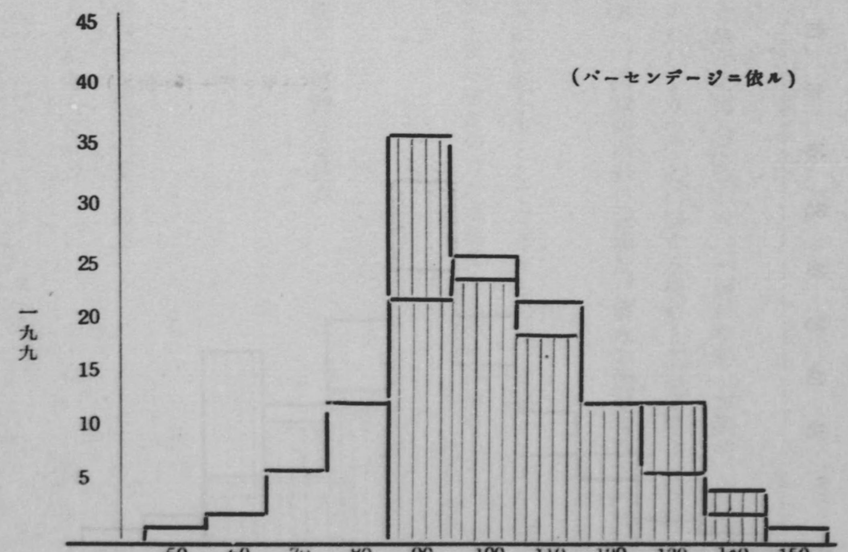


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二21學級（男）37人ノ字句解釋力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	—	—
80	—	—
90	13	35
100	8	22
110	6	16
120	4	11
130	4	11
140	2	5
150	—	—
平均標準評點	110 0.7	

上表ニ於ケル字句解釋力頻數分布圖

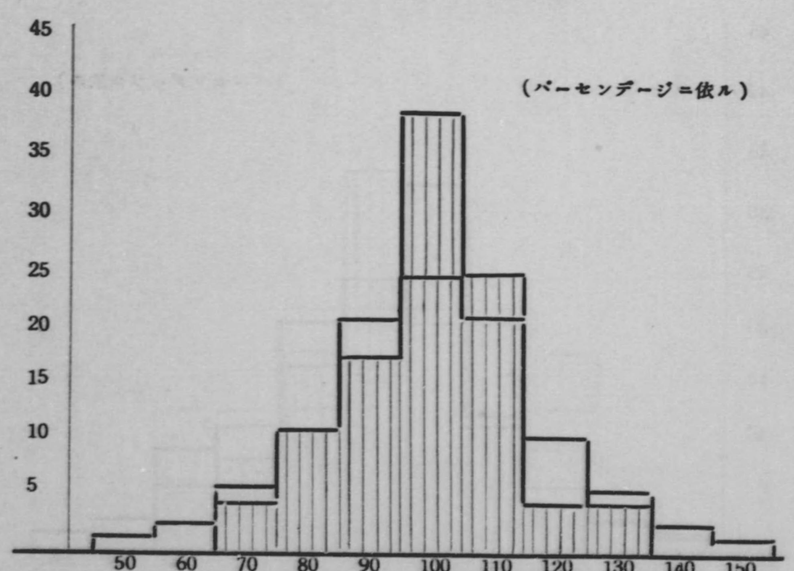


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二22學級（女）31人ノ大意把捉力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	1	3
80	3	10
90	5	16
100	13	42
110	7	23
120	1	3
130	1	3
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 4.3	

上表ニ於ケル大意把捉力頻數分布圖

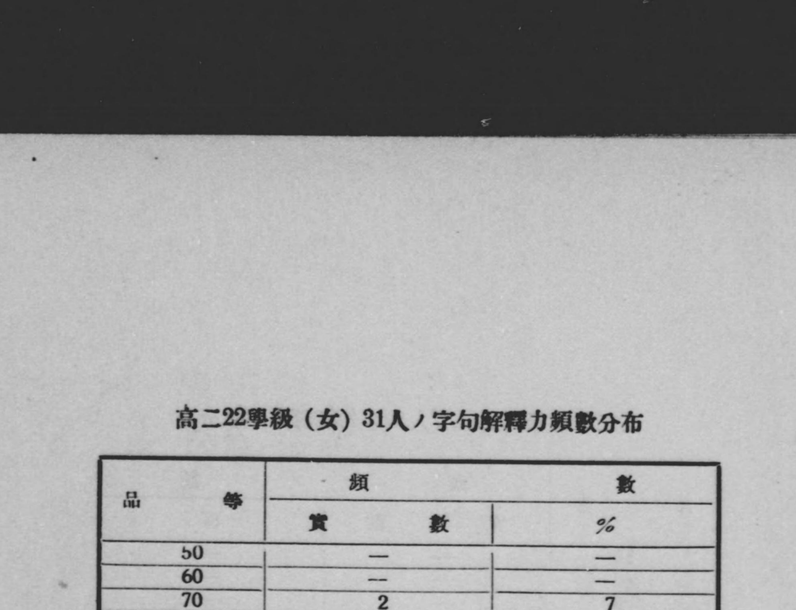


（註）　本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

高二22學級（女）31人ノ字句解釋力頻數分布

品等	頻數	
	實數	%
50	—	—
60	—	—
70	2	7
80	2	7
90	5	16
100	10	32
110	4	13
120	3	10
130	5	16
140	—	—
150	—	—
平均標準評點	100 8.2	

上表ニ於ケル字句解釋力頻數分布圖



（註） 本學級兒童の分布圖（斜線の部）と規範分布圖と對比せり

本校職業指導に於ては飽迄も觀察を主体とし兒童調査錄を活用してゐるも、一面科學的、客觀的、機械的の觀察も以上を補正する意味に於て亦必要であると思ふ。かくして力めて之に接する機會と之を究明する適法とを求め、個性知悉の參考に資し、兒童に個性發見の機會を與へ、技能的教科の指導及び將來の選職進學上の資材に供する樣努力してゐる。

檢査の種目……教育的効果の影響大なりとする後天的性能を主として考査するには、用紙テストが比較的適してゐると思ふが、先天的の能力を發見するには、器械に依る檢査の方が適當でゐる樣に思はれるので、次の七種目の器械テストを試みた。

一、感覺、知覺機能

1 視觸覺辨別力……目で視つゝ觸覺に依りて辨別する能力

2 空間辨別力……精密目測の確否

二、精神機能

3 記憶力……機械的の直接記憶

4 選別力……形態の觀察と比較辨別する推理判斷の能力

5 構成力……觀察と想像と工夫との綜合した能力

三、運動機能

6　作業速度……運動の敏緩注意持續の良否等の綜合能力

7　握力、力量…握力並に力量（背筋力）

(一)　機械使用法

機械の取扱ひさまで困難なるものではないが、細心の注意を拂はなければ其結果たるや有害無益である事は言ふまでもない。故に機械を使用するものは宜しく機械に使はれるつもりでやるべきである檢査實施直前の一ヶ月は全校職員を數班に別ち、各種目毎に專門的に充分檢査員たるの資格を具ふべく實習に力め、尙檢査者各兒には檢査法の解說書を頒布して相當の準備期間を置いた。

(二)　檢査事務

檢査に關する事務は相談部長、主として之に當る。

一、檢査用器械用品の準備點檢

二、檢査日程

三、檢査室の配當

四、受檢兒童に對して檢査の日的、方法、順序、受檢態度等の說明

五、受檢兒童の各室置當誘導

六、受檢票の集配整理

七、檢査員の補缺分擔割

(三)　檢査員

番號	檢査種目	檢査員
1	視覺辨別	導訓子房野越
		導訓子寳外破不
2	空間辨別力	導訓作幸田福
		導訓子富美田森
3	記憶力	導訓衆利野海
		導訓子敏村西
4	選別力	導訓司久田高
		導訓子美佐野三
5	構成能力	導訓幸永長
		導訓枝菊田作
6	作業速度	導訓子敏田長
		導訓子博中濱
7	握力力量	導訓三周田中
		導訓ちか川宮

(四)　檢査目的と觀察事項

感覺、知覺機能の檢査

(一)　視覺辨別檢査

目的　目で視つゝ觸覺によりて辨別する能力を檢査する

用具　視觸覺辨別檢査器、メダル入皿、秒時計

觀察事項

作業記憶　良、稍良、中位、稍不良、不良

作業狀態　計畫的、稍計畫的、中位、稍試作的、試作的

(二)　空間辨別檢査

目的　精密目測の確否を檢査する

用具　空間辨別檢査器（精密目測計）

觀察事項

作業狀態　徹密、稍徹密、中位、稍粗略、粗略

偏位差　良、稍良、中位、稍不良、不良

精神機能の檢査

(三)　記憶力檢査

目的　記憶の種類は機械的と論理的とに分れ、こゝでは機械的記憶を檢査する。而して實驗回數に依り、反覆効果の著しいものと、然らざる特質が現はれる

用具　記憶力檢査器、整理用紙、メトロノーム、秒時計

觀察事項

用紙に現はれる型　昇進型、稍昇進型、中位、疲勞型、麻痺型

氣質　著實、稍著實、中位、稍放縱、放縱

(四)　選別力檢査

目的　形態の觀察と比較辨別による推理判斷能力を檢査する

用具　選別力檢査器、秒時計

觀察事項

作業狀態　沈着、稍沈着、中位、稍性急、性急

決斷、稍決斷、中位、稍不決斷、不決斷

(五)　構成力檢査

目的　觀察と想像と工夫との綜合した能力を檢査する

用具　構成力檢査器、秒時計

觀察事項

作業狀態　組織的、稍組織的、中位、稍試作的、試作的

決斷、稍決斷、中位、稍不決斷、不決斷

集中性、稍集中性、中位、稍分散性、分散性

運動機能

(六)　作業速度檢査

目的　運動の敏緩、注意持續の良否等の綜合能力を檢査する。

用具　作業速度檢査器秒時計

觀察事項

作業狀態（叮寧、稍叮寧、中位、稍粗雜、粗雜
器用、稍器用、中位、稍不器用、不器用

（七）握力、力量檢査

目的　握力と力量（背筋力）とを別々に檢査する。

用具　握力檢査……スメドレー氏握力計（本器主要部）
力量檢査……本器全部

觀察事項

氣力　強、稍強、中位、稍弱、弱

體質　強壯、稍強壯、中位、稍繊弱、繊弱

（五）檢査施行後の感想

（一）視觸覺辨別力檢査

1　檢査成績優良者と劣等者の比較

優劣は知能と相關が高い樣に思ふ。

劣等者は觀覺に依る判別と視覺に依る入れ場所の選定が一致しない。

2　兒童の態度

大變に興味を持ち喜びて檢査を受く。

3　檢査者の注意すべき事項

イ、檢査に取かゝる前、メダルの數を調べること。

ロ、二個同時に持つもの、兩手を使用するものある故注意を要する。

（二）空間辨別力檢査

1　檢査成績優良と劣等者との比較

優良者は注意緻密で確信ある所迄行き提出する

巨離の觀念もはつきりしてゐる。

2　兒童の態度

眞面目に受檢した。

3　檢査者の注意すべき事項

採光に注意し兒童の向き方を一定しておく事。

（三）記憶力檢査

1　檢査優良者と劣等者との比較

優良者は計畫的に數字を記憶する。

劣等者は出鱈目に數字を言ふ樣に思はれ長時間を要した。

2　兒童の態度

非常に眞面目であるが多少畏怖してゐるものが見受けられた。

3　檢査者の注意すべき事項

兒童の精神を落付かしめる樣な言語態度が必要である。

檢査を繼續して中斷なき樣にする事が大切である。

（四）選別力檢査

1　檢査成績優良者と劣等者の比較

優良者は沈着で動作敏捷、頭と手がよく一致する。

劣等者は疲勞性もあり識別力が鈍い。

2　兒童の態度

興味を持ち努力するものと、感激性の乏しいものとある。

3　檢査者の注意すべき事項

終始一貫した態度で檢査する事が必要であるは勿論、檢査技術は檢査能率に多大の關係がある樣である

（五）構成力檢査

1　檢査優良者と劣等者の比較

優良者（觀察力が鋭敏に働き觀察正確　動作敏活で方法計畫的　決斷遲滯せず機宜に處置する）

劣等者（觀察輕卒なるが或は遲鈍にして不正確　動作緩慢で構成方法が場當り的　決斷遲滯して遲疑逡巡し、臨機應變の才能に乏しい）

2　兒童の態度

興味を持ち進んで受檢して自分の性能を試さうとする。

眞劍な態度で嫌忌する態度を見ず。

3　檢査者の注意すべき事項

最正なる態度を要する。

說明は明瞭に且つ全体に一樣になす事。

時間は嚴正に、兒童に疑懼の念を抱かしめぬ事。

檢査室の配置整理に注意を要する。

（六）作業速度檢査

1　檢査成績優良者と劣等者との比較。

優良者（七一本）――劣等者（三七本）

2　兒童の態度

興味の中に吾檢する。

3　檢査者の注意すべき事項

機械の取扱方に習熟して置く事。

(七)　握力力量檢査

1　檢査成績優良者と劣等者との比較

優良者（五九厘）――劣等者（一四厘）

2　兒童の態度

眞面目で數字が直ちに現はれるを以て興味をもつ。

3　檢査者の注意すべき事項

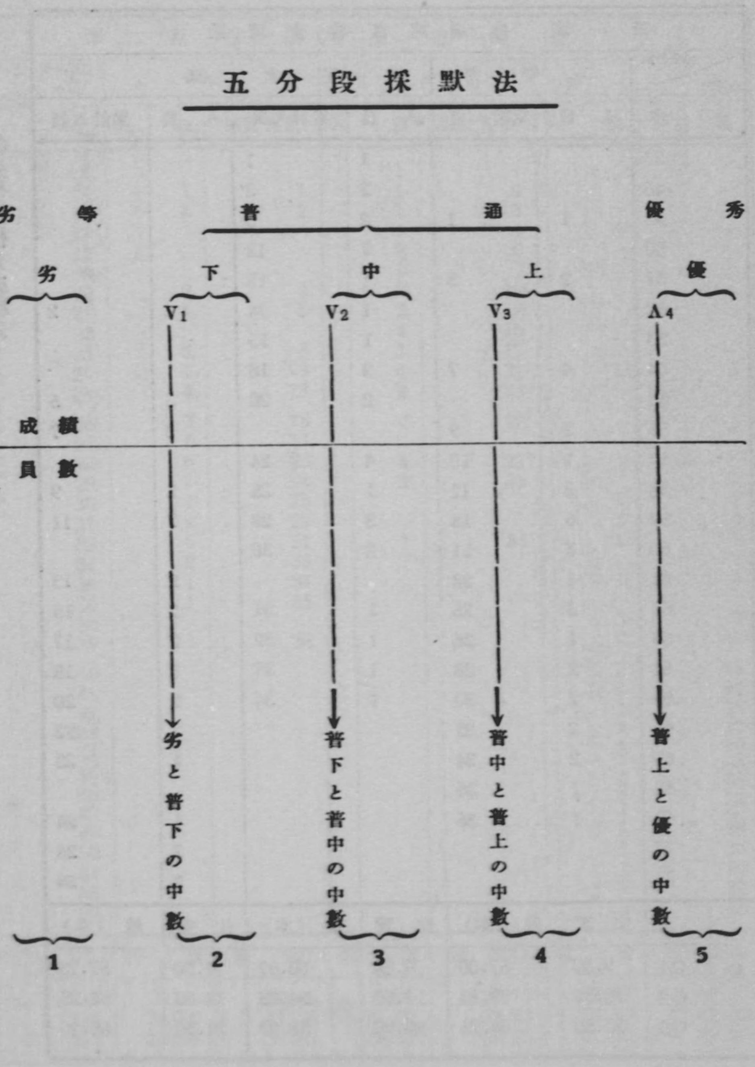
力量檢査に於いて臂及び腋を屈せぬ様に注意する。

握力計は握ると油ぎるからアルコールで一回毎に拭ふ事（衞生生方面より見ても必要）

(六)　受檢票の記入

各種檢査の採點法を參照し點數を記入し品等欄に書入れる。品等法は五分段採點法を取つてゐる。

五分段採點法



七、特殊性能檢査成績表

第一表　作業速度檢査統計

學年別 / 点(質)	二年男		二年女		商工	
本	人員	累計人員	人員	累計人員	人員	累計人員
37			1	1		
46			2	3		
48	1	1	2	5		
50			7	12		
51	2	3	1	13		
52			1	14	2	2
53			1	15		
54	4	7	3	18		
55			2	20	3	5
56	2	9			2	7
57	1	10	4	24		
58	2	12	1	25	2	9
59	6	18	3	28	2	11
60	3	21	2	30		
61	1	22			2	13
62	3	25	1	31	2	15
63	1	26	1	32	2	17
64	2	28	1	33	1	18
65	2	30	1	34	2	20
66	2	32			2	22
67	2	34			1	23
68	1	35				
69	1	36			1	24
70					2	26
71					2	28
	位置	値(本)	位置	値(本)	位置	値(本)
Q Q1	9.50	57.00	9.00	50.07	7.50	57.75
Q2	18.50	59.83	17.50	54.33	14.50	62.25
Q3	27.50	64.25	26.00	58.83	21.50	66.25

第二表　握力(右)檢査統計

學年別 / 点(質)	二年男		二年女		商工	
kg	人員	累計人員	人員	累計人員	人員	累計人員
14			1	1		
15	1	1	1	2		
16	1	2	1	3		
17			1	4		
18			2	6		
19			1	7		
20	2	4	3	10		
21	1	5	2	12		
22			4	16		
23	3	8	1	17		
24	1	9	4	21	1	1
25	4	13	2	23		
26	3	16	4	27		
27	1	17				
28	6	23	4	31		
29	1	24	2	33		
30	1	25			1	2
31	2	27			2	4
32	4	31	1	34	1	5
34	2	33				
35	1	34			1	6
36	1	35				
38					3	9
39	1	36			2	11
40					2	13
41					1	14
42					1	15
43					2	17
44					2	19
45					1	20
46					2	22
48					1	23
49					1	24
50					1	25
51					1	26
52					1	27
59					1	28
	位置	値(kg)	位置	値(kg)	位置	値(kg)
Q Q1	9.50	24.65	9.00	20.17	7.50	38.00
Q2	18.50	27.75	17.50	23.63	14.50	42.00
Q3	27.50	31.63	26.00	26.25	21.50	46.25

第三表　握力(左)檢査統計

學年性別 / 点(貫)	二年男			二年女			商工		
kg	人員		累計人員	人員		累計人員	人員		累計人員
13				2		2			
15	2		2	1		3			
16	1		3	1		4			
17				3		7			
18				3		10			
19			6	3		13			
20	3		7	2		15			
21	1		11	6		21			
22	4		15	4		25	1		1
23	4			2		27			
24	2		17	2		29			
25	1		18	1		30			
26	4		22						
27	4		26	3		33	1		2
28	2		28	1		34			
29	1		29				2		4
30	2		31				2		6
31	2		33						
32	2		35						
34							1		7
35							1		8
36	1		36				2		10
37							3		13
38							4		17
40							1		18
42							3		21
43							1		22
44							2		24
45							2		26
49							1		27
53							1		28

		位置	値(kg)	位置	値(kg)	位置	値(kg)
Q	Q1	9.50	22.11	9.00	18.17	7.50	35.00
	Q2	18.50	25.63	17.50	20.92	14.50	37.88
	Q3	27.50	28.25	26.00	23.00	21.50	43.00

第四表　(其ノ一)背筋力檢査統計

學年性別 / 点(貫)	二年男			二年女			商工		
kg	人員		累計人員	人員		累計人員	人員		累計人員
30				2		2			
32				1		3			
33				2		5			
35				1		6			
36				2		8			
39				1		9			
47	1		1	3		12			
48				1		13			
49				3		16			
50				1		17			
51				1		18			
52	1		2						
53				2		20			
54	1		3						
56	1		4	2		22			
57				1		23			
60				3					
61	2		6			26			
62	1		7	1		27			
64	1		8	1		28			
66	1		9				1		1
67	2		11	1		29			
68	1		12						
69				2		31			
70	4		16						
71	1		17						
72	6		23	1		32			
73	1		24						
75	1		25	1		33	1		2
76	1		26	1		34			

第五表　視觸覺辨別檢査統計

學年性別 / 点(質)	二年男		二年女		商工	
分秒	人員	累計人員	人員	累計人員	人員	累計人員
1.40					1	1
50	1	1			2	3
2.00			1	1	4	7
10	10	11	5	6	9	16
20	5	16	8	14	4	20
30	9	25	6	20	1	21
40	5	30	5	25	4	25
50	3	33	2	27		
3.00	1	34	1	28	2	27
10			2	30		
20	1	35	1	31	1	28
30			2	33		
40	1	36				
50			1	34		

Q		位置	値(秒)	位置	値(秒)	位置	値(秒)
	Q1	9.50	133.50	9.00	148.75	7.50	125.55
	Q2	18.50	147.78	17.50	150.83	14.50	132.33
	Q3	27.50	150.00	26.00	170.00	21.50	156.25

第四表　(其ノ二)背筋力檢査統計

學年性別 / 点(質)	二年男		二年女		商工	
kg	人員	累計人員	人員	累計人員	人員	累計人員
78	2	28				
80	1	29				
82	1	30				
85					1	3
86					1	4
88	1	31				
90					1	5
92	1	32			1	6
93	1	33			1	7
94	1	34				
96					1	8
98					1	9
100	1	35				
101					1	10
103	1	36				
104					1	11
105					2	13
106					1	14
107					1	15
108						16
109					1	17
110					2	19
112					3	22
113					3	25
114					2	27
115					1	28

Q		位置	値(kg)	位置	値(kg)	位置	値(kg)
	Q1	9.50	66.75	9.00	39.50	7.50	96.00
	Q2	18.50	71.75	17.50	51.00	14.50	107.00
	Q3	27.50	78.25	26.00	60.50	21.50	112.33

第七表　記憶力統計

學年性別 / 點(臂)	二年男			二年女		商工	
點	人	員	累計人員	人	累計人員	人	累計人員
1							
2	4		4	2	2	3	3
3	4		8	7	9	7	10
4	5		13	3	12	3	13
5	6		19	7	19	5	18
6	2		21	4	23	1	19
7	1		22	1	24	3	22
8	5		27	3	27	1	23
9	3		30	1	28	1	24
10	2		32	2	30		
11	1		33				
12	2		35	3	33	3	27
13				1	34	1	28
14	1		36				

Q		二年男 位置	二年男 値（點）	二年女 位置	二年女 値（點）	商工 位置	商工 値（點）
Q	Q1	9.50	3.80	9.00	3.50	7.50	3.14
	Q2	18.50	5.42	17.50	5.30	14.50	4.80
	Q3	27.50	8.67	26.00	8.17	21.50	7.33

第六表　空間辨別檢査統計

學年性別 / 點(臂)	二年男			二年女		商工	
mm	人	員	累計人員	人	累計人員	人	累計人員
1						2	2
2	1		1				
3	1		2				
4				1	1		
5				1	2		
6						2	4
7						2	6
8	1		3			2	8
9				3	5		
10	1		4	3	8	1	9
11				2	10	1	10
12				2	12		
13				1	13	1	11
14	3		7			2	13
15						2	15
16	2		9	1	14		
17	1		10			1	16
18	5		15	2	16	1	17
19	4		19			2	19
20	2		21	4	20	3	22
21				1	21	2	24
22	1		22				
23	1		23			1	25
24	2		25	2	23		
25	1		26	1	24		
26	1		27			1	26
27				1	25		
28	4		31	2	27		
29	1		32		29		
33					31	1	27
				2			
35	1		33	2			
39	1		34		33	1	28
40	2		36	2			
43				1	34		

Q		二年男 位置	二年男 値（耗）	二年女 位置	二年女 値（耗）	商工 位置	商工 値（耗）
Q	Q1	9.50	17.00	9.00	11.00	7.50	8.25
	Q2	18.50	19.38	17.50	19.88	14.50	15.25
	Q3	27.50	27.63	26.00	28.00	21.50	20.33

第八表　（其ノ二）選別力檢査統計

學年別 / 點(貫)	二年男		二年女		商		工	
分秒	人員	累計人員	人員	累計人員	人員	累計人員		
16	2	23	2	27				
17	1	24						
18	2	26						
19					1	24		
20			1	28				
21					1	23		
23			1	29	1	24		
24	1	27	1	30				
27			1	31				
28					1	25		
32			1	32				
33	1	28						
34					1	26		
35			1	33				
37	2	30						
45	1	31			1	27		
49	1	32						
53	1	33						
54	1							
55	1							
56					1	28		
57	1	36						
2.30			1	34				

Q		位置	値（秒）	位置	値（秒）	位置	値（秒）
Q	Q1	9.50	63.00	9.00	57.50	7.50	54.00
	Q2	18.50	73.75	17.50	68.25	14.50	64.00
	Q3	27.50	93.00	26.00	76.00	21.50	79.00

第八表　（其ノ一）選別力檢査統計

學年別 / 點(貫)	二年男		二年女		商		工	
分秒	人員	累計人員	人員	累計人員	人員	累計人員		
40					1	1		
41					1	2		
43			1	1				
44					1	3		
46					1	4		
47			1	2	1	5		
48					1	6		
49	1	1			1	7		
50			1	3				
52			1	4				
54	1	2	2	6	1	8		
55	2	4			1	9		
56	1	5	2	8				
57			1	9	1	10		
58	1	6	2	11	2	12		
59	1	7						
1.00			1	12				
2	2	9	2	14	1	13		
3	1	10	1	15	1	14		
4						15		
5					1	17		
6	1	11	1	16	2			
7			2	18				
8	3	14	2	20				
9			1	21				
						18		
10	1	15	1	22				
11	2	17	1	23				
13			1	24				
14	1	18			1	19		
15	2	20	1	25	2	21		

第九表　構成能力檢査統計

學年別 / 點(實)	二年男 人員	二年男 累計人員	二年女 人員	二年女 累計人員	商 人員	商 累計人員	工 人員	工 累計人員
分 秒								
1.50	1	1						
2.00							1	1
10	4	5					2	3
20	1	6					1	4
30	1	7	1	1			2	6
40	1	8					3	9
50	1	9	3	4			2	11
3.00	2	11	1	5			2	13
10	4	15	3	8			2	15
20	3	18	1	9				
30	3	21	1	10			1	16
40	2	23	1	11			2	18
50	2	25	2	13			1	19
4.00	1	26	2	15			1	20
10	3	29	6	21				
20	1	30	1	22			1	21
30			1	23			1	22
40			1	24			2	24
50								
5.00			1	25				
10	2	32					2	26
20			2	27				
30								
40								
50								
6.00	1	33						
10	1	34						
20	2	36	1	28				
30								
40			2	30				
50			1	31			1	27
7.00			2	33				
8.20			1	34				
10.50							1	28

Q		位置	値（秒）	位置	値（秒）	位置	値（秒）
	Q1	9.50	177.0	9.00	205.0	7.50	170.0
	Q2	18.50	206.7	17.50	249.2	14.50	202.5
	Q3	27.50	250.0	26.00	380.0	21.50	260.0

以上實施したる個性調査と職業心志との照合を試みて兒童各自に適職の發見をなさしめると同時に、教師としての見解の綜合をなし、更に身体的方面の考慮から其の避くべき職業を教へ適業に就かしめ、希望、特性共に適職と認め得る者には斷定を與へ、眞に自己の職業を喜び産業報國の精神に燃ゆる人間を實社會に送出せんとするものである。

三、職業的方面

1　希望職業に關する調査

イ、希望職業調査

學校を卒へたる兒童をして、適切なる職業に就かしめることは、學校教育の最後を飾る重要なる教育事項として缺くべからざるは論を俟たない。その職業指導に當りて先づ卒業學年の兒童に付いて希望職業を調査し、その希望職業が、該兒童の性能に適するや否や、家庭の狀況に適合するや否や、身体精神家庭の三方面に互りて、教師之に見解を附し、その結果により、或は父兄と懇談をなし、或は性能檢査をなさしめ、又時には該兒童に忠告を與ふる等の教育的處置を行ふのである。

而して本調査は卒業學年に於いて二回之を行ひ、希望職業の變更する傾向等をも考察し其の適否の指導に資せ

んとするのである。左に其の調査票をかゝぐ。

希望職業調査票

（第　回）昭和　年　月　日

第　學年	氏		
第　學級	名		年　月　日生
希望職業	希望職業名		保護者及續柄
	本人		
	父兄		
希望職業ノ理由	就職地	松任町縣内　關西方面　關東方面　其他（　）	
	勤務通勤	住込　何レニテモ可	
	職務	工場部　販賣部　事務　其他（　）	
	條件	待遇給料（　）　修養機會（　）	
	項	家計補助ノ要否	
		將來ノ希望	
就職機會	家業ニ從事	學校紹介希望	
	進學希望（學校名）	緣故紹介　其他紹介（　）	
父兄	父ノ職業ト勤先		
	母ノ職業ト勤先		

兄ノ職業	兄ノ職業ト勤先		
	姉ノ職業ト勤先		
	其他		
教師ノ見解	身体ノ狀況ニヨリ		
	精神狀況ニヨリ		
	家庭ノ狀況ニヨリ		
處理	父兄トノ懇談ノ要否	性能檢査ノ要否	
	本人ヘ忠告ノ要否		
	就職契約濟　昭和　年　月　日	就職未契約	
備考			

ロ、希望職業深究調査

前項の希望職業調査によりて兒童の將來なさんとし又は成したき職業が決定するに付き、それにより、兒童各自に對し、左記調査票を配布し、自發的に深究調査せしめ、以て兒童をして希望職業に對する知識を豐富にし、趣味を喚起し、將來職業人として職業報國の誠を致す一助たらしめたい。

希望職業探究調査票

所在地	職業名	調査者 學年氏名	仕事の順序等	仕日事の分量	給料手當等			仕事をする時間				原料は仕入れるか	販路は面どの方か
					一ヶ月（一年或は一日）何程か	何時給料があたるか	其他年末年始盆祭等に手當等あるか	午前 時から 午後 時まで	休の時間があるか 何時どれだけあるか	夜業 午後 時から 午後 時まで	手あてはあるか どれだけあるか		

一何人年前位とかなゝるにはかるか	身影体響にがどあんるなか	其他事氣項のついた

將來發展する方面	どんなとすると人思がふ適か	讀書何時の時間がどれだけあるか

ハ、希望職業調査に伴ふ統計表

（一）在學兒童希望職業統計表

本校高等科第二學年及商工青年學校生徒合計一七九名の希望職業調査の結果、就職戰線に立てる少青年の希み希望の傾向を示せるものとして深き意義を藏するものと思惟する。

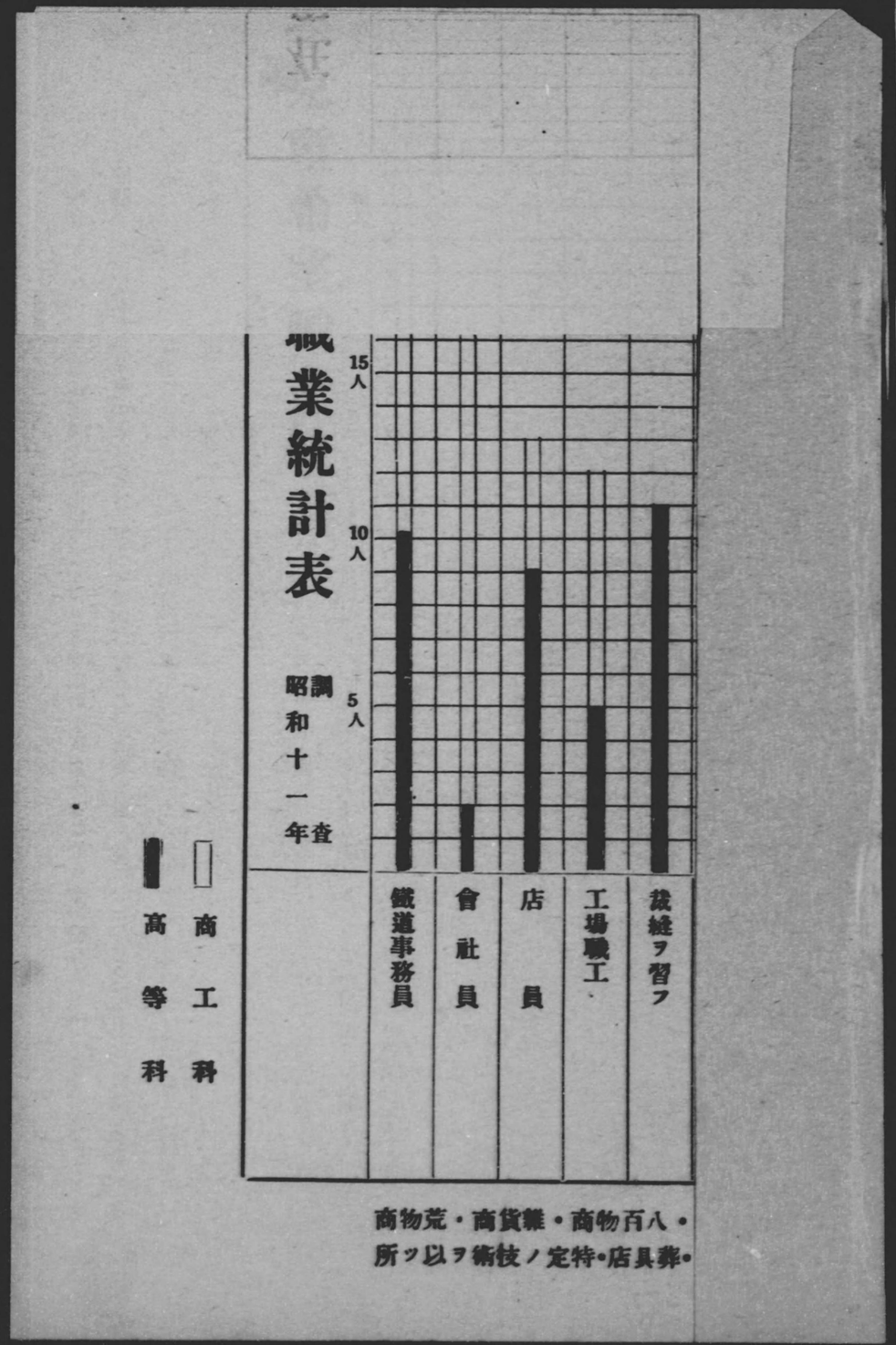
（二）在學兒童選職理由別統計表

本統計によれば、兒童は選職するに當りて如何なる理由の下に之をなせしやを明瞭ならしめてゐる、之により て觀察するに、本人の希望が最大なるは將に卒業期の兒童が、就職に關する關心を有し、父兄また本人の意志を 尊重して希望に添ふ職業に就かしめんとする社會的傾向の實際を伺ふことが出來る。其の他、此の如くに觀る時 は幾多の教育資料を投じてゐるのである。

（三）在學兒童希望職業變更理由調査統計表

本統計によれば兒童が希望職業を變更する原因の奈邊にあるを關知し得るのである、而して前統計表と比較す るに、前者は本人の希望が最大なるに反して後者は父兄の意志の最大なるを觀る、この一項について觀るも、卒 業期の兒童の家庭に於ける、就職に關する、本人、父兄の意向の奈邊にあるかを知るの一助たり得ると信ずる。

左に三統計表を掲ぐ。



在學兒童希望職業統計表

調査　昭和十一年

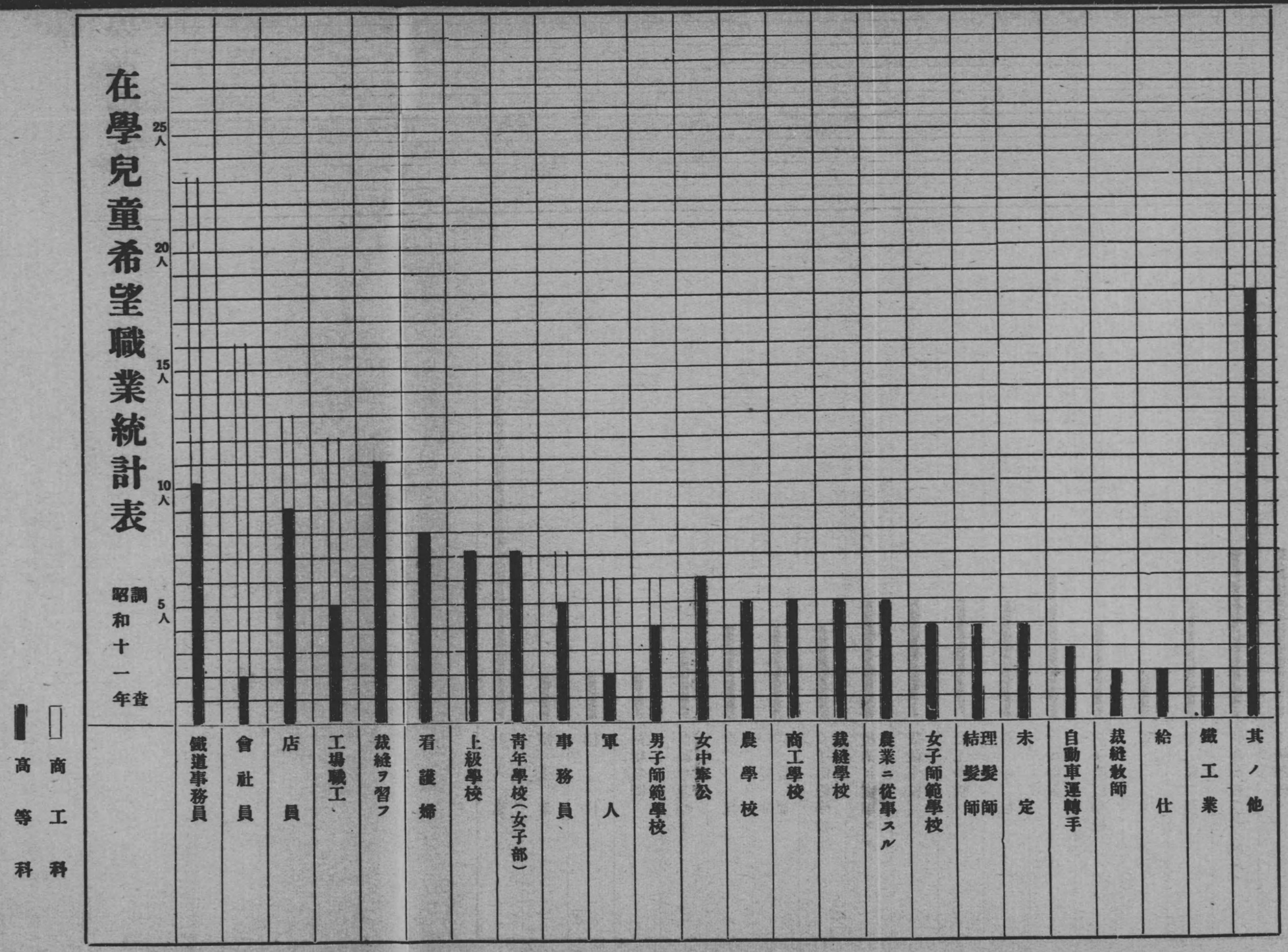
25人
20人
15人
10人
5人

鐵道事務員
會社員
店員
工場職工
裁縫ヲ習フ
看護婦
上級學校
青年學校（女子部）
事務員
軍人
男子師範學校
女中奉公
農學校
商工學校
裁縫學校
農業ニ從事スル
女子師範學校
理髮師
結髮師
未定
自動車運轉手
裁縫敎師
給仕
鐵工業
其ノ他

□ 商工科
■ 高等科

在學兒童希望職業統計表

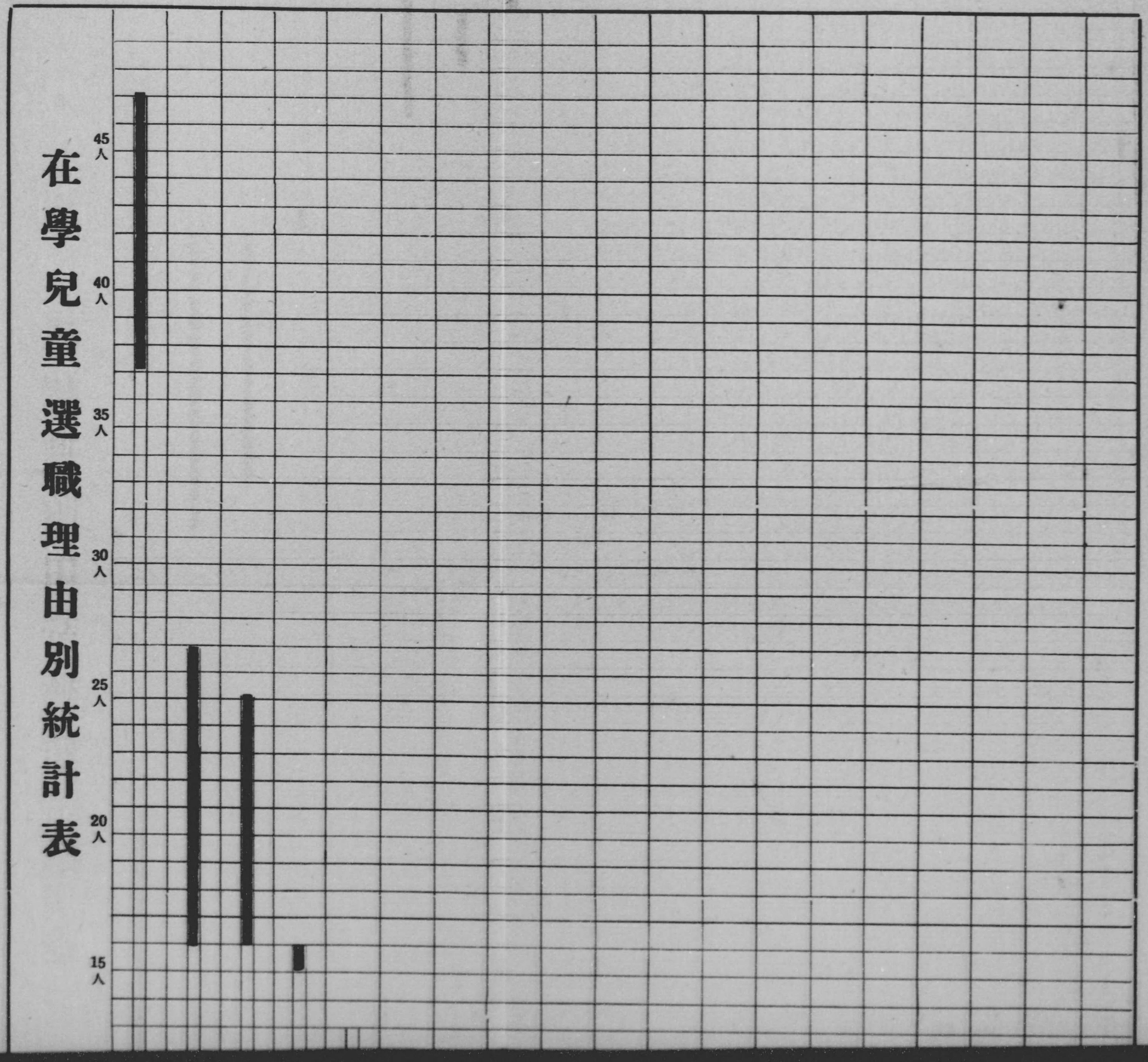
調査 昭和十一年



商物荒・商貨雜・商物百八・職物指・業ンシミ・職立仕・商具雨・師計時・職キリブ・商穀米・商子菓・商物履・業濯洗　他ノソ
所ッ以ヲ術技ノ定特・店具葬・所ル來出ノ營經立獨・工職廠工軍海・兵空航軍海・工書禪友・商糸・職工大・職器漆・商疊

工業科カラ商業

在學兒童選職理由別統計表



職理由別統計表

昭和十一年調査

30人
25人
20人
15人
10人
5人

本人ノ希望	父兄ノ意志	自己ノ身体ノ適不適ヲ考慮シテ	家業ヲ繼グタメ	家事手傳	將來ヲ考慮シテ	家庭ノ都合上	兄弟同所ニ働ク	自己修養ノタメ	裁縫練習	行儀見習	知人・親類ノ世話	家政ヲ助ケルタメ	自己ノ趣味ヨリ	才能、技術方面ヲ考慮シテ	現住所ニ近イタメ	適職ヲ見出セヌ故	月給取ヲ好マヌ故	工業科カラ商業ヘ變更シタル故
25	24	15	3	11	10	8	6	3	2	1	5	2	4	3	1	1	1	1
0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

高等科
工科商

試験ノ結果ヨリ

在學兒童希望職業變更理由調査統計表

15人
10人
5人

昭和十一年調査

兒童希望職業變更理由調査統計表

昭和十一年調査

15人
10人
5人

父兄ノ意志
本人ノ希望
自己ノ身体ノ適不適ヲ考慮シ
自己修養
家庭ノ都合上
自己ノ才能ヲ考慮シ
家業ヲ繼グ
家事手傳
父兄反對
長男デアル故
働ク事ニ意義ヲ見出シ
成績ノ結果ヨリ
先輩友人ノ言ヨリ
將來ノタメニ
試驗ノ結果ヨリ

■ 高等科
□ 工商科

2　就職者調査

尋常科及び高等科を卒業し進學就職せる者が現在如何に就職し居るやの調査は兒童進路開拓の上に將又選職、進學の上に好參考を齎らすものなるのみならず、職業指導網と相俟つて補導目的を達成する上大なる力あるものとして年度毎に調査し、卒業者の消息を充分にすると共に一方失業に惱む者に對しても相談に應ずる。

尋卒進學兒童の就職現在

性別	職業	年度	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女
			六年度	七年度	八年度	九年度	十年度	六年度	七年度	八年度	九年度	十年度
	店員たるもの		九	五	五			一	五	二		
	會社事務員たるもの		三	一	六				一	一		
	工場等に職工たるもの		一	三	四			工女 二	二	三		
	家業自營のもの		五	四	四							
	農業に從事せるもの		一	一	一				二	二		
	軍人たるもの											
	鐵道員たるもの		一	三				一二	一七	三五	一八	一八
	在學中のもの	中	二〇	三六	三二	二七	一一				三一	三五
	其の他の職業に從事せるもの	高	一	二		三七	四五	一	四			
	病氣療養中のもの									一		
	死亡せしもの		三	一				四		一		

性別	職業	年度	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女
			六年度	七年度	八年度	九年度	十年度	六年度	七年度	八年度	九年度	十年度
	不詳		三	二	二	二		三	一	一		
	家事手傳							四	一〇	三	一	
	裁縫刺繍見習中のもの							一七	七	二		
	下男、女中たるもの									一		
	看護婦たるもの							四	一	二		
	教員たるもの											
	見習工たるもの		四	一〇	五							
	計		五一	六八	五九	六六	五六	四八	四九	五四	五一	五三

尋卒就職兒童の現在

性別	職業	年度	男	男	男	男	男	女	女	女	女	女
			六年度	七年度	八年度	九年度	十年度	六年度	七年度	八年度	九年度	十年度
	店員たるもの		一	一	一							
	會社事務員たるもの											
	工場等に職工たるもの											
	家業自營のもの											
	農業に從事せるもの		二		一							
	軍人たるもの											
	鐵道員たるもの											
	在學中のもの							工女 四	四	七	三	一
								一	一			

其の他の職業に從事せるもの						一	一	一	一	
病氣治養中のもの										
死亡せしもの	一					一	二			
不詳	三	三				五	一	一	一	
家事手傳					一		三	一	二	三
裁縫刺繍見習中のもの										
下男、下女たるもの		一				二	四	一		
看護婦たるもの										
教員たるもの										
見習工たるもの	三	一	三		二					
計	10	三	八		三	一三	一五	二	七	四

高卒進學兒童の就職現在

職業＼年度	男 六年度	男 七年度	男 八年度	男 九年度	男 十年度	女 六年度	女 七年度	女 八年度	女 九年度	女 十年度
店員たるもの			二							
會社事務員たるもの	一	三	二							
工場等に職工たるもの		一								
家業自營のもの	二	二								
農業に從事せるもの										

軍人たるもの										
鐵道員たるもの		一								
在學中のもの	一	三	六	一五	一二			四		一八
其の他の職業に從事せるもの	二	三	一							
病氣保養中のもの										
死亡せしもの	一		一	一				一		
不詳										
家事手傳						一				
裁縫刺繍見習中のもの										
下男下女たるもの										
看護婦たるもの										
(諸業)見習工たるもの		一	一	二						
教員たるもの		一								
計	七	一五	一三	一八	一二	一		五		一八

高卒就職兒童の現在

職業＼年度	男 六年度	男 七年度	男 八年度	男 九年度	男 十年度	女 六年度	女 七年度	女 八年度	女 九年度	女 十年度
店員たるもの	五	三	五	四	二		一	一	四	二
會社事務員たるもの		二	四		六		二		一	一

						女工				
工場等に職工たるもの	一	一	二	四	四	一	三	三	一	一
家業自督のもの	一〇	二	六	三	四					
農業に從事せるもの	一	二	二	一	一	一	一		二	二
軍人たるもの										
鐵道員たるもの				二						
在學中のもの										
其の他の職業に從事せるもの	一	一				三	一	一	四	
病氣保養中のもの										
死亡せしもの	二		二			四	二	二		
不詳	三		二		一	一	一	五		
家事手傳						九	二	四	八	三
裁縫刺繍見習中のもの						二	一	一〇	八	三
下男下女たるもの						二				
看護婦たるもの						一	二	四	一	二
見習工たるもの（諸職業）	七	四	五	九	五					
計	二〇	一五	一八	二三	二三	二四	一六	二〇	二九	一四

3　兒童省察錄

「汝自身を知れ」とは吾人の生活行爲の出發點が玆にあることを喝破せるもので兒童教育に當るもの先づこの點に着眼すべきである。特に、卒業期の兒童に於ては先づ自已を省察し、凡そ自己性能の如何を知らしめると同時に深き反省をなさしめ、更に自已を環る家庭及社會の實相を洞察すべく訓練し以て、兒童各自の將來の目標たるべき職業選擇への根本依據たらしむるべきである。本校にてはこの精神により高等科は勿論のこと商工青年學校にも延長して自己省察、自己性能と反省、環境省察の三者に分ちて實施し以て所期の目的達成に務めてゐるのである、今其の記載形式を示せば左の如くである。

自己省察錄

1　身体狀況

		身長	体重	胸圍	概評	視力	聽力	背柱
高一（　）	全國平均							
	1							
	2							
	3							
高二（　）	全國平均							
	1							
	2							
	3							
商工一（　）	全國平均							
	1							
	2							
	3							
商工二（　）	全國平均							
	1							
	2							
	3							

（体格）

生理					疾病異											
体温	脈搏	呼吸	血壓	榮養	眼疾	耳疾	齒	發育	皮膚病	脚疾	風邪	胃腸	貧血	心臓病	嗅覺	色盲

狀						其の他	
日射病	充血	テンカン	メマヒ	現在病	既往症	運動の選手	好む遊戯

2 反省

	○自分はほんとうに健康か否か（不健康の原因）	○健康上誰かに相談の必要あるか	○健康を保つ上にやめねばならぬことはないか
高一			
高二			
商工一			
商工二			

○健康を保つ上にどんなことをなさねばならぬか	
○自分の体の特にすぐれてゐることはないか	
○自分の体の特に劣つてゐることはないか	

自己性能と反省

學業		成績は級中の上中下の何れか	好きな科目	嫌な科目	勉强の習慣規則的か間歇的か	愛讀書	將來努力を要する科目	就職した職業に必要な科目	其の他				
高一	1												
	2												
	3												
高二	1												
	2												
	3												
商工一	1												
	2												
	3												
商工二	1												
	2												
	3												

	性質												才能
	正直 強弱	良心的	信頼さるべき性	個人的習慣	機敏	能率的	分別	清潔	忍耐	研究心	器用		

環境省察

	高一	高二	商工一	商工二
家庭の狀況				
家業狀族と態の健職康				
家風				
宗教				
生活程度				
職業希望				
遺傳				
其の他				
社會との				
近所の職業				
惡い影響を及ぼす職業				
よい感化を受けてゐる職業				
友達				
家の職業				
學力程度				
健康狀態				
長所				
短所				

關係					總括		
職業的經驗				其の他	職業の選擇		
場所	時	給料	仕事の種類		知的職業	商業的	產業的

4 勤務及就學狀況調査

雇傭者及上級學校宛左記書式に依り勤務及就學狀況の調査を爲し補導の便に供す。

謹啓 秋冷相催候處貴店益々御隆昌之段奉賀候

陳者此度職業指導の見地より本校出身就職者勤務狀況調査をなし度候間御多忙な折甚だ御迷惑には候へども貴店に奉職する　につき左記事項御記入の上御返信被下度此之段御願申上候

昭和　年　月　日

松任小學校職業指導相談部

商店
會社　御中

勤務狀況調査

雇主	氏名		被雇者	氏名	
	住所			父母ノ住所	
	職業			卒業又ハ修了	昭和　年　尋常／高等／商工　年卒業修了
勤務狀況	勤怠				
	素行				
修養ノ心掛					
趣味、娯樂					
待遇	現在給料	小使　圓	手當　圓	物品	
	給料ノ使途				
本人ニ對スル總括的御意見					
學校ニ對スル御希望					
父兄ニ對スル御希望					

謹啓　高秋ノ候貴校彌々御隆昌ノ段邦家ノ爲大慶至極ニ御座候

陣者當校ニ於テハ此ノ度職業指導ノ見地ヨリ其ノ資料トシテ本校出身者就學、狀況調査仕リ度候ニツキ誠ニ御繁務中乍恐縮左記貴校在學生ニツキ御調査煩度御配意ノ程懇願仕リ候　敬具

昭和　年　月　日

松任小學校職業指導相談部

就學狀況調査

學校御中

擔任教師氏名				
就學狀況	勤怠			
	素行			
成績概況				
趣味、特技				
本人ニ對スル總括的御意見				
學校ニ對スル御希望				
父兄ニ對スル御希望				

生徒	住所		
	學校名　學年		
	氏名		

5　就職經過調査

就職者宛毎年七月末日を期し卒業後の經過を一齊に報告せしめ補導並に卒業兒童指導の便たらしめてゐる。

謹啓　益々御隆昌之段奉賀候陳者此度本校職業指導の見地より本校出身就職者經過調査をなし卒業期の兒童指導の便に共し度候問甚はだ御迷惑かと存じ候へども左記事項御記入の上御返信被下度此之段御願申上候

昭和　年　月　日

松任尋常高等小學校
松任町立商工青年學校

殿

I　就職經過調査

（適當の事項に○印を付して下さい）

1	卒業年度	昭和　年　月	尋常 高等 商工 修卒業
2	勤務先住所氏名		氏名
3	現存の職業		
4	健康狀態		
5	仕事の上で	イ、苦しいことは——	
		ロ、愉快なことは——	
6	主人、先輩同僚との關係	親切か（　　）仲が好いか（　　）不滿な点はないか（　　）	
7	待遇はどうか	休日（　　）給料の使途（　　）給料（最初（　　）現在（　　）其の他（　　）今後の見込（　　）	
8	修養狀態	青年學校（　　）夜學（　　）獨學（　　）修養科目（　　）	
9	主人に對する希望にないか		
10	在學中を反省してみて	社會に出て役に立つ學科は……學校に對して特に力を入れてほしい學科は……學科以外に力を入れて欲しいことは……其の他希望感想……	
11	誰の世話で現在の所に就職したか	學校、父兄、親戚、知己、友人、直接、口入屋、職業紹介所、其の他	
12	其の他		

II　轉職、失職調査

（適當の事項に○印を付して下さい）

1	勤務先氏名住所	
2	現在の職業	
3	最初の就職年月日	
4	轉機年月日	
5	轉職、失職	家事の都合で　勉强が出來ないため　病氣のため　他に好職業がみつかつたから　仕事が辛くて甚へられないため　就職する以前充分この職業の内容が分らなかつたため　其の他
	主家變更の原因	將來の見込がないため　不適職と思つだから　同僚との折合惡いため　主人との意見合はぬため　期待に反したため　主家が破綻したため　店運惡いため　待遇が惡いため

第二　鄉　土　調　査

兒童生活に最も關係深き鄉土に關して一般教育的方面と產業活動の方面と職業組織の方面とより現狀を明らかにし教育環境の正しき認識をなし、鄉土に即し鄉土の開發に力ある教育をなさんとす。

一、一般教育的方面

1　鄉土現勢調査

鄉土の沿革、位置、地勢、土地、戶口、教育、社會、會社組合、產業組合、生產總額、生產力、金融貯蓄、財產、町債財政負擔、吏員議員警備等につき統計調査せるものなり。

2　鄉土著名人調査

傳統繼承精神の涵養に當れる皇國日本教育當爲の方法として鄉土に於ける著名鄉土人を調査し其の人物功績等を忍んでこれを敬慕しせしめ、この精神を繼承して吾等も亦將來忠孝の大義に徹し皇國に何等か報ひ奉らざるべからずの立志指導の材となすを目的とする。

富樫氏の世臣にして二百貫文の采地を領す、建保年中富樫加賀之介鎌倉在番の節天變あり空中日輪二体顯れた

山　上　新　保　之　助

れば武勇の士に命じて之を伐たしむ加賀之助乃ち新保之助を選みて鎌倉公に薦む、新保之助鶴岡八幡に祈誓して惟物退治の功を奏せば故鄉に八幡の社を請して永く子孫をして祭祀せんことを祈る。

遂に惟物を退治して恩賞を得面目を施して松任に歸り後一社を建立し八幡を勸請し子孫永く祭祀せり今の若宮八幡神社即ち是なり。

天正年中石碑を建て山上氏の追福を修す今松任墓地に山上氏の墓とあるは之なり、明治二十年頃まで山上氏は當地の豪農なりしが今は金澤に移り本家分家ともに繁榮しありといふ。

千　代　尼

元祿十五年二月生

石川郡松任の人元祿十五年二月生る父を福增屋六兵衞といふ正德二年十一歲の時本吉町の北潟屋大眠の婢となり後又金澤の喜多村村雪翁の家に仕ふ。後松任に歸り酒造業相河屋武右衞門に仕へたり。この間千代は漸く俳諧に親炙するところありて十六歲の時支考の門に入れり。

享保十三年鄉土を出でゝ京に上り麥林舍乙由に舍し後髮を剃りて素園と號せり「髮を結ふ手の際明けて炬燵かな」と云へるはこのときの吟であるといふ。

享保十五年夏乙由來り千代の草庵を訪ひ同十七年秋近畿地方に遊び元文三年三たび京都に遊び、寶歷四年夏五十三歲にして普く近畿を遍歷したる後關東を經て奧洲に入り到る處知名の俳人と唱和し同六年九月家に歸る。さ

ざるものなし。

明和四年に至り又六十六歳の老軀を提げて山陰山陽兩道の舊友を尋ね明和八年三月より老衰の病に臥し遂に安永四年九月八日年七十四を以て歿す。

「月を見て我はこの世をかしくかな」

を辭世の句とす。

松任町聖興寺に其碑あり。

三　宅　橘　園

名を邦と言ひ橘園は別號なり、幼より頴敏にして八、九歳の時より和歌及び詩を作る。父は祐意といひ、其先備後守高德の裔にして七世の祖亂を避けて松任に住せり、車を以て姓とせしが祐意の時三宅と稱したり。橘園諸般の學藝に達し十三の時文詩三百余首あり、學宋儒の究理に偏執せず自ら大いに發明する所あり。

天明八年京都に遊び、意に滿たざる所あり鄕に歸り享和三年再び京都に出で皆川淇園に學ぶ、文化八年韓使來朝せしかば對馬に赴き其學士と筆談唱和し、直に長崎に至り學び明年京都に歸れり。

此時名聲大に顯れ來り教を受くるもの一千余人ありしと傳へらる。

文化七年九月病を以て京都に歿す年五十三文景と謚す。遺骨は三宅氏累代の墓地に葬る。

著書には

孝經解、中庸解、論語拔萃、禮記拔萃、論語定書、詩學訓結、薄遊謾載、鷄林清盟、助語審象、虛字解、西遊筆騰、孝應錄、聖學綱、左傳發揮、左園雪寃、莊辨疑、讀史及び雜文二百余編詩數百首あり。

無　城　秋　雪

名を冲といひ秋雪は號なり、始め松確と號す、幼より書を好み、安政五年京に入り大解院に依り劉石舟冷窓爻子を師として漢學を修む亦た書を東山義亮に學び頗る技を進む既として中西耕石に從ひ對石、香谷、宮原節庵、神山陽鳳等と親しくす。歸りて家に居ること數年維新の時東京に遊び大槻盤溪、成島柳北等と交り得る所あり、明治七年長三洲の門に入り同年前田侯に仕ふ、曾て甲斐及び越後に遊び明治十三年備前倉敷に寓し次で紀伊、伊勢、讃岐、伊豫、阿波等を歷遊して故山に歸る明治三十五年再び備前倉敷に遊び三十九年山梨縣甲府市にて歿す年六十七

宮　本　賴　三

天保四年九月生

信誠寺順教の四男文久元年より豊後國日田郡の儒者廣瀨範治に就て漢學を修む。

慶應元年長崎に遊び洋學を修め同二年加賀藩の依頼にて猶る龍丸歸藩の節御雇にて三等上士應接方仰付けられ明治二年四月外務省權大錄に任ぜられ同年九月樺太へ出張せしが病氣の爲東京に歸る、明治十三年府縣制實施に際し大多數を以て東京府會議員に當選したれども後輩を擧ぐるの意を以て辭退明治十五年府會議員半數改選に際し再び大多數を以て當選せしが是亦後輩に讓りて辭退明治十七年改選に際し東京府郡部の利害關係上郡民の推

所となり亦々大多數を以て當選直に常置委員（參事會員）に擧げらる明治二十年東京府郡部會議長に擧げらる以後明治三十年まで引續き當選郡部會議長及び常置委員となる。是り先明治十二年以來同十四年日本鐵道株式會社の創立せらるゝや林賢德氏と共に四方に奔走盡力し終に其功を奏す。

東京市飲料水の關係上多摩川水源を東京府の管内たらしむるを得策とする事を主張し明治二十四年より同二十五年に亘り八王子其他南、西、北、三多摩郡に出張奔走盡力したる結果内務省は三多摩を合併す。其他明治十八年全國茶業組合の組織に斡旋盡力し選ばれて之が幹事となり東京府茶業組合の會長となり命終るまで盡力す。

大正二年十一月二十四日茶業組合創立三十年記念大會を開くに當り組合より盡瘁したる功績を追賞せらる。

明治三十八年六月三十日歿す享年六十四

維新の際岩倉公の知遇を受け朝廷と加賀藩との間に介して能く其の使命を全うし加賀藩の勤王家として隱然重きをなしたり。

三　須藤蘭溪

名を甚兵衞といふ幼より書を好みて彩筆に親しむ、村上松堂招かれて加賀藩に來るや之に就いて學ぶ。松堂蘭溪の妹を娶りて妻とせり故に熱心に蘭溪を指導せり。

松堂藩を去り伊勢、尾張等に遊ぶや蘭溪も之に從ひて遊べり、故に蘭溪の書は多く名古屋、桑名地方に存在するもの多し。

當所の若宮八幡神社の正面の奉額は蘭溪の筆なり。

文化十一年病みて年六十二にして歿す。

茂ヶ松藤吉

寛政年間の力士なり、江戸に上り小結に進みたり曾て長崎に至りし時大關鼓ヶ嶽を破り蟠なくも年論起り藤吉怒つて四本柱を引抜きて持歸りたりといふ。今本校々庭に墓あり、此墓は其弟茂ヶ藤又八（幕下五枚目まで進みたれども病の爲めに鄕に歸り遂に起たず）の墓と共に八ッ矢三昧にありしものにして最初は一里塚の麓にありて兄弟の墓並び建てられありて、昔角力取の往來するもの大關と雖墓の前にて必ず下馬して通りたりと云ふ。

石川縣石川郡松任町字安田町三番地

鍋治吉

明治二年十月十二日生

天資慧明にして事に當るや摯實なり明治二十二年石川縣師範學校を卒業し直に美川小學校訓導に任ぜらる、二十七年學事視察を兼ね東山東海北陸の十數縣を巡回して得る所少からず、三十一年一木小學校長兼訓導に任ぜられ三十二年奈良、兵庫、岡山、廣島地方の學況を視察して歸り直ちに松任校の校長となる。

三十三年石川縣より學校用圖書審査委員を命ぜられ同年より大正二年に至る間郡立小學校教員養成所講師を命ぜらる、三十九年朝鮮滿洲地方を視察して戰跡を弔ふ翌年町立農工商業補習學校訓導兼校長の任を兼ね後郡立圖書館圖書委員町村學務委員郡教育諮問會員地方各團体の役員、青年團長、私設圖書館長等を勤め何れも至績あり。

明治三十七年石川縣は大日本人名辭書、日本大辭林、實用帝國地名辭典康熙字典及硯箱等を贈りて功を賞す四十三年文部省は日露戰役中の勤勞を表彰し、四十四年更に小學校教員功績狀を贈りて感化育成の偉勳を選奬し石川縣また百五十金を贈りて是に倣ふ。其他各種團体の褒狀賞牌を以て盡瘁の勞を謝せしもの幾回なるを知らず。

氏は頭腦頗る明晰加ふるに研學一日も怠らず、且各地を漫遊經歷して見聞甚だ廣きが故に敎化指導の効果徹底し其敎室に立つや懇切にして義理明白なり校の内外總てその學殖と人格に景仰し德望靡然として一身に集る、松任校の校風四隣に高く呼んで模範學校となす。

正八位勳八等に叙せらる。大正九年九月二十九日五十二歲を以て歿せらる。

松任町字東一番丁

松本白華

天保九年十二月生

名は嚴護、字白華、梅隱と號す、書を宮原節庵に學び後廣瀨旭莊につき漢學を修む明治五年東京に出で長三州につきて學ぶ明治九年大谷派法主光瑩上人に隨ひて印度に渡り詳さに佛蹟を探究し支那、朝鮮を歷遊して歸る。漢學の造詣深く詩文及和歌に長じ書をよくし墨蹟を書く、識見甚だ廣く好んで人と語る、嘉永元年得度してより累進して僧正となり大谷派の耆宿にして曾て遙及社を起し其社長として地方僧侶の子弟を敎養し僧風靡然として革まり、又宗學を講ずるや議論正しくして平易なり講ずる所の書三百余種に及ぶといへり。

大正十五年八十九歲の高齡にて歿せらる。

原籍地　松任町字東一番丁二番地

現住所　東京市杉並區高圓寺町六六五

朝鮮江原道鐵原外村里

金剛山電氣鐵道株式會社々長

金鷄間祇候從三位勳三等

工學士　岡本桂次郎

慶應三年十一月十七日生

立ㇵ青木六郎氏の次男慶應三年十一月松任町東一番丁に生る。

明治十三年五月岡本家の養嗣子となる。

明治二十四年工科大學に入り二十六年七月特待生となり、二十七年七月成績優良を以て卒業す。

同年七月電話交換局技師に任じ高等官七等に叙せらる。

同年十一月從七位に叙せらる。

同年十二月遞信技師兼東京郵便電信學校敎授に任ぜらる。

同年同月神奈川縣電氣事業監督を囑せらる。

二十八年六月臨時臺灣電信建設部技師を兼任す。

同年十月官命を帶びて英國に渡り專門の事業を視察す。

二十九年三月更らに米國へ渡り遞信事業を視察せり。

明治三十年八月官制改正と共に通信技師兼遞信技師臨時臺灣電信建設部技師に任ぜらる。

同三十一年四月正七位に叙せられ、九月福岡電話交換局長兼赤間關交換局長を命ぜられ、同年三月高等官六等に叙せられ、

同三十三年三月門司電話交換局長兼務に任じ、六月高等官五等に叙せられ、同月熊本電話交換局長兼務に任じ、同年十一月正六位に叙せらる。

同三十四年六月警察電話技師を囑托せられ、八月更らに警察電話所新設工事設計を囑托せらる。

同三十五年三月京都電話交換局長に任じ、十月京都帝國大學理工科大學講師を囑托、十二月高等官四等に叙せらる。

同三十六年四月官制改正と共に更通信技師に任じ、高等官四等に叙せらる。京都郵便局工務課長を命ぜらる。

同年四月正六位に叙せらる。

明治三十七年二月滋賀縣警察電話架設に付設計及工事監督を囑托せらる。

同三十八年二月京都郵便局監理課長心得を命ぜられ韓國出張を命ぜらる。

同三十九年一月統監府通信官署官制の施行さるゝや統監府技師に任じ高等官三等に叙せらる。統監府通信管理局工務課長に任ず、三月從五位に叙し四月勳五等に叙し瑞寶章を授けらる、同時に金七百圓を賜ふ。十一月一級俸を下賜せらる。

同四十年四月統監府所屬官署技師官等給與令施行に付二級俸下賜せらる。

同四十年九月韓國皇帝より贈與したる韓國皇太子殿下嘉禮紀念章を佩用することを許さる。

同四十一年十二月明治四十年、四十一年韓國暴徒鎭壓の功により金百拾圓を賜ふ。

同四十三年十月朝鮮總督府通信官署官制施行に付朝鮮總督府技師に任じ、高等官三等に叙し、總督府通信局工務課長を命ぜられ年俸三千五百圓を賜ふ。

同四十四年四月通信局電氣課長を兼ね四月正五位に叙せられ七月高等官二等に叙せらる。

同四十五年四月朝鮮總督遞信官署官制施行に付朝鮮總督技師に任じ高等官二等に叙せられ、遞信局工務課長兼電氣課長を命ぜらる、六月勳四等に叙し瑞寶章を授けらる。

大正元年七月從四位に叙し十一月大禮紀念章を授與せらる。

同五年七月日獨事件の功により勳三等旭日の綬章及金一千圓を下賜せらる。

大正十二年官職を辭し目下朝鮮總督府經濟調査委員として朝鮮開拓に盡力せらる。

修　業＝松任小學校―育英社―東京帝大卒業。

生立＝は詳細記せるが如し、資性溫厚にして華飾を嫌ひ人に處するに謙其務を執るや忠實なるが故に部下悉く心服し鄕黨悉く羨望す。

個人的＝溫厚にして謙遜多藝多能にして、氏にして全不能といふものなきが如し。

鄕土的、社會的　頗る同鄕人を愛し石川縣人の朝鮮に活躍する人にして氏の眷顧を蒙らざるものなしと言ふも可なり。

田中與三右衞門氏の男三郎氏を養ひ子とし名を圭三と改む前朝鮮統監曾猶荒助氏はその名親なりといふ以て氏

の人望ありしを知るべし。

國家的‖氏の國家的業蹟は今玆に縷々述ぶるまでもなく、前述の生立の所を一見することによりて知るを得べし。

氏の今日の榮位を得たるは全く其生命を國家に捧げてつくしたる所によるは言をまたざるべし。

原籍地　石川縣石川郡松任町字古城町
現住所　東京市世田ヶ谷區松原町二ノ七一〇

陸軍少將　松本勇平

生　立‖松任町字古城町現女學校所在の所に生る。明治十年十一月二十三日生

修　業‖明治二十四年五月松任高等小學校卒業

同三十二年陸軍士官學校入學試驗に合格士官候補生となり

同三十四年陸軍士官學校卒業

職　業‖明治三十五年砲兵少尉任官爾後將校として累進し、昭和六年陸軍少將に進み同年八月現役を退き豫備役とならる。

國家的‖日露戰役及西比利亞戰役に從軍し粉骨碎身國家の爲に盡さる。

原籍地　石川縣石川郡松任町字中町
現住所　東京牛込區新小川町三ノ十二

畫家　阿閉又吉郎

明治十三年十月三十一日生

生　立‖阿閉吉次郎氏の長男として生る。二十五歳の頃單身東京に出で苦心研究して今日の身となる。

修　業‖松任小學校卒業後金澤より繪の手本を取り寄せし學ばる、十八九歳の時垣内雲稱氏の門弟となり其後日露の役に出征明治三十九年東京へ出で橋本雅邦氏の門弟となり研究後畫家として立たる。

職　業‖羽織、帶等の上繪を得意とせらる、花蝶を好んで描かる、熱心に研究せられ東京市内に染物工場を經營せらる、東京市の各デパートの陳列意匠の上繪をせらる。

原籍地　石川縣石川郡松任町字布市町十
現住所　三重縣川藝郡若松村千代崎

古物商　宮又一

明治十八年七月十五日生

生　立‖松任町字布市町に宮六三郎氏の長男として生る。

修　業‖松任小學校を尋常高等共卒業後外國語を研究せらる。

職　業‖小學校卒業後山中商會へ店員として入られたり、現在は山中商會に居られアメリカ方面と取引をせら

る。アメリカ、ニューヨーク上海等へ出張せらる。

鄉土的、社會的＝松任小學校へ優等賞を寄贈せられ、縣社若宮八幡神社へ花車を寄贈せらる。

鄉土の子弟を種々周旋せらる。

原籍地　石川縣石川郡松任町字安田町二十六
現住所　東京市大森區山王町一丁目二六七〇
海軍機關中佐　中野貞雄
明治二十六年八月十八日生

生　立＝明治二十六年松任町安田町に生る資性頴敏にして小學校の時代より俊豪を以て聞ゆ特に兄弟仲睦まじく世人の羨む所なり。

修　業＝本校尋常科卒業、縣立金澤商業學校に入學、東京私立中學四年編入、同年九月金澤第一中學校へ轉校翌々年三月同校卒業、海軍機關學校入學、同校卒業、海軍少尉任官、少尉の時海軍大學に入學、同校卒業。

職　業＝中尉の時歐洲大戰に參加地中海に出動、大尉の時吳鎭守府參謀後德山の海軍燃料廠にて研究さる、中佐の時海軍省軍需部に勤務、現在軍艦長門機關長に任ぜらる。

個人的＝資性頴敏にして少年時代より刻苦勉勵せらる。

國家的＝帝國海軍々人として專心奉公の誠を致さる。

中尉時代に歐洲大戰に參加地中海に出動我が海軍の威名を輝かさる。

原籍地　石川縣石川郡松任町字中町六十
現住所　神奈川縣橫須賀市深田六三
海軍少佐　岩上次一
明治三十三年四月十日生

生　立＝松任町字中町に生る、幼時より海軍に志し大正八年海軍兵學校へ入學、大正十二年十二月少尉に任官、大正十四年中尉、昭和三年十二月大尉、昭和十一年十二月少佐に任ぜらる。

修　業＝松任小學校卒業、金澤第二中學校卒業（大正七年）、海軍兵學校卒業、大正十一年海軍砲術學校高等科卒業（昭和五年）。

職　業＝現在驅逐艦朝霧の砲術長をせらる。

國家的＝昭和七年上海事變に參加（驅逐艦朝霧）、昭和八年四月より同九年三月迄滿洲事變に參加せらる（ハルピン臨時海軍防備隊附屬特設砲艦廣寧艦長）

原籍地　石川縣石川郡松任町字東新町五三
現住所　廣島市西ノ日島町一五
遞信局書記官
廣島遞信局經理課長　長得一
明治三十五年十二月十日生

生　立＝父耕の長男として生れ、弟一人ありしが夭折せる爲獨り息子として祖父及兩親の愛撫の中に成長、父

は官吏として郡役所に勤務し松任町としては中流の家庭なり。祖父歿後比較的嚴格なる養育を受けたり生來頑健ならざりし爲母には隨分苦勞をかけたり。中年後は父の友人の家に預けられ他人の中に生活す、父母の許にありしは小學校時代までなり。

修　業＝松任小學校尋常科卒業、金澤二中四年終了、第四高等學校文科乙類、東京帝大法學部獨乙法律科高等試驗行政科合格法學士

職　業＝大正十四年東京帝大卒業後直ちに遞信省に入り遞信局勤務實務勤務、郵務局勤務を經て昭和四年富山郵便局長、昭和六年札幌遞信局經理科長、昭和九年廣島遞信局經理課長、同十年同局監督課長を兼ね今日に至る。

個人的＝著　書

一、獨乙緊急救助組合制度（遞信省出版）

一、通信事業特別會計制度に就いて（札幌遞信局出版）

鄕土的、社會的＝加越能出身の後輩數氏の就職を斡旋さる。

國家的＝一、札幌飛行場建設。二、風雪害防上政策樹立。三、富山放送局同飛行場提唱。四、函館火災關西風水害應急施設等

原籍地　石川縣石川郡松任町字東一番丁二

現住所　東京市澁谷區下通り一丁目四

醫學博士　岡本圭三

明治二十五年十二月二十九日生

修　業＝松任小學校卒業、小松中學校を經て大阪府立醫科大學卒業、同所にて研究一二年の後東京北里醫學研究所に入り七八年の後博士となる。（細菌學の研究をせらる）

職　業＝東京にて開業せらる。

鄕土的社會的＝貧困なる者に對しては無料にて醫療を施さる。

原籍地　石川縣石川郡松任町字石同町一四ノ二

現住所　橫濱市辨天通り二丁目原合名會社

輸出店原合名會社支配人

西本勇次郎

明治二十七年四月三十日生

生　立＝常に身体强健、小學校時代は成績中程から少し上位、算術の中珠算を得意とす。商業入學後は本科二年三年は優等生となる、運動は庭球を好み商業三年の時主將となる。同僚間の交際は常に圓滿であつた。甚だ責任觀念强し。

修　業＝松任尋常高等小學校脩高等一年修了、金澤商業學校卒業。

職　業＝金澤商業卒業後引續き露語研究生（石川縣派遣生）として浦塩に三ヶ年留學し三井物産浦塩支店に雇用せられ約二年にして現原合名會社に雇用せられ、モスコ、長春、リヨン、ニューヨークの各支店にて勤務現在

に至る、主として生糸、羽二重の輸出に携はる現今ニューヨークへ出張中明春歸國の豫定。

原籍地　石川縣石川郡松任町字安田町二十六
現住所　東京市大森區調布鵜ノ木町二二三

海軍少佐　中野外代吉

生　立＝明治三十四年松任町字安田町に生る。
修　業＝本校尋常科卒業、金澤第一中學校卒業、海軍兵學校入學、同卒業海軍少尉に任官、後海軍大學入學同卒業。
職　職＝吳鎭守府舞鶴要港兵學校教官（二ヶ年）目下横須賀鎭守府に勤務せらる。
個人的＝年長するに隨つて天才的ひらめきを發揮せられ、海軍大學校卒業、目下青年將校として其性格の豪膽なると手腕あるを以て部内に重きをなし居らる。

3　風習調査

松任町は昔、四郎丸、三丁町、石同と云ふ三ヶ村なりしが承平五年頃に國司松木氏が此三ヶ村を合して松任と名づけたりと言はれ或は又、松任十郎範光當町にありて城主たりしより松任の名生れ出でたりとなす説もあり。

慶永年間に長九郎左衛門居住せしが永享年間に松任十郎範光代つて居住せり。其後天正年間に鏑木永政及子頼信其子勘解由此に住せり。天正十一年に及び前田利長領主となる。慶長六年赤座吉家住し、吉家金澤に移住してより前田家の直轄に歸し代官の支配に屬す。

寛政の頃は本町通、後後町通、石同通、新町通と稱し其の他は地方散町と稱し來りしが明治初年に出城村字成の内茶屋垣内と稱せし地を松任に併せて今町と稱せしが明治十一年郡區改正に際し今町を本領成村へ還し町數は二十三と別に停車場通りあり。

今の北陸線松任驛前にある城址は永享年間に前述せる松任十郎範光がはじめて築きしものにして其後變遷を經て天正十年に前田利長封を受けしが後、赤座吉家此に居り慶長十一年吉家金澤に移住し前田氏の直轄となり慶安三年遂に廢城となれり。廢城後は城址の一部に御藏を置かれたることあり。

城址は昔は四方に幅數十米の濠ありて常に綠水を湛へ城址の小丘に老樹翁欝とし蒼苔地を蔽ひたりしが今は堙濠も殆んど埋められ城址の方に松任警察署を置かれ昔時の面影は次第に薄れゆくを見る。

松任町の戸數は記錄に見るときは相當と增加し來るを認めるのである。即ち

正德五年	松松任町方總戸數	五八〇餘	
寛政四年		七九九	
明治四年		一、〇一四	
明治三十一年		一、〇八九	人口　五九〇九

明治四十年　一、二一五　同　六四六八

大正四年　一、三三〇　同　六九〇四

交通方面に於ては松任町は北陸道に沿ひたて發達したる町にして又石川郡の中央に位し四通八達の便があり。北陸線松任驛は既に明治三十一年四月一日より運輸は開始せられ四十年の歴史を有して居り、金澤間の電軌鐵道は大正五年四月の開通である。

前記の如く本町は石川平野の中央にありて往時より既に交通の要點にありて附近農產物の集散地にあり、商工業の中心とあり又石川郡文化の中心とあり又政治の中心とあつたのである。

古き歴史を有すると共に本町には因襲にとらはるの風あり。傳統を誇ると共に一方因循姑息の風も亦伺はるゝなきに非ず。されど今や各種工場の設置せらるゝあり近くは鐵道工場の移轉せられ全國に稀なる新鋭機關を設けらるゝありて、町内各方面に著しく活氣を呈し店舗の裝置に又宣傳に明朗調達の風現はるゝを見る。

以下當町の風習につきて調査したる所と併せ本町方言の調査したるあと記して本校兒童を生める環境洞察の資としたい。

一、衣　服

平素の服裝は一般に質素にして男子の職服は大部分洋服を用ひ女子といへども漸次洋服を用ひる者增加す。但し儀式若くは訪問等の時は相當に体面を保ち、時として婦人間には華美な服裝をする者あるも、概して身分を外さぬのが一般の傾向である。兒童生徒は制服を用ふ。

二、飲　食　物

常食の主材料は米、野菜、魚肉にして獸肉も年毎に普及し之を食する者增加せるも、周圍の農村より野菜が賣出され、海近く新鮮な魚類も容易に求められる爲、副食物は野菜、魚肉を主とされてゐる。

常用飲料として茶、麥湯を用ひ、サイダーラムネ類も飲用せられる。酒は清酒最も多くビールも用ひられる。當地方は眞宗の門徒多く毎月八日、二十八日を精進日と稱し、又血族、恩人の命日も亦同じく精進日と稱し肉類を用ひない。

三、住　居

二階造木造にて奥行長きを普通とし、大部分瓦葺である。

昔の儘の家は床、天井低く採光惡く陰氣なればしだいに此の方面の改善はなされつゝある。近年文化住宅の新築增加し、進歩しつゝある。家屋の間取は普通茶の間、寢室、座敷とす。

中流以上の家には大抵倉庫を有し、湯殿を設くるものも增加した。掃除は丁寧にして春秋二季に大掃除を行ふ。

四、言　語

方言、訛言は相當にあるも、主として老年者間に多く用ひられ青年間では漸次標準語への傾向がある。

其の方言と思しものを擧ぐれば別項の如くである。（　頁參看）

五、動　作

縣下に於ては當町人民の動作は比較的敏活の方であると思はれるも之を表日本に於ける各商業地に比すれば、尚甚だ遲緩なるものあるやに思はる。

六、婚　禮

結婚の年齢は後れつゝある。

一年を通じて十一月より翌年四月頃までの間に多い。

男女の選擇は媒介者の手により双方親權者に於て決せられる者多し。

儀式は漸次簡易化の風あり古來家庭のみにて行はれたるも、近時神式佛式にて行ふものを增す。

先づ結納として貰ひ方より帶地封物等に酒肴を添へて贈り、嫁方よりは酒肴を贈る、何れも双方の媒介人に依りて取交はされ、入嫁の當日嫁の家より土產物と稱して先方の家内一同及び親類へ太物、綿、扇子等の類を贈る、此の土產物及び婚禮の調度の多きを誇る風次第に薄らぎつゝあり。かくて嫁の土產物を近隣親戚に配れば皆祝儀を持參し、又部屋見舞等稱するものを贈る、祝儀七日後には祝儀返しと稱して赤飯を配るを例とす、尚婚禮の夜石祝と稱して其の家に投石する惡習ありしも漸次衰へた。又新婚の夫婦に水祝とて水を掛くる奇習もあり、何れも現今は殆ど其の風を見ざるものゝ如し。

七、慶　事

生產は其初產なる時は母方の鄉里にて分娩するを例とする。

知人親類より祝儀等あり、之に報ゆる爲、小宴を張り又は贈品をなす。

初老、還曆の祝は相當なる宴を張り、紅白の鏡餠を分つ。

新築、落成等にも相當なる祝宴を張る。

八、葬　式

宗教は大抵眞宗大谷派に屬す。

死亡者ある時は一家皆愁傷に沈むと、親戚の他鄉に在る者は土地の風習に慣れざる故を以て、萬般の運びは近隣の者が助けるを常例とす。先づ前簀なるものを軒頭に揭げ、一夜故籍親族は死者の枕頭に拉伽す。次に納棺の式あり、翌日午後葬儀し野送をなす。

葬儀と野送には近隣の者は云ふに及ばず、多くの知人來り會し其行を盛にする。其翌朝灰葬をなし、一週間内に前簀を下して香奠を贈らした家々に返禮す。

九、佛　事

死者の年忌は一周年、三周年、七周年、十三周年、十七周年三十三周年、五十周年で此の場合には僧を聘して、讀經供養し親戚を招きて食を饗し故人の追憶談等をなす。每年晩秋に報恩講を營む。

家に大抵佛壇あり。家財の首位を占め、每朝夕食前に讀經禮拜するを例とする。

十、年　中　行　事

一、新　年

家々大抵佛壇、床の間、倉庫内、金庫前、帳場前、米櫃、釜等に鏡餠を供ふ、神棚には燈明、神酒、鏡餠を供

ふ。

男兒ある家には一週間許り神樣堂といふものを飾り菅公の像を祀る。

戸主は大抵一度神社に參拜する。

祝酒、雜煮餅、數ノ子、煮豆は何れの家にも之を用ひる。

二日午前二時頃より各商店には賣初をなす。

年賀名簿が作られ回禮するものが減少した。小學校では式後官民合同の祝賀會がある。

娯樂としてカルタ、双六、旗源平、羽子、手マリ、福引等盛に行はる。

ロ、祝祭日

各町兒童團の奬勵により全町擧げて國旗を掲出せられる。官衙學校の外は一月一日を除き、他は休業せず（各商組合の定休日は月一回又は二回あり）

ハ、祭禮

祭禮と雖も休業することなく店頭に簾をかけ幕を張り、夜は軒頭を捧げるが例である。氏神の祭禮は春秋二回に行はれ、春は金劍神社、秋は若宮八幡神社の神輿渡御式あり、曳山等出て賑やかなり。祭禮中は親類、知己、往來して饗應するを常とする。祭禮の期間中は男女共美粧して氏神に參詣し、各種の娯樂に心を慰む。

ニ、節句

四月三日の雛祭は今も猶行はれるも飾つて樂しむ程度にて、以前は友達連れで見て歩くことが多く行はれたが此の習慣は漸次少くなり、飾つた家々で簡單に馳走するだけである。

五月の節句は單に幟を立てるに止まる。

ホ、盆

八月十四日には古來盆市あり、新町通りに限られ、東新町西新町を年々交代にて行ふ。當番町の青年會員は總出にて世話をなす、前日より町二日覆の簇圍ひなど準備をなし、十四日早朝より市を開始する。商人は金澤、高岡等より來り各戸の軒下に店を張り、履物、傘、農具、古着、古道具等の日用品を賣るのである。其の賃賃は一間に付貳圓五十錢にて其の收穫の半分は町の貯金として蓄積し、非常の場合に使用せられるのである。天氣良ければ人出多く繁昌を極める。此の盆市は絹市とも云はれる。

戸々大抵一基の墳墓を有す、死者は火葬し遺骨は土製の瓶に納めて之れを墓に納む、墓參には男女とも紋付にて十四日に魂迎への香花を捧げ、十七日迄は家内代る々々參詣するなり。土地を離れて居る者は事情の許す限り墓參するの風あり。

盆踊は十六、七日の兩日プールに於て開かれ三色の電飾と岐阜提灯、浮舟、噴水等の裝飾の中に揃ひの錦帶を止めた多數の男女青年、兒童生徒等が數種の踊を踊廻る、廣いスタンドモ立錐の餘地なきまで、毎年一萬以上の觀衆が集る。近村は勿論遠くは金澤方面より自動車を馳せ集る者年毎に增加す。

ヘ、舊家の屋號

當地に於て最も古きは、青木、布目、山上、正善、城戸口、岡本等にして其他の舊家にして當地に住現せざる

家もあれど一括して記せば。

笠間屋(青木)、車屋(三宅)、ぬし屋(阿閉)、若狹屋(大垣)、かじや(志茂坂)、井關屋(關)、倉部屋(安部)、永言屋(詠)、德光屋(吉田)、村井屋(村田)、新庄屋(岡本)、宮永屋(宮)、なりや(三田)、米屋(米田)、山上屋(山上)、木綿屋(城戸口)、相川屋(園田)、相三(相)、八田屋(八田)、岡部屋(松江)、志雄屋(正善)、道法寺屋(藤島)、紺傳(國府)、びんつけ屋(關)、たたや(三須)、等をあつて此外に猶多くあることと思ふがこれだけに止めておく。

松任町ノ方言

方言	普通語	解説
あんにゃ	姉	
あち	子供	十才前後ノ男子ヲ云フ
あんま	盲者	
あかべ	肛門	
あま		二階デ天井ヲ張ラズ薪等ヲ置ク所
あい		東北風
あごた	アゴ	
あんごた	アゴ	
あぐち	アグラ	
あじち	分家	
あやまち	ケガ	過失ヲモアヤマチトイフ
あつちやこつちや	アベコベ	矛盾又ハ反對ノ意味ニ用フ
あか	赤ン坊	

方言	普通語	解説
あしめ	アテ	目的ノ意味「君ヲアシメニスル」ノ如シ
あるば	油	
あんぼしたん	白痴	
あしたのようさり	明晩	
あくたい	惡戯	
あばん		年寄女ヲ呼ブ場合
あんか	兄サン	
あんさ	長男	
あんにやま	姉サン	
あんさま	兄サン	
あつち	アチラ	
あつちや	アチラ	
あんなん	アノ人	

方言	普通語	解説
あこ	アソコ	
あべる	オヨグ	
アダケル	サワグ	
あがく	モガク	
あまらかす	餘ス	餘ルヤウニスル
あんだけ	アレホド	
あんど	アレホド	
あんみに	アマリニ	
あつかりかんと	ボンヤリト	
あつゝりした		疲レタ有樣
あめやふる	アメガフル	
あせない	イソガシイ	
あせくらしい	イソガシイ	
あいそむない	アイソナイ	
あてがいない	ヅサインナ	
あんまりした	ヒドイ	
あらね	アラレ	
あい	鮎	魚ノ名
あんぞ	アンズ	果物ノ名
あじかやす	マゼカヤス	
あすぶ	アソブ	
あをのく	上向ク	
ありやー	アレー	驚嘆ノ詞
あらら		
ありやありや	アレヨアレヨ	
あつくりした		疲勞シタコトヲ云ヒ表ス詞ナリ
あめやふる	アメガフル	
いもくし	アバタ	
いけ	キド	
いもじ	ユマキ	ユモジ
いきり	湯氣	
いつちようらい	イツチヨーラ	只一枚ノ晴着ノ衣ヲ言フ
いつけ	親類	
いにする		勞働ノ交換トイフ意ナリ
いせごい	ボラ	

方言	普通語	解説
いざわるい	ムナグルシイ	
いれんな	イロ〳〵ナ	
いさどい	リツバナ	
いじくらしい	ウルサイ	
いいかげんな	ヅサンナ	
いちやけな	アドケナイ	
いもくりわるい	イヂワルイ	
いためる	チヨウチヤクスル	
いつさぶる	ユルム	物ヲ動カス
いさる	リキム	
いつすぐ	ススグ	水デ洗フ
いかれる		破損シテ用ニ堪ヘザルトキ
いさいこと	久シク	
いまんに	アトニ	
いつもかも	イツモ〳〵	
いんぎりと	ユツクリト	
いらして		人ヲ送ルトキオイデナサイ
いらつせ		
いくさつせ	ヨコセ	
いくせ	ヨコセ	
いかんこ	行カンカ	
いつてこいや	行キナサイ	
いくこ	行クカ	
いんじや	イイエ	
いじにかかる	カラカフ	
いふにもことか	イフニモホドガアル	
いらつしやんいた	オイデニナラヌ	
いつちやつた	行キナサレタ	
いかなてて	ドウイタシマシテ	
いばら	醉狂	
いものこ	里芋	
いんここ	イヌ(探偵)	
いばらぼたん	バラ	

いとそ
いつしきのこと
いつすりむつす
りうごかぬ
いつさんばらり
いつてこまいか
いらつしま
いやといへぬ
いまの
うすずり
うろ
うら
うちのうち
うら
うざくらしい
うまそうな
うさんな
うしなける
うつかりんと
うん
うた
うつわ
うえん
うるしい
えんぞ
えんのした
えんばな
えい
えんじや
えぐち
えつこ
おいど
おんどべ
おくもじ
おちらし

ヲ(苧)
セメテノコトニ
ドウシテモコウ
シテモウゴカヌ
一時カギリ
行ツテキマセウ
オイデナサイ
ゴモツトモ
薄墨紙
ウツロ(洞)
シモ(下)
ウチ(自宅)
私
イヤラシイ
フトツタ
ウロンナ
ウセル
ボンヤリト
ハイ
音
團扇
ユエン
ウレシイ
ドブ
ノキシタ
アイニクナ
ハイ
イイエ
イグチ
イリコ(炒粉)
オ尻
オ尻
貴來
イリコ

僅カニ用立ツモノニツイテイフ
例ノト云フ心
加賀特産ノ紙
方角ヲス示ニ用フ
燈火ノケムリ
返事ノ言葉
否

おもし
おあかり
おんちや
おゆづけ
おほやけ
あもて
おもや
おかべのから
おじ
おじま
おとと
おかか
おいさん
おかつさん
おつさん
おやつさま
おまん
おてき
おぞい
おとましい
おうどな
おどす
おくこつちや
おかんか
おいのう
おんばさ
おいだすばす
おうかない
おいそ
おいね
おかつせ
かんば
かも
かたけ
かざ

味噌
行燈
雄
カユ
金滿家
カミ
本家
豆腐ノカラ
弟
オトウサン
オカアサン
オクサン
オカミサン
ヲヂサン
御亭主
オ前サン
アレ
マヅイ
惜シイ
オーチヤクナ
ホユル
ヤメヨ
ヤメンカ
ソウダネ
ウバ
イラツシヤイマス
スコシシカナイ
遠方
そうそう
ヨセ
アヒル
ニホヒ

方角
オ寺ノ奥サン等
ニイフ商賣屋ノ妻
伯叔父又ハ年長ケタル男子
主人
アノ人トイフ意
犬ノナクコト
卑屬ニ對シテイフ
一食事ヲイフ

かいぶし
かげうら
かんしよ
かぶそ
かたうり
かたね
かくせつ
がま
かたいもん
かためつこ
がり
がりんぼ
かんさん
かなしい
からうさんな
かたねる
かたがる
かざかす
かがえる
かんづく
かかりいふ
かいに
がつさり
がつしり
がらなわ
かばやき
かつ
がや
かい
かたいこや
がたつく
ぎやわず

タツクリ(干鰯)
カゲ(蔭)
大便所
カハヲソ(獺)
シロウリ(越瓜)
腫物
ワウチヤク(横着)
ヨイコ
ヤセ(痩)
ヤセ
神樣
恥カシイ
ウロンナ
ニナフ
カタムク
カグ
コゴエル
カラカフ
イツカウ
大ソウ
シツカリ
藁繩
ガマヤキ
ウツ
カヘル(蛙)
カ
ヨイ子ダ
ガタガタスル
カヘル(蛙)

鰯
厠ヲカンシヨトイフヨリ
轉訛セルナリ
金錢ヤ食物ヲ醵出シ會食スルヲイフ
從順ナル子ヲイフ
鼻デカグ
察知スルコト
一向知ラヌヲカイニ知ラヌトイフ
ガツサリヘツタ(多ク減ツタ)
ドジヨノ蒲燒
「私のがや」ノ如シ
「甘いかい」ノ如シ

きびしよ
ぎみあい
ぎつちよ
きんによ
きんの
きりもの
き
きない
きずいな
きなるい
きざえる
ぎつしり
きつしり
きつちやつた
ぐのみ
ぐつとのみ
ぐるり
ぐず
ぐず
くだり
ぐわち
くさい
くらはす
くたんせ
くたい
くれんかい
ぐづる
くどい
くてんか
けしご
げす
けつ
げつとくそ
げつぽ
けんどん

キフス(急須)
左利
キノフ(昨日)
キノフ
キモノ
カ
キイロナ
ミツシリ
同右
來ラレタ
マルノミ(丸呑)
同右
メグリ(周圍)
魯鈍ナル
横着
南風
目慢
ウタガハシイ
ウツ
下サレ
クレ
ヨコサンカ
小言ヲイフ
塩カライ
下サレヌカ
消炭
尻
尻
尻
オクビ
トホシ

競爭又ハ對抗ノ意ナリ
「さやうか」ヲ「ソウキ」ト云フガ如シ
黄色ナ
スキノナイホドツマル
末位
のんどカラ出ル氣

けつな	變ナ	
けなるい	羨シイ	
けんど	ケレドモ	
けだつ	フミツキ	
けちやわるい	キシヨクワルイ	
けー	ヒタヒ	
こべ		
ごろ		
こつさ		
こけ	キノコ	
こーこ	澤庵漬	
こんか	糠	
こいちび	小指	
こまがき		
ごたむく	ホサグ	
ごねむく	死ヌ	
こぐ	ヒキヌク	
こかす	ヌカス	
こんど	コレホド	
これだけはんか	コレダケシカ	
ごうがわく	殘念	
こく		
ごてら	ナガラ	
こつちや	コトダ	
ごいされ	ゴメンクダサイ	
こんもり	カウモリ	
ごんぼ	ゴボウ	
こびり	コビル	
ごだんに	ソノウヘ	
さいはらい	サイハイ(采配)	
さるこぼんぼ		
さーき		
さしもん	先刻	
	ウツバリ(梁)	

「ござんせんけー」ノ如シ
額
松ノ落葉ニテタキツケトスルモノ
細筆
他人ノ言葉ヲアザケリイフ
木ヲコグ等イフ
「する」又ハ「いふ」ノ意
「うそこく」ノ如シ
「共に」ノ意ニテ「皮ごてら食ふ」ノ如シ
蝙蝠
牛蒡
間食
肩車ヲイフ

さばさし	出刄庖丁	
さくい	氣輕イ	
さつせ	シナサイ	
さかい	カラ	
さつから	先程カラ	
じらあめ	水飴	
しんばり	霜ヤケ	
じやいも	馬鈴薯	
しようづ	イヅミ	
しいな	シソノミ	
じよじよ	ドジヨウ	
しん	コズエ	
しちべた	尻	
じぶき	雜巾	
じやあま		
じいじ	祖父	
じやまくさい	面倒ナ	
しよむない		
しよまな	不甲斐ナイ	
じやがい	ゾヘ	
しやもめる	氣ガモメル	
ずこ	頭	
ずこいきり	ノボセモノ	
すこたん		
ずたち	腹掛	
ずめな	綿密ナ	
ずぼらな	マヌケナ	
せんば	十能	
せごかずき	セムシ(佝僂)	
せなか	背	
せかす	イソガス	
そら	ソレ	

故トイフ意
清水ノワキ出ル所
木ノ梢
下等社會ニテ母又ハ妻ヲ呼ブニ用フ
塩味ノ薄イ又ハ愛想ノナイ
「こうじやがい」トイフガ如シ
自負ノ强キ意
アテノハヅレタルコトヲイフ
又ハ丁寧ナノ意ニ用フ
「そら見たか」ト言フガ如シ

そんなり	ソノママ	
たんち	馬鹿	
だら	夕方	
たちやい	肥桶	
たごけ	瘤	
たんこぶ	馬鹿ラシイ	
だらくさい	苦シイ	
たいそな	貯フ	
たぼー	トヤラ	
たら	サシツカヘナイ	
だんない	マニアハヌ	
だちやかぬ	カマフモノカ	
だしかい	僅カコレホド	
たんだこんど	ラクチヤクサセル	
ちようつける		
ちやんばち	丼	
ちんこ		
ちようはい		
ちびる		
ちようらかす		
ちよつこり	少々	
ちよびん	少々	
ちんと	ジツト	
ちやつと	早ク	
ちよつきり	丁度	
ついぼ	杖	
つつつぼ	筒袖	
つらます	トラヘル	
つかつとる	入リヒタル	
てて	トテ	
でかい	大キイ	
てきない	セツナイ	
てつくりかやる	覆ヘル	
てつかやす	覆ヘル	
でかいこと	澤山	

通常嬰子ヲイフ
短イ單衣ヲ云フ
嫁ノ里歸リ又ハ下女ノ親里ヘ歸ルヲイフ
少シク出スヲイフ
小兒ヲ弄ビ愛スルヲイフ
「行くてて」ノ如シ

とば	イタチ(鼬)	
どんど	ドウブク	
どぼす	ドブ(下水溝)	
どだいから	根カラ	
どんだけ	ドレホド	
どうやらこうやら	ヤウヤウ	
とつちりと	ユツクリト	
どまつくと	マゴマゴスルコト	
どんだくれ	放蕩者	
どうらくもの	怠ケ者	
とーない	未明	
とちくらがり	オ父サン	
どうねつもの	無情ナ	
とうと	寢ル	
どくしような	マゴツク	
どぐさる	テ	
どまつく	ヨ	
と	臺所	
とこと	イイエ	
ながしまい	頗ル	
なごなる	粗略ニ	
なーむ	米汁	
なかなか	女	
なんぞげに		
にぐし		
によーぼ		
には	猫	
にやんこ	盜人	
ぬすと	赤坊	
ねんね	ネマキ	
ねんねば	馬鹿者	
ねぶつもん	坐ル	
ねまる		

主トシテ子供ノ胴着ヲ云フ
新平民
沈着ナルモノヲイフ
「待て」ヲ「待と」等命令ノ場合ニ用フ
「そうじやとこと」ノ如シ
横臥スルノ意ナリ
米ノ洗ヒ汁ヲイフ
妻ヲイフ
玄關ノ方ノ土間ヲ云フ
主トシテ子供ニ用ヒラル

はようーらと	早タ	
ばー	着物	
ばんば	乳母	
ばーや	乳母	
はんちや	半天	
ばいぎ	棒	
はくしや	マキ（割木）	
はいぼぼ	クシヤミ（噴嚏）	
はべん	蠅	
はだこ	蒲鉾	
	襦袢	
はらべつこ		手足ヲノバシ腹ヲ地ニツケウツブセニナルコトヲイフ
はらき	齒クソ	
はがすみ	オバアサン	
ばーば	リカウナ	
はしかい	ハブリノキク	
はばしい		
はいだるい		
ばりばり		
ばつしやぐ	燥ク	
はごむく		
はぐれる	コマザラヒ（箔）	
びぶら	晝飯	
ひらがり	モモ（腿）	
ひるから	半日	
ひちべた	大人ラシイ	
ひなか		
びいや	戸棚	
ひねくらしい	ナゲツケル	
ひよつんと		
ふるだな		
ぶつける		

ふとる	ガク（蕚）	生長スルノ意ニ用フ
へた		滑稽ナ又ハ冗談ナノ意ナリ
へいろくな	扁タイ	
べつたるい		ゴテ〳〵シタ裝飾ナドヲ形容スルニ用フ
べたくらしい	待遠イ	弱リ疲レルヲイフ
へしない		
へこたれる	丁稚	側面ヲイフ
ぼーや	顔	幼男兒ヲイフ
ほうべた	シゴキ	
ほて		
ほそぐり	馬鹿	下男ノ二人稱
ぼんち	南瓜	意外ノ利益ノアルヲ形容スルニ用フ
ぼす	オンブ（背負）	温順ニシテ世事ニ干遠ナルヲイフ
ぼぶら	マヌケナ	放棄スルノ意ナリ
ぼんぼ		
ぼーや		
ぼこい		
ぼろい		
ぼつこり	ウチヤル	
ほーらかす	追駈ケル	
ぼつかける	ボンヤリト	
ぼかんと	ソウ	
ほう		
ほりや	眉	
まいみ	類	
まつい	前垂	
まいき	手ヌルイ	
まだるい	マバユイ	
まぶい	ナサル	
ましやる	ナサイ	
まつし		

まん	マアー	「そりやまん」ト云フガ如シ
まこつちや	ホントウダ	
みのうり	甜瓜	
みとむない	醜イ	
みす	マス	「ござりみす」ノ如シ
みたいな	ノヤウナ	「鳥みたいな」ノ如シ
むしかぶり	腹痛	
むこぶし	ヒザ	
むさい	氣毒ナ面倒ナ	
むけつしよな		
めんちや		
ももた	モモ（腿）	
もじり		
ものい	ツライ	
ももつけない	カハイサウナ	
もつたいしや	面倒ナ	
やませ	体日	
やしこ		
やんちや	糖味噌	
やど	途方モナイ	
やくちやもない	柔カナ	
やらかい		

ややこしい	ウロンナ	
やだな	腕白ナ	
やがい	ゾヘ	
やー	ヨ	
やつとこさいに	ヤウヤウ	
やもーど	澤山	
やい	ダイ	
や	ダ	
やろー	ダラウ	
やー	ハイ	
やくせぬ	役ニ立タヌ	
よーはじめに		
よーしまいに	タハン	
よなが	饗應	
よばれ	横向ク	
よすけむく	マニアハヌ	
らちやかぬ		
れぬ	キサマラ	
わるら	キサマ	
わりや	ジヤウダン	
わやく	病氣	
わるい	途方モナイ	
わくちやもない	サケブ	
わなる	皆	
んな		

「じやがい」ニ同ジ	
「行かんかいや」ノ如シ	
辛ウジテ	
「どうだい」ノ如シ	
「そうや」	
尊屬ニ應答スル場合ニ用フ	
最初ニノ意ナリ	
最後ニノ意ナリ	
食べれぬ	

4　保健衛生調査

一、概況

松任町保健衛生諸調査の數字に徴して見るも、本校兒童の体位を透して見るも、本町民体位の現狀は決して良好でない。其の原因は惠まれざる氣候と傳統、因襲とに依る生活樣式に基くものと思はれるが、兎に角、其の起

因するところを究明して町民の健康化を圖るの必要あることは言を俟たざる所である。然し近時一般衞生思想は衞生知識の普及に伴ひ漸時向上の域に進み、迷信の打破、因襲改善の實が擧り、豫防、診療は勿論、住宅、營養の改善にまで意を用ふる樣になつたことは實に慶ぶべきことである。而して積極的衞生方面にも大いに留意さるゝに及び各種体育施設が行はれ、町民体位向上に期待さるゝものが非常に多い。

二、一般衞生狀況

衣　服。一般に地味、平素は主として綿布を用ひている。比較的清潔を尙び、婦人は洗濯に多大の時間を費す樣である。冬季は北邊に位する關係上厚着の風甚しく、身体の發育、運動を妨ぐるが如き窮屈な衣服が着用されたが近來漸く其の弊が改つた。尙衣類はこれを年一回の土用干の行事に限り曝す風であつたが、近來寢具、寢衣等と共に隨時日光に曝すやう心掛けらるゝに至つた。

食　物。概して質素で、平素は一食兩菜香の物を以つて普通とされ、副食物は野菜、魚肉を以つて主としている。近時獸肉食が普及して來た。一般に美食に流れる傾向はあるが、營養食に留意する家庭は比較的尠い樣である。然し各種團体では營養改善に關し宣傳普及に努め、主食物の改善、偏食の是正、調理法の改善を強調し、其の實行を圖つている。

住　居。二階造木造が普通で、比較的舊いものが多い。舊態のまゝのものは、屋根が概して低く、門口が狹くて奥行が長い。其の上窓少きため採光、換氣が不良で非衞生的の感がある。又本町は平地に在るも大体乾濕二地に分れている樣である。然し漸次これ等の缺點は改善され殊に最近郊外乾燥の地に文化住宅の多く構築さるゝに至つたことは衞生的見地よりして誠に良い傾向である。

飲料水。總て井戸水を用ひている。井戸は概ね深く水質は純良である。從來一戸にて井戸を構へるもの至つて少く、共同井戸と雖も各區一に箇所に過ぎなかつた。隨つて河水使用の惡風絕えず、其のため傳染病の猖獗を構めたことさへあつた。

近年組合組織にて全町各共同井戸を水源とした水道が敷設され、電動力にて貯水タンクに揚引し之を各戸に給水するに至つた。現今は飲料水が頗る豐かとなり、河水使用の惡風は全く痕を斷つた。尙堀拔井二箇所あり、一つは中央病院、一つは鐵道工場で、殊に後者は地下三百尺を開鑿せるものであつて大量の純良水を涌出している。

清　掃。日常一般によく行はれ、殊に春秋二回の大掃除には町民に進んでこれを勵行し、間然するところなきを誇る良風がある。

塵　埃。從來河流に捨てる惡風があつたが、近來公衆衞生が重んがられ其の弊が改つた。現在は各戸に塵箱を構へ、これを町營にて所定の場所に運搬なし、燒却又は其の他の處分をなしている。

下　水。小溝により家の前後若くは側面に導き河流に放となす。河流は町内を縱橫に貫通している。年二回は其の河流區域につき大々的に下水掃除が行はれる、

其の他。家庭に於ける保健運動は從來殆ど皆無であつたが最近衞生思想の普及とラヂオの設置により一家揃つて毎朝ラヂオ体操行ふ家を見受ける樣になつた。

睡眠時間は職業に依り其の季節により異る樣なれども普通午後十時就寢午前五、六時起床を普通としている。入浴は一般に嗜好し、概ね錢湯に行く。住居の改善に伴ふて最近家庭に湯殿を造る傾向を生じた。

三、保健衞生施設

衞生組合。本縣衞生組合準則に基いて町内各區に組合が設置され、各組合に組長を置いて各施設事項を定め專ら公衆衞生の向上發展を圖り、特に傳染病豫防、春秋兩季大掃除、下水掃除等の督勵に努め區内の保健衞生に留意してゐる。

傳染病院。松任町を中心とする附近十二ヶ町村が傳染病豫防組合を設立し、松任町の東端に石川郡中央病院を經營なす。防疫施設としては相當完備している。

傳染病豫防及び消毒。傳染病豫防に就いては衞生委員、衞生組長が設けられて部内の衞生に關し方策を講ずるの外、時々町役場又は警察署よりの注意、命令にて豫防、消毒が行はれる。

傳染病患者の發生した場合は、之を石川郡中央病院に收容し、患者を生じた家は室内を消毒し家具調度の類の燒棄、蒸、洗濯、消毒劑散布等により消毒なす。

其の他。

水泳プール。町營にて昭和三年の構築にかゝり、工事費總額三萬五千圓餘を要す。五十米プールとして内容よく完備し全國屈指の公認プールである。毎年各種水上競技大會が行はれ、日本水泳界の進歩のため貢獻するところ多く、又町民の体育向上に資する處多大なるものがある。

學校運動場の開放。町民の体位の向上と保健体育の奬勵の目的にて、本校の運動場を一般町民に開放し、喜んで体育に親しませんとしている。尚廣く各團体にも開放して地方体育發展に貢獻する所が多い。

遊園地。蕪域址を遊園地として開放し之を町民の散策の地とし、町民の保健衞生に留意している。

松任体育協會。本町民の体位の向上と体育思想振興とを圖り心身共に健全なる國民たらしめんが爲に諸般の体育施設が行はれ、年々大なる實績を擧げてゐる。

社會体育會。毎年秋季に一回行はれ、擧町一致團欒裡に保健体育の實績を擧げてゐる。

ラヂオ体操の會。毎年八月約一ヶ月本校々庭に於て本校職員指導の下に行はれる。老若男女、職業の別を問はず參集し逐年參加者增加し町民体位の向上、保健衞生思想の發達を促進してゐる。

二、產業的方面

1　產業發展狀況調査

概況。本町は郡平野の中央にあつて、周圍に多くの農村を控へてゐるので、農產物の取引、日用品販賣の中心市場として榮へ、毎年移出米十數萬石を集散し、縣下移出米の約三割を占めて所謂石川米の名聲を馳せ、其の量に於て縣下第一位である。

生產品としては漆改時代は種油、絹織物、染物等があつて、殊に織物としては、慶長の初年より松任油と稱するものがあり、又寶曆末年より松任小倉と稱する袴地を產し共に盛んに織出され、福井、富山、新潟及び京阪の

地にまで販路を有したといふことである。染物は明治二年の届書中には五百七十戸、紺屋役、一軒十九匁とあるのを見ても、其の頃三十軒の染物屋のあつたことが分る。初めは主藍染であつたが、文化年中紺屋傳右衛門といふ人が、松任の河流の水質が染物に適することを知り、種々考究の結果、無地染、小紋染、模様物、白地染等色染脫化の恐れなきものを作り社會の信用を博した。かくて文政年間には染物業者約百三十戸の多きに及び、二代目紺屋傳右衛門の時、錢屋五兵衛は松任等を一手に引受け、遠く北海道及び東北地方にまで輸出したか其の數一ケ年二十萬反を超え、俗に之を錢五の船行と稱へた。種油も亦重要農産物の一つとして、舊藩邸の御用は全部當地で請負ひ、尾山城下の需要の大部分を供給した。然るに之等の工業は明治維新以後時代の變遷に伴ひ漸次衰運を示し殆んど其の跡を絶つに至つた。近時之に代つて羽二重、平絹、縮緬、壁等の織物及び撚糸を始め、酒、醬油、菓子類、漆器、染物、刺繍、諸麩、沈葛、農具、木製品等の産出を見るに至つたが、何れも生産額尠く本町の特殊生産物とするに足るものが無い。從來松任は圍繞せる農村により登達せる商業地であつたが、今後の松任は工業地ならざるべからずとの見解を抱く人多く織者間に論議され、町當局も亦、工藝品の奬勵、諸工場の誘致等工業の發展に努力しつゝあり。

名物としては、あんころ餅、かん〳〵糖、俳人千代に因める千代煎餅、千代落雁、千代の飴、千代の里等がある。あんころ餅は松任驛に於ける賣上高のみにても年産額二萬圓を超へるといふことである。

次表は最近拾年間に於ける本町物産の生産狀況に關する統計にして本町産業の推移を洞察するの好資料ともなるであらう。

最近十箇年ニ於ケル松任町生産物推移

生産別／年度	農産物	養蠶物	畜産物	水産物	工産物	計
	円	円	円	円	円	円
昭和元年度	九七、八三二	二二四	五一、四七五	八、二八二	九四〇、三七	一〇九八、一五〇
同二年度	八二、二六一	七四	二三、一〇五	五、一六三	九六〇、四〇八	一〇四〇、一一〇
同三年度	九〇、〇八一	一四四	二六、〇五四	一四、一六〇	九四三、五一〇	一〇三三、九四〇
同四年度	八二、七〇六	九六	三六、九二四	一四、一六〇	九七五、六七二	一一〇九、五四八
同五年度	五八、四〇九	九六	三一、五二〇	一七、〇八五	八二九、五三九	九四六、七四七
同六年度	四七、八七九	九六	二六、九六四	一四、二三〇	三九一、九〇六	四八一、〇五五
同七年度	四六、四五七	七六	一四、三四四	二、四六四	四九七、五七七	五六〇、九一八
同八年度	六八、四三八	二七四	一四、一五三	二、四六四	五九九、〇四四	六八四、三三三
同九年度	八六、一九四	九〇	七、九、六	二、三六〇	五七七、三五〇	六七三、九二〇
同十年度	九七、五九三	九四	四、五七四	二、二八五	七一七、五九五	八二三、一四二

生産別	種目	年度	作付反別	收穫高	價格	備考
農産物	米	昭和一	一〇三、八反	二、五九八石	八八、三三二円	
		二	一〇一、五	二、三二八	七一、九二八	
		三	一〇九、五	二、八五七	七八、五四九	
		四	九三、一	二、四七〇	七〇、九二〇	
		五	九三、一	二、六四九	四六、九五八	
		六	七八、〇	二、二一四	三七、六三八	
		七	八六、〇	一、八七九	三六、三一四	
		八	一〇一、四	二、九〇四	五八、二四〇	
		九	一〇二、〇	二、七五〇	七三、六二五	
		一〇	一〇〇、六	三、一二九	八八、九六七	
	麥	昭和一	七	一一	一三一	
		二	七	七	七〇	
		三	一	一	一二	
		四	六	一六	七二	
		五	六	一六	七二	
		六	三	七	四二	
		七	三	八	四四	
		八	七	一四	七八	
		九	三	五	二六	
		一〇	四	六	二三	
	大豆	昭和一	二三	二六	四六八	
		二	二三	二五	四二五	
		三	二三	二七	四六八	
		四	二一	二六	四四二	
		五	二一	二六	三九〇	
		六	二一	二七	二九七	
		七	三三	四三	五八一	
		八	三二	四一	五三三	
		九	三二	四一	五三三	
		一〇	三三	四三	五五九	
	小豆	昭和一	七	五	一二〇	
		二	七	五	一二〇	
		三	七	五	一二〇	
		四	五	四	八四	
		五	五	四	七六	
		六	五	四	六〇	
		七	一	二	三〇	
		八	—	—	—	
		九	—	—	—	
		一〇	—	—	—	
	ソバ	昭和一	—	—	—	
		二	—	—	—	
		三	—	—	—	
		四	—	—	—	
		五	—	—	—	
		六	—	—	—	
		七	—	—	—	
		八	二	二	三〇	
		九	九	八	一〇〇	
		一〇	一〇	九	一一〇	
	人參	昭和一	—	—	—	
		二	—	—	—	
		三	—	—	—	
		四	—	—	—	
		五	—	—	—	
		六	—	—	—	
		七	—	—	—	
		八	一	二〇〇	四〇	
		九	一	三五〇	七〇	
		一〇	一	三五〇	七〇	

農　　產　　物

種目	年度	作付反別	收穫高	價格	備考
大根	昭和一〇	二、八五〇反	一、〇八〇、〇〇〇貫	一、〇〇〇円	
	九	二、八〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	
	八	二、七五〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、二〇〇	
	七	二、七〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、三〇〇	
	六	二、六五〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、四〇〇	
	五	二、六〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、五〇〇	
	四	二、五五〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、六〇〇	
	三	二、五〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、七〇〇	
	二	二、四五〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、八〇〇	
	一	二、四〇〇	一、一〇〇、〇〇〇	一、九〇〇	
菜類	昭和一〇	二、〇八〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、〇〇〇	
	九	二、〇三〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、一〇〇	
	八	二、〇〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、二〇〇	
	七	一、九五〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、三〇〇	
	六	一、九〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、四〇〇	
	五	一、八五〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、五〇〇	
	四	一、八〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、六〇〇	
	三	一、七五〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、七〇〇	
	二	一、七〇〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、八〇〇	
	一	一、六五〇	二、〇〇〇、〇〇〇	二、九〇〇	
蕃豆	昭和一〇	五六五	一、二九九、〇〇〇	三、二〇〇	
	九	五六〇	一、二八八、〇〇〇	三、二〇〇	
	八	五五五	一、二七七、〇〇〇	三、二〇〇	
	七	五五〇	一、二六六、〇〇〇	三、二〇〇	
	六	五四五	一、二五五、〇〇〇	三、二〇〇	
	五	五四〇	一、二四四、〇〇〇	三、二〇〇	
	四	五三五	一、二三三、〇〇〇	三、二〇〇	
	三	五三〇	一、二二二、〇〇〇	三、二〇〇	
	二	五二五	一、二一一、〇〇〇	三、二〇〇	
	一	五二〇	一、二〇〇、〇〇〇	三、二〇〇	

農　　產　　物

種目	年度	作付反別	收穫高	價格	備考
葱	昭和一〇	三、五〇〇反	一、七五〇、〇〇〇貫	一、〇〇〇円	
	九	三、四五〇	一、七二五、〇〇〇	一、一〇〇	
	八	三、四〇〇	一、七〇〇、〇〇〇	一、二〇〇	
	七	三、三五〇	一、六七五、〇〇〇	一、三〇〇	
	六	三、三〇〇	一、六五〇、〇〇〇	一、四〇〇	
	五	三、二五〇	一、六二五、〇〇〇	一、五〇〇	
	四	三、二〇〇	一、六〇〇、〇〇〇	一、六〇〇	
	三	三、一五〇	一、五七五、〇〇〇	一、七〇〇	
	二	三、一〇〇	一、五五〇、〇〇〇	一、八〇〇	
	一	三、〇五〇	一、五二五、〇〇〇	一、九〇〇	
西瓜	昭和一〇	一、二〇〇	七、八〇〇、〇〇〇	六五〇	
	九	一、一五〇	七、四七五、〇〇〇	六五〇	
	八	一、一〇〇	七、一五〇、〇〇〇	六五〇	
	七	一、〇五〇	六、八二五、〇〇〇	六五〇	
	六	一、〇〇〇	六、五〇〇、〇〇〇	六五〇	
	五	九五〇	六、一七五、〇〇〇	六五〇	
	四	九〇〇	五、八五〇、〇〇〇	六五〇	
	三	八五〇	五、五二五、〇〇〇	六五〇	
	二	八〇〇	五、二〇〇、〇〇〇	六五〇	
	一	七五〇	四、八七五、〇〇〇	六五〇	
胡瓜	昭和一〇	三、五五〇	三、八五〇、〇〇〇	一、〇〇〇	
	九	三、五〇〇	三、八五〇、〇〇〇	一、一〇〇	
	八	三、四五〇	三、八〇〇、〇〇〇	一、一〇〇	
	七	三、四〇〇	三、七四〇、〇〇〇	一、一〇〇	
	六	三、三五〇	三、六八五、〇〇〇	一、一〇〇	
	五	三、三〇〇	三、六三〇、〇〇〇	一、一〇〇	
	四	三、二五〇	三、五七五、〇〇〇	一、一〇〇	
	三	三、二〇〇	三、五二〇、〇〇〇	一、一〇〇	
	二	三、一五〇	三、四六五、〇〇〇	一、一〇〇	
	一	三、一〇〇	三、四一〇、〇〇〇	一、一〇〇	

農産物

種目	年度	作付反別	收穫高	價格	備考
南瓜	昭和一	一反	三〇〇〇貫	二七円	
	二	一	三〇〇〇	二七	
	三	一	三〇〇〇	二七	
	四	—	—	—	
	五	—	—	—	
	六	—	—	—	
	七	—	—	—	
	八	—	—	—	
	九	—	—	—	
	〇	—	—	—	
茄子	昭和一	一四反五畝	六、三〇〇貫	一、〇〇八円五銭	
	二	一五	六、七五〇	九四	
	三	一五	九、〇〇〇	一、〇〇八	
	四	一〇	六、五〇〇	九七五	
	五	一〇	六、五〇〇	九七五	
	六	一〇	一〇、〇〇〇	一、一〇〇	
	七	一二	一二、〇〇〇	一、二〇〇	
	八	一〇	九、〇〇〇	九〇〇	
	九				
	〇				
紫雲草	昭和一	一四反五畝	一四二、五〇〇貫	三、五六四円	
	二	一六、〇〇〇	二四八、〇〇〇	四、四八〇	
	三	一〇四、〇〇〇	三九六、七二〇	五、九五〇	
	四	八七、七〇〇	三〇六、一五〇	六、一三九	
	五	八六、二〇〇	三〇一、九五〇	六、〇三四	
	六	八六、五〇〇	三〇二、五〇〇	六、〇五五	
	七	八七、〇〇〇	三四六、〇〇〇	三、〇一〇	
	八	八七、〇〇〇	三四六、〇〇〇	三、〇一〇	
	九	八七〇	三四八、〇〇〇	三、四八〇	
	〇	—	—	—	

物　　養蠶物

種目	年度	作付反別	收穫高	價格	備考
菜種	昭和一	一〇反	一五貫	二二円	
	二	二	三	四八	
	三	—	—	一六	
	四	—	—	—	
	五	—	—	—	
	六	—	—	—	
	七	—	—	—	
	八	—	—	—	
	九	—	—	—	
	〇	三	三	三〇	
其ノ他	昭和一	—	—	—	
	二	一二	三、五四〇	一、一二九	
	三	一五	三、八五〇	一、二一五	
	四	一八	三、八〇〇	一、三五〇	
	五	一六	六、二九〇	一、四五〇	
	六	六	三、〇五七	五三八	
	七	一〇	六、三七	五八五	
	八	一六	六五七	一、八三七	
	九	一九	八〇〇	一、一八七	
	〇	—	—	六九三	
春蠶	昭和一	一四	一〇〇	一二四	
	二	一〇	一四	七四	
	三	一九	一四	一四四	
	四	二二	三二	九六	
	五	三二	四一	九六	
	六	三三	三三	九六	
	七	四四	四四	七六	
	八	五四	四四	七六	
	九	二三	二三	二七〇	
	〇			九四	

生産別	果		
種目	梅	桃	生柿
年度	昭和一二三四五六七八九〇	昭和一二三四五六七八九〇	昭和一二三四五六七八九〇
作付反別	一七〇本 一五〇 一五〇 一四〇 一六〇 一五〇 一二九 一二三 一九〇 二〇四 二〇四	一四〇 一二〇 一二〇 一一〇 一三〇 一八三 一八九 一七八 一七四 一六〇	六五〇 六五〇 六五〇 六四〇 六四〇 六三〇 六二〇 六二〇 六二〇 六〇〇
收穫高	二五石 一 一 七 九 八 一四 一〇 一一 六〇	一三〇貫 一二〇 一二〇 一五〇 二六〇 二七五 三〇六 二二七 二〇六	一、三〇〇 一、五九七 一、八〇〇 一、五〇〇 一、二五〇 一、二八〇 一、六〇〇 一、二〇〇 一、四九二 一、四九二
價格	三〇〇円 二〇〇 二〇八 二二五 二三四 二七八 二五五 一四〇 一四八 一四八	三三 八〇 八四 九〇 一六九 九二 四七 四一	二八六 二三九 三六〇 三二〇 二七五 二五〇 一七九 一七九 一七九
備考			

實	畜産物	
葡萄	産犢	牛乳
昭和一二三四五六七八九〇	昭和一二三四五六七八九〇	昭和一二三四五六七八九〇
一六〇 一六〇 一六〇 一五〇 一三三 一一一 一六一 一六〇	—	六二〇石 五九一 三四八 七二〇 六五〇 五五〇 五二〇 五二〇 二九〇 二三、〇〇〇
一五〇 一三〇 一三〇 一四〇 五八〇 五一七 四二〇 四二〇 四二〇	四九頭 一六 一一 一三 七 六 二二 〇 —	
一二〇 一七五 二五〇 二五〇 一五二 一五五 一二六 一二六 一二六	— —	一九、六〇〇 一、八〇〇 二、七〇〇 三、二五〇 一、五〇〇 一、五〇〇 一、五〇〇 四〇〇 四〇〇
		二六、六〇〇 一四、七五五 一六、三五六 二六、四〇〇 二三、七五〇 二一、七五〇 一〇、四〇〇 一〇、四〇〇 二、五三〇

物産				
種目	年度	數量	價格	備考
家禽	昭和一二	一、〇五二羽	一、八六六円	
	三	一、〇五七	二、一二〇	
	四	一、八一二	三、二三五	
	五	一、七八〇	三、二一〇	
	六	一、八五八	三、二〇四	
	七	一、九六五	一、七〇九	
	八	一、一〇三	七三九	
	九	一、一〇二	七八〇	
	一〇	九六八二	五三五	
	一一	九一七	七三〇	
産卵	昭和一二	六三、八四〇箇	三、一九二	
	三	六八、二〇四	三、四一〇	
	四	九六、〇六七	三、三五四	
	五	九五、八五七	三、三五〇	
	六	九五、八五七	三、三五〇	
	七	一〇〇、二三〇	二、〇一〇	
	八	一一一、一八〇	二、八〇五	
	九	一〇二、二四〇	二、五七三	
	一〇	一一一、九八二	二、九七五	
	一一	一二八、五三六	一、三一四	
其ノ他	昭和一二	頭	一五七	
	三	一六	三五〇	
	四	一六	四六〇	
	五	一六	四六〇	

水産製造物				
種目	年度	數量	價格	備考
塩鰯	昭和一二	一、七〇〇貫	四二五円	
	三	一、〇〇〇	四八〇	
	四	二、〇〇〇	一、四〇〇	
	五	二、〇〇〇	一、二九〇	
	六	二、〇〇〇	一、二八〇	
	七	二、一五〇	一、二七〇	
	八	一、一〇〇	一、〇〇〇	
	九	八	三〇	
	一〇	一一〇	一一〇	
塩鮭	昭和一二	一三四貫	一〇〇〇	
	三	一三四	一〇〇〇	
	四			
	五			
	六			
	七			
	八			
	九			
	一〇			
塩鱈	昭和一二	六八五	六三五	
	三	六八五	六三五	
	四			
	五			
	六			
	七			
	八			
	九			
	一〇			

種目	年度	數量	價格	備考
水産製造物 乾鰯	昭和一	二、五〇〇貫	八、七五〇円	
	二	二、七〇〇	三、四〇〇	
	三	二、五〇〇	三、〇〇〇	
	四	二、七〇〇	二、一〇〇	
	五	二、五〇〇	一、六〇〇	
	六	二、七〇〇	二、〇〇〇	
	七	二、五〇〇	一、九〇〇	
	八	二、七〇〇	二、一〇〇	
	九	二、五〇〇	二、〇〇〇	
	一〇	二、七〇〇	二、一〇〇	
塩鯖	昭和一	三、〇〇〇	二、一〇〇	
	二	二、八〇〇	二、〇〇〇	
	三	二、五〇〇	一、九〇〇	
	四	二、七〇〇	二、一〇〇	
	五	二、五〇〇	二、〇〇〇	
	六	二、七〇〇	二、一〇〇	
	七	二、五〇〇	二、〇〇〇	
	八	二、七〇〇	二、一〇〇	
	九	二、五〇〇	二、〇〇〇	
	一〇	二、七〇〇	二、一〇〇	
糀漬鰯	昭和一	三、〇〇〇	四、一〇〇	
	二	二、八〇〇	三、九〇〇	
	三	二、五〇〇	三、四〇〇	
	四	二、七〇〇	三、七〇〇	
	五	二、五〇〇	三、四〇〇	
	六	二、七〇〇	三、七〇〇	
	七	二、五〇〇	三、四〇〇	
	八	二、七〇〇	三、七〇〇	
	九	二、五〇〇	三、四〇〇	
	一〇	二、七〇〇	三、七〇〇	

種目	年度	數量	價格	備考
工産物 醤油	昭和一	一、〇〇〇石	六一、三〇〇円	
	二	一、一〇〇	六一、六〇〇	
	三	一、一〇〇	六四、七〇〇	
	四	一、一〇〇	六四、七〇〇	
	五	一、一〇〇	六四、七〇〇	
	六	一、一〇〇	六四、七〇〇	
	七	一、一〇〇	五五、〇〇〇	
	八	一、一〇〇	五五、〇〇〇	
	九	一、一〇〇	五五、〇〇〇	
	一〇	一、一〇〇	五五、〇〇〇	
清酒	昭和一	一、八四〇石	九六、八八〇円	
	二	一、七四〇	一二五、六四〇	
	三	一、九三〇	一四六、八〇〇	
	四	一、八三〇	一二三、八二〇	
	五	一、八三〇	一二三、八二〇	
	六	一、八三〇	九四、〇六〇	
	七	一、八三〇	九四、〇六〇	
	八	一、八三〇	一〇五、〇〇〇	
	九	一、八三〇	一〇五、〇〇〇	
	一〇	一、八三〇	一〇五、〇〇〇	
物産 其ノ他	昭和一	一、〇〇〇石	五二、二〇〇円	
	二	一、一〇〇	五二、一〇〇	
	三	一、一〇〇	六、一〇〇	
	四	一、一〇〇	七、九二〇	
	五	一、一〇〇	四、三六〇	
	六	一、一〇〇	四、三六〇	
	七	一、一〇〇	四、三六〇	
	八	一、一〇〇	四、三六〇	
	九	一、一〇〇	四、三六〇	
	一〇	一、一〇〇	四、三六〇	

工產

種目	年度	數量	價格	備考
羽二重平絹	昭和一	五、七六〇反	二七、六四八	
	二	四〇、二七〇	二九、五七七	
	三	—	—	
	四	—	—	
	五	—	—	
	六	—	—	
	七	三五〇、五三〇	一三八、九七五	
	八	—	一八二、五〇〇	
	九	—	一九六、〇二〇	
	一〇	—	—	
撚糸人絹織物	昭和一	一、六〇〇貫	一三八、九七五	
	二	一、六一五	一五三、九七五	
	三	一、四二三	一二八、〇八〇	
	四	一、二一七	一〇九、五三〇	
	五	一、八八四	五七、〇七〇	
	六	七、〇八一	三六、五七一	
	七	四、二二五	五八、四七七	
	八	一〇、六六〇	一六〇、〇〇〇	
	九	三、五二四	一〇、五八〇	
	一〇	一六、〇〇〇	二〇八、〇〇〇	
木製品	昭和一		二八、八五〇	
	二		三九、〇二〇	
	三		三八、〇〇〇	
	四		三五、七〇〇	
	五		三〇、七〇〇	
	六		二五、九〇〇	
	七		二三、〇六〇	
	八		三三、四三四	
	九		二九、八〇〇	
	一〇		二九、九〇〇	

物

種目	年度	數量	價格	備考
漆器	昭和一		三八、〇〇〇	
	二		三八、八〇〇	
	三		三七、三〇〇	
	四		三七、九五〇	
	五		三四、五五〇	
	六		四〇、〇〇〇	
	七		三七、〇〇〇	
	八		三七、〇〇〇	
	九		三四、五〇〇	
	一〇		三四、六〇〇	
菓子	昭和一		六二、〇〇〇	
	二		六五、七〇〇	
	三		八五、八〇〇	
	四		八九、八〇〇	
	五		八九、八五〇	
	六		八五、九八〇	
	七		七〇、〇〇〇	
	八		一一三、〇〇〇	
	九		一三三、〇〇〇	
	一〇		一三三、〇〇〇	
藁製品	昭和一		七二、〇〇〇円	
	二		四、二九五	
	三		—	
	四		—	
	五		六〇、四〇〇	
	六		四、六七八	
	七		二二、二五〇	
	八		二二、二五〇	
	九		九、〇〇〇	
	一〇		二三、四一五	

工産物					
種目	年度	數量	價格	備考
縮緬及壁	昭和一	ヤード 三二五、六五〇	二三九、四八〇	
	二	二二四、八五〇	一八三、六三八	
	三	二四五、〇〇〇	二二七、〇〇〇	
	四	二四八、〇〇〇	二二八、一六〇	
	五	二五七、七〇〇	一二三、六九六	
	六	二五六、四四六	九八、五七九	
	七	—	—	
	八	—	—	
	九	—	—	
	一〇	—	—	
生絹及白絹	昭和一	一、六四八	四、七七九	
	二	一、三三六	九、二一八	
	三	—	—	
	四	—	—	
	五	—	—	
	六	—	—	
	七	—	—	
	八	—	—	
	九	—	—	
	一〇	—	—	
其ノ他	昭和一		二〇六、五〇〇	
	二		二四八、九四五	
	三		二五五、九五〇	
	四		二七五、九五〇	
	五		二六五、八五〇	
	六		六、一三三	
	七		八、二五〇	
	八		五、四六〇	
	九		九、〇五〇	
	一〇		八、二〇〇	

2 販路調査

販路調査を分ちて客脚調査と商品販路調査の二とし本町生産品の販路の概要を察知して鄕土産業の開發に力あらんとするにある。

(イ) 客脚調査

一、松任町に集る道路左記に依る調査（昭和十一年八月一日）

イ、國道八ツ矢口　自金澤市　野々市　松任町
ロ、金石往來　自金石町　旭村　同
ハ、相木往來　自旭村　相木　同
ニ、木曾街道成口　自美川町　出城村　同
ホ、相川往來　自御手洗　出城村　同
ヘ、國道西口　自小松町　同
ト、西川道路　自中奥村　同
チ、倉光往來　自林中村　倉光　同
リ、鶴來往來　自鶴來町　同
ヌ、椽ノ木曾街道　自中奥村　同

右調査場所

1八ッ矢口　2茶屋口　3石同口

時間　午前六時より午後八時迄

（註）右第一表及第二表ニツキ

イ、男子　ロ、女子　ハ、自轉車

ニ、自動車　ホ、トラック

ト、荷馬車　チ、其ノ他ヘ、荷車

（第一表）

道路名／時間	國道八ッ矢口	金石往來	相ノ木道路	相川往來	木會街道成口	國道西口	倉光往來	鶴來往來	椽ノ木會街道	北陸線	松金線
六——八	58 10 40 0 6 4 0 1	16 1 7 1 3 6 0 1	25 6 15 0 0 1 0 0	10 9 40 1 0 35 1 4	29 22 104 1 1 19 2 5	25 17 84 1 8 6 0 18	10 12 40 1 2 3 0 4	7 12 26 3 0 4 0 3	10 32 18 0 0 0 0 2	14 6	14 1
八——一〇	116 10 41 4 6 5 0 2	23 11 55 3 3 20 1 3	21 4 12 0 0 4 0 0	5 2 55 0 1 3 2 1	13 18 80 3 1 8 1 5	51 30 63 3 8 13 0 15	12 9 48 3 1 7 0 3	9 7 39 1 1 7 4 2	11 13 26 0 0 2 0 1	69 41	40 16
一〇——一二	87 9 53 7 9 5 2 2	2 0 35 4 3 9 0 5	16 4 12 1 0 3 0 0	70 23 42 4 2 14 0 2	14 14 60 0 2 11 3 3	74 18 52 5 3 25 0 5	35 17 55 3 2 16 0 6	5 7 24 5 0 5 1 3	18 14 22 0 0 3 0 1	33 12	34 20
一二——二	81 8 33 11 5 1 1 3	60 17 23 2 3 7 0 0	20 8 8 0 0 2 2 0	43 40 24 5 5 20 0 5	38 29 66 3 3 5 0 12	30 25 26 4 1 10 0 8	40 23 35 6 4 15 2 5	10 6 26 3 2 11 2 1	9 13 14 0 0 4 0 2	29 17	17 14
二——四	73 7 26 2 9 6 2 3	90 15 52 2 5 2 0 8	23 10 13 0 0 1 0 2	30 15 32 5 0 2 1 0	23 15 57 1 1 10 2 7	51 27 55 4 5 14 0 5	37 15 35 5 2 17 3 5	32 13 40 3 4 9 3 2	26 7 26 0 0 5 0 8	14 5	40 37
四——六	60 15 29 4 5 10 1 1	105 40 72 5 5 11 4 2	16 6 10 0 0 3 0 0	35 20 30 4 0 9 0 3	47 33 79 1 5 2 2 2	38 17 47 5 4 7 0 3	70 37 56 4 1 18 1 8	10 7 27 1 2 8 0 5	15 12 23 0 0 8 0 2	96 19	67 49
六——八	77 11 47 5 6 3 0 6	78 25 53 4 3 3 0 3	3 0 2 0 0 0 0 0	13 8 26 1 2 2 0 0	14 14 29 0 0 1 0 2	61 10 20 7 9 1 0 1	35 11 12 1 0 2 0 3	15 6 30 5 1 5 0 1	18 15 27 0 0 5 0 1	63 35	87 47
	一〇三一	九一一	二五三	七〇六	九二一	一〇四八	七九三	四六五	四一三	四五三	四八八

（第二表）

町名／時間	東三番丁	東新町	茶屋町	石同新町	八日市町	小計	種類	合計
六——八	191	196	45	25	52	509	イロハニホヘトチ	一八二八
	65	107	47	40	26	285		
	30	93	285	104	159	771		
	0	2	5	8	12	27		
	2	0	14	5	15	36		
	26	19	49	22	11	27		
	0	0	4	0	0	4		
	10	13	20	20	6	69		
八——一〇	237	276	80	93	150	836	イロハニホヘトチ	二九三〇
	87	138	89	78	128	520		
	153	148	282	206	331	1.120		
	0	0	25	6	23	54		
	1	2	11	3	17	34		
	31	41	53	38	56	219		
	1	3	4	4	3	15		
	17	27	33	32	23	132		
一〇——一二	310	303	83	86	228	1.010	イロハニホヘトチ	三三三九
	133	124	94	198	222	771		
	166	165	240	206	310	1.087		
	1	2	13	10	38	64		
	6	4	9	4	23	46		
	44	43	56	46	27	216		
	2	8	6	6	6	28		
	23	17	17	25	35	117		
一二——二	250	273	96	52	230	901	イロハニホヘトチ	三〇四七
	70	128	95	59	240	592		
	153	175	270	141	370	1.109		
	1	0	11	8	48	68		
	4	0	11	5	32	52		
	27	43	31	27	49	177		
	2	5	3	4	0	14		
	15	48	24	13	34	134		
二——四	213	401	49	65	241	969	イロハニホヘトチ	二九八八
	51	214	48	56	195	564		
	120	206	203	166	332	1.027		
	1	3	9	9	26	48		
	3	2	20	16	28	69		
	28	61	32	46	19	186		
	0	8	0	12	15	35		
	17	21	19	15	18	90		
四——六	367	243	132	70	187	1.179	イロハニホヘトチ	三四二五
	125	216	95	51	200	687		
	200	188	300	149	320	1.157		
	1	0	13	10	27	51		
	5	0	20	12	29	66		
	24	39	45	50	20	178		
	2	2	3	5	0	12		
	15	21	23	17	19	95		
六——八	220	150	116	67	267	820	イロハニホヘトチ	二二七四
	106	84	103	90	260	643		
	98	50	191	121	193	653		
	0	0	13	15	28	56		
	1	0	10	3	14	28		
	10	3	8	10	6	37		
	1	0	0	0	0	1		
	9	3	14	4	6	36		
	3.775	4.498	3.571	2.633	5.354	19.431		一九、四三一

町名／時間	東三番丁	東新町	茶屋町	石同新町	八日市町	小計	種類	合計
六——八	218	196	45	25	52	509	イロハニホヘトチ	一八二八
	128	107	47	40	26	285		
	374	93	285	104	159	771		
	8	2	5	8	12	27		
	20	0	14	5	15	36		
	78	19	49	22	11	27		
	3	0	4	0	0	4		
	38	13	20	20	6	69		
八——一〇	370	276	80	93	150	836	イロハニホヘトチ	二九三〇
	161	138	89	78	128	520		
	419	148	282	206	331	1.120		
	17	0	25	6	23	54		
	21	2	11	3	17	34		
	69	41	53	38	56	219		
	8	3	4	4	3	15		
	32	27	33	32	23	132		
一〇——一二	388	303	83	86	228	1.010	イロハニホヘトチ	三三三九
	134	124	94	198	222	771		
	355	165	240	206	310	1.087		
	29	2	13	10	38	64		
	21	4	9	4	23	46		
	91	43	56	46	27	216		
	6	8	6	6	6	28		
	27	17	17	25	35	117		
一二——二	377	273	96	52	230	901	イロハニホヘトチ	三〇四七
	200	128	95	59	240	592		
	285	175	270	141	370	1.109		
	34	0	11	8	48	68		
	23	0	11	5	32	52		
	76	43	31	27	49	177		
	7	5	3	4	0	14		
	36	48	24	13	34	134		
二——四	444	401	49	65	241	969	イロハニホヘトチ	二九八八
	166	214	48	56	195	564		
	336	206	203	166	332	1.027		
	22	3	9	9	26	48		
	26	2	20	16	28	69		
	66	61	32	46	19	186		
	11	8	0	12	15	35		
	40	21	19	15	18	90		
四——六	559	243	132	70	187	1.179	イロハニホヘトチ	三四二五
	255	216	95	51	200	687		
	373	188	300	149	320	1.157		
	24	0	13	10	27	51		
	22	0	20	12	29	66		
	76	39	45	50	20	178		
	8	2	3	5	0	12		
	26	21	23	17	19	95		
六——八	464	150	116	67	267	820	イロハニホヘトチ	二二七四
	182	84	103	90	260	643		
	246	50	191	121	193	653		
	23	0	13	15	28	56		
	21	0	10	3	14	28		
	22	3	8	10	6	37		
	0	0	0	0	0	1		
	17	3	14	4	6	36		
合計	七四八二	九七五	七四八二	一〇五一	一〇九七	一三四三	合計	七四八二

二、鐵道ニ依ル調査

北陸線松任驛發車列車數

旅客車上リ　一二回　下リ　一二回

貨物車上リ　一〇回　下リ　六回

當町へ下りた人員　三一六人

當町より乘つた人員　一四二人　計　四五八人

三、電車ニ依ル調査

松金線　五五回

イ、八ツ矢停留場　ロ、東町停留場　ハ、松任終點

以上三停留場ニテ乘降シタ人員

當町へ下りた人員　四〇〇人

當町より乘つた人員　六〇人　計　四六〇人

（ロ）商品販路調査

松任町代表商店七十軒を選定しこれにつき商品販路の調査をなせし處答申六十四軒、これを分類せば左の如し

い、販路調査樣式

謹啓

炎暑の候貴家益々御清祥の段賀し奉り候

陳者今般兒童教育資料として又職業指導の見地より松任町の販路につき調査致度候就いては誠に恐縮に存候得共左記要項御含みの上御誼意以て御洩らし下され度御願申上候

昭和十一年八月

松任小學校職業指導調査部

販路調査　松任町字　商店　會社

No.

商品名	郡内（何方面）	縣内（何方面）	縣外（何方面）	海外（何方面）	備考

注意　商品名は雜貨類、家具類、酒類、漆器類等類別でよろしう御座ります
備考欄は數量金額の該數でよろしう御座ります

ろ、販路調査統計表

昭和十一年八月二十一日調

	郡内	縣内	縣外	海外
總雜農				
糸	二	一		一
貨具	二			
飴類	一			
藥種類	三	二	一	間接一
酒類	四	一		

三、職業的方面

1、家業調査

鄉土の家業を調査し家業と兒童との關係、鄉土職業の傾向並に特質、職業の發展性等を觀察豫測して直接兒童の教育の上に間接將來選職の上に顧るところ大いにあるのである。

	郡内	縣内	縣外	海外
ラムネ、サイダー	一			
木材	二	一		
四十物	一	一		
醬油	二			
纖工品、荒物	二			
呉服類	三			
八百物	五			
菓子、あんころ	五	一	一	
石灰	四	二	二	
肥料	一	一	一	
茶	二			
瓦、線瓦、土管	二	一	一	
履物、桐材	二	一	一	
ゴム車、擔棒	一			
葬具附屬品	一			
染物	一			
印刷	一			
玉子及鶏肉	一			
テント防水	一			
和洋傘	一			
洋服	一			
鉛鉄	一			
漬豆	一			
漆器類	一	一	一	間接一
陶磁器類	一	一	一	
米穀類	三	二	二	
計	六三	二六	一九	四

松任町家業調査分類 一一五三戸

一、農業	五五戸
農耕ニ從事スル者	五五
牧畜業ニ從事スル者	三
二、工業	二四三戸
大工業	四三
打綿業	二
左官	七
木型工	一
仕立職	一八
鉄製造業	三
糀製造業	三
屋根板製造	二
石工	一二
漆工	八
木挽	二
疊職	五
植木職	二
うどん製造	二
印判製造	六
洋酒製造	一
飴製造	二
染工職	九
瓦職	五
桶職	五
看板製造	二
蒔繪師	五
蓄電池製造	一
撚糸工	七
鐵工業	一
線路工夫	一
建具職	一〇
鉞力職	九
刺繍	二
女工	五
製綿業	二
竹細工	二
蹄鐵業	一
鋸目立	一
寫眞師	三
塗物業	九
木地職	一
醤油釀造	八
建築請負	一
罐詰業	一
曲物業	一
車大工	一
金銀細工	一
石灰工	一
庭園師	二
木箱製造	一
土木業	一
鍛冶職	七
指物業	一〇
表具師	六
度量器具製造	一
三、商業	三九〇
醤油販賣	八
飲食	一七
煙草商	七
かまぼこ	三
砂糖商	一
呉服商	七
靴商	一

自轉車商	七
書文具商	四
牛肉商	三
魚行商	一
諸油商	一
材木商	六
酒商	九
製車商	二
雜貨商	二四
豆腐製造販賣業	七
青物商	一七
茶商	五
紙類販賣業	一
履物商	一一
生菓子商	二
菓子商	一九
卵商	二
荒物商	七
肥料商	二
陶磁器商	五
雜穀商	二五
薪炭商	九
時計商	四
古物商	八
行商(露店)	九
鮮魚商	一〇
花商	二
藥種商	六
米仲買	二
屑物買	四
海産物商	一
金物商	四
莫蓙商	一
洋服商	二
種子商	二
小物商	一
機械類商	三
農具商	三
葬具商	一
傘商	二
保險勧誘員	二
質屋業	四
旅館	二
浴場	三
仲介業	一二
商業手助	二
店員	八
貸金業	一〇
貸座敷業	一八
結髪	三
理髪	一九
下宿	一
中買人	三
娯樂場經營主	二
糸綿商	二
石灰販賣店員	一
料理業	一五
萬年筆商	一
新聞取次店	一
瓦商	一
其ノ他金融業ニ從事スル者	二
四、交通業	一〇二
通信工手	一
運輸ニ從事スル者	五
運搬夫	四
運送仲仕	三

街鐵會社員	二
車掌	二
車夫	一
自動車運轉手	二四
電鐵工夫	三
電話交換手	二
鐵道從業員	一二
巡査	四
通信職員	一
測量士	一
船長	一
集配手	三
郵便局員	一
牛乳配達夫	一
新聞配達夫	四
仲使	六
驛員	二
電鐵從業員	一
電氣會社職員	一
電氣業ニ從事スル勞務者	一
荷馬車引	一〇
信號手	二
バスガール	四
五、公務自由業	一二七
醫師	九
小學校教員	三六
中等學校教員	一四
僧侶	一六
藥劑師	三
農檢員	一
軍人	二
神職	四
産婆	六
電氣治療	一
灸醫	二
按摩業	五
獸醫師	一
代書人	三
簿記係	一
警部	一
生花師匠	一
音樂師匠	二
郡自治會職員	三
官吏	四
公吏	一二
周旋業	一
六、水産業	一
遠洋漁業者	一
七、其ノ他ノ有業	九四
洗濯業	三
養鷄	一
通勤ノ使用人	一
筆耕	一
日稼	四九
女中	五
家事使用人	四
雜役夫	五
從屬	四
會社雇員	一一
銀行員	一〇
八、其ノ他	一四一
其ノ他ノ收入ニヨル者	二七
地代收入ニヨル者	一四
無職	八六
恩給年金ニヨル者	一九

2 職業分類

松任町の職業は勿論、他地方にして兒童に緣故ある家人の職業を限なく調査し、職業分類をなすと同時に兒童調査錄記載職業名例示とした。尙小分類は郷土色を加味した。

兒童調査錄記載職業名例示　石川縣石川郡松任尋常高等小學校

一、農業

1 農耕ニ從事スル者　自作農、小作農、自作兼小作農、自作兼地主、農夫、農林技手、果樹園主

2 畜産ニ從事スル者　養畜業主、養鷄業、搾乳業、牧夫

3 養蠶ニ從事スル者　養蠶業主

4 林業ニ從事スル者　造林業、杉苗栽培業、木炭製造業植林人夫、山林番人、營林署杣夫

二、水産業

5 漁業ニ從事スル者　トロール漁業、養魚場主、漁夫、眞珠養殖場技師

三、鑛業

6 採炭ニ從事スル者　炭山會社長、坑夫監督

7 採鑛ニ從事スル者　燐鑛會社支配人、採鑛工手、選鑛夫

8 石油鑛業ニ從事スル者　油田監督

9　土石採取ニ從事スル者　砂利採取業、石切人、採掘見習、バラス採取人夫

四、工　業

10　窯業、土石加工ニ從事スル者　硝子製造會社支配人、原料調合工、人造スレート製造業、下畫工（見習）、陶器製造業

11　金屬工業、機械器具製造、造船、運搬用具製造ニ從事スル者　電池製造業、鑛金工場支配人、精練技師、造船技師、アセチレンガス鎔接業（職、見習）以下同ジ箔打業鍼力業、目立業、鑄物業、製罐業自動車修繕業

12　精巧工業ニ從事スル者　眼鏡磨工、時計修繕業、貴金屬細工業オルガン調律業

13　化學製品ノ製造ニ從事スル者　藥種製造業、陸軍造兵廠火藥工、人造絹絲原料工

14　紡織工業ニ從事スル者　富士絹紡績業、紺屋業、漂白業、モスリン會社技師補、刺繡業（職、見習）洗濯業

15　被服、身裝品製造ニ從事スル者　ミシン裁縫業（職、見習）、洋服仕立業、古帽子修繕業、提灯傘製造業、洋傘修繕業、履物業、靴製造業

16　紙工業、印刷ニ從事スル者　寫眞業、表具業、製本業、紙函製造業

17　皮革、革、羽毛品類製造ニ從事スル者　革具製造業、擬革品製造職工

18　木、竹、草蔓類ニ關スル製造ニ從事スル者　製材業、ベニヤ板製造業、曲物業、木箱製造業、建具業、指物業、桶業、木型製造業車大工、塗物業、蒔繪業、疊業、竹細工業

19　製塩ニ從事スル者　製塩工場長、製塩會社監査役

20　飲食料品、嗜好品製造ニ從事スル者　精米業麩製造業、豆腐製造業、味噌醬油製造業、清酒釀造業菓子製造業、パン製造業、饅頭製造業、饂飩、蕎麥製造業、罐詰製造業

21　土木建築ニ從事スル者　土木請負業、大工、左官、タイル帳工、石工、道路工夫、線路工夫

22　瓦斯、電氣、水道業ニ從事スル者　變電所主任、電燈付取工、電話工夫、電工見習

23　其ノ他ノ工業的職業　玩具製造業、印判業、造花業、看板書業

五、商　業

24　商業的職業　米穀商、酒商、味噌醬油商、八百物商、菓子商牛肉商、茶商、海產物商、鮮魚商、金物商、陶器商、時計商、葬具商、文房具商、雜貨商、古物商、花商、硝子商荒物商、薪炭商、吳服商、毛織物商、肥料商（店員、小店）、（露店、行商、呼賣）仲介業

25　金融、保險ニ從事スル者　銀行業、金貸業、質屋業、重役、行員、傭員、保險業、社員、傭員、代理店

26　接客業ニ從事スル者　旅館業、下宿業、飲食店、湯屋業、理髮業、髮結業（職、見習）

六、交　通　業

27　運輸ニ從事スル者　自動車業、海運業、驛長、改札係、貨物係、驛手、信號手、車掌、機關車火夫、電車運轉手、飛行士、人力車夫、荷馬車挽、仲仕、配達夫、仲使

七、公務自由業

28 通信ニ從事スル者　郵便局長、電信局通信手、無線電信局通信事務員、電話交換手、集配手

29 官吏、公吏、雇傭員　神宮禰宜、縣社社司、裁判所書記、縣土木書記、町長、警察署長、巡査、役場書記、檢査員

30 陸海軍現役軍人　陸軍中將、陸軍步兵大佐、陸軍二等主計、海軍航空特務大尉、陸軍砲兵伍長、海軍一等軍樂兵

31 法務ニ從事スル者　開業辯護士、開業辨理士、執達吏公證人

32 教育ニ從事スル者　私立大學長、教諭、小學校長、訓導、幼稚園保姆、家庭教師

33 宗教家　神道教師、僧侶、牧師

34 醫療ニ從事スル者　開業醫、病院長、齒科醫、藥劑師、看護婦、產婆按摩、鍼灸師電療師、開業獸醫、蹄鐵工、接骨師

35 書記的職業　紡績會社簿記係、銀行出納係長、信用組合事務員、速記者、筆耕者

36 記者、著述家、藝術家、遊藝家　新聞記者、新聞社主筆、著作家、俳諧宗匠、日本畫家、洋畫家、彫塑家、作曲家、踊師匠、俳優、圖案家、書道教授、力士生花指南

37 其ノ他ノ自由業　測量技師、建築設計家、製圖家、工業試驗所長、測候所技手、司法代書人、職馬師

八、家事使用人

38 家事使用人　家事管理人、書生、女中、家政婦

九、其他ノ有業者

39 其ノ他ノ有業者　農學校給仕、紡績工場給仕、プール番人、倉庫人夫、雜役夫、小學校使丁、日傭、家屋管理人、火葬人夫

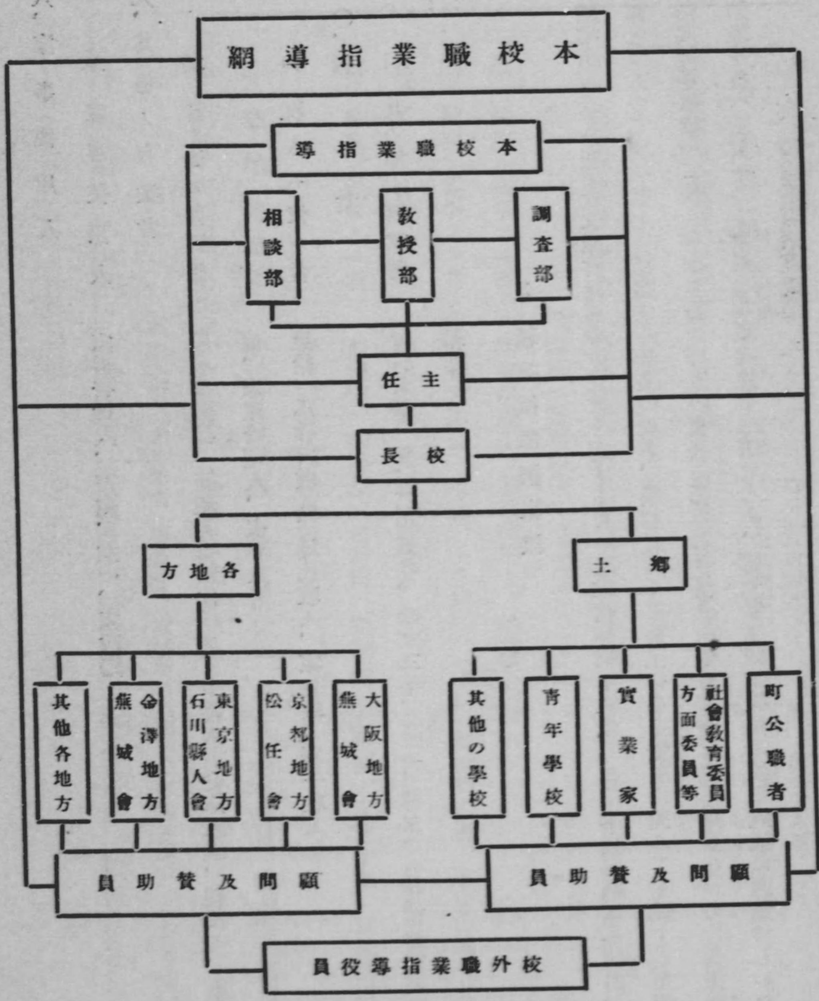
40 收入ニ依ル者　恩給、小作料收入、地代收入、家賃收入利子收入

一〇、無業

41 其ノ他ノ無業者　醫科大學一年、二中五年、松女三年、高二、尋三、公立精神病院患者、仕送、隱居

3 職業指導網組織

職業指導求人先調査就職斡旋補導の完璧を期するため職業指導網を組織した。本指導網は本校出身者にして現在鄉土にあつて職業戰上に活躍する知名の士と、異鄉にありて鄉土の名を雙肩に擔ふて奮闘する先輩戰士とを本校職業指導組織中に加入を求め將來鄉土の發展に花々しき働きを望んでやまざる兒童のために相倚相援けてこれに適職を與へ兒童をして幸福なる職業觀を抱懷せしめ、鄉土發展職業報國の使命達成に邁進せしめたい。



ロ、職業指導網校外役員

地方別	會合名	役員芳名			地方別	會社名	役員芳名		
松任町		顧問	正見	二郎	大阪地方	燕城會	顧問	新村清太郎	
		實助員	六斗	喜作			〃	米澤順太郎	
		〃	松崎	義恭			實助員	田俊	敬吉
		〃	二ッ木與三吉				〃	中本	俊二
		〃	町川	甚吉			顧問	美野順二郎	
		〃	西本清治郎				實助員	馬	俊雄
		〃	須田與一郎				顧問	梶野	玄山
		〃	堺田嘉之吉				實助員	米村	米吉
		〃	高崎龜次郎				〃	米本	晃
		〃	池田	敬一			〃	高島	信次
		〃	眞田	豊治			顧問	辻	利信
		〃	今西	恒			實助員	大野	三郎
		〃	水野	傳次			顧問	岡本	圭三
		〃	川尻	兵次			〃	松本	勇平
		〃	清水	善良			實助員	中野	貞雄
		〃	安田與三松				顧問	一原政治郎	
		〃	西尾	貞次			實助員	長谷川多一	
		〃	大本久兵衛				〃	吉田	章
		〃	成岡次三郎				〃	宮本	榮吉
		〃	米田孝次郎				〃	小坂	省三
		〃	長	二三郎			〃	荒納仁三郎	
		〃	吉本	寛一			顧問	宮	久一
		〃	西村	磯吉			〃	村田	知章
		〃	林	政榮			〃	大野	市良
		〃	月輪	現靖			〃	乙	富雄
							〃	津澤安太郎	
					大阪地方	燕城會	顧問	土居	伊八
							實助員	德田	喜作
							〃	安島外喜雄	
							〃	平與	三松
							實助員	美野	久伍
					神戸地方				
					京都地方	松任會			
					奈良地方				
					名古屋地方				
					東京地方	石川縣人會			
							實助員	高見	小市
							〃	武中	平
							顧問	荒鷲	文吉
							〃	油谷	政之
							實助員	布目	敏之
							顧問	山岸	精一
							實助員	太田	秀一
							〃	永島喜三郎	
							〃	荒納仁三郎	
					三重地方				
					滋賀地方				
					福井地方				
					長野地方				

新潟地方	實助員	舩橋男	
岩手地方	〃	今村三郎	
青森地方	〃	松田善二	
横濱地方	〃	西本勇次郎	
山口地方	〃	南部讓	
横須賀地方	〃	小野秀雄	
北海道地方	〃	森山權太郎	
朝鮮地方	實助員	川村寛	
滿洲國地方	〃	車古久二	
米國地方	〃	林藤捨次郎	
	〃	竹本仁三郎	
	實助員	中田與三吉	
	顧問	岡本桂次郎	
	實助員	山上三樂	
	〃	館清喜	
	〃	加藤嘉明	
	〃	橋場嘉之助	
	〃	西川義久	
	〃	小澤宣義	
	〃	吉村茂三郎	
	〃	詠用八	
	〃	橋場保二	
	〃	中川金正	

第三　其他ノ教育的調査

一、國勢把捉

國勢を把捉し縣勢を洞察し其の他あらゆる文章機關を透して社會の大勢を察知し、天下國家の教育的社會狀勢に對し綿密なる觀察を拂つて常に時代を先見し將來世に樹つ兒童に時の流れを洞察し得るの卓見を有せしめんがため該方面の研究調査を怠らぬ。

1　官報

本校創立以來官報を職員會をもつてとり國政に關する方面を引見してゐる。

2　内閣統計局諸統計

我が國各般の狀況を系統的に綜合的に知らんがため常に當局統計に深き關心を持し大勢把捉に努む。

3　年鑑

國家内外の時事を審かにし世相を明かにして生命ある教育に當りたい。

4　國勢圖會

日本及世界各國の教育狀況産業狀勢、經濟及國防事情を知るに便利なるものにして創刊以來出版毎に數十册を購入し教師及上級學年地理科參考として備付く。

5　國勢グラフ

生産消費の狀態交通物價の有樣其の他經濟大勢、時事問等題を掲ぐる月刊雜誌にして世界の産業界の趨勢を知るに力大なるものがある。

6　圖解教育

産業交通貿易職業、國防經濟等の狀況を圖解的に示せるものにして日本及世界國勢の一況を知るに便利である。

二、縣勢把捉

1　縣公報

本公報によりて縣行政の把握に力む。

2　縣統計課諸統計

内閣統計局諸統計と相俟ちて縣勢の一況を知るに力ある該課よりの諸統計を參考とし鄉土の發展に努む。

3　縣産業發展狀況調査

縣當局諸統計と本町並に本町出身實業家及係累實業家の情報により本縣産業の發展狀況を探知して鄉土産業の

改發に努む。

三、其　の　他

1　各種新聞雜誌

鄉土地方、中部、中央各地方の新聞と各種教育雜誌を職員會をもつて採り天下國家の教育情勢社會情勢を洞察して各自研鑽に努む。

2　上級學校進學系統調査

進學指導の一助たらしむるために上級學校進學の系統を男子、女子に區別して表はし尙ほ更に獨學進路をも明示して進學選職の當を得しめたいのである。

3　上級學校進學經統調査

(一)　男　子

一、尋常小學校を卒業した者

1　高等小學校
2　青年學校普通科
3　中學校
4　高等學校尋常科

5　實業學校（工業學校、農業學校―「農・園藝・農林・養蠶・獸醫」商業學校商船學校水產學校職業學校）

二、高等小學校を卒業した者

1　師範學校本科第一部
2　青年學校本科
3　地方幼年學校
4　鐵道教習所
5　遞信講習所普通科―遞信講習所高等科―遞信講習官吏練習所

三、中學校（實業學校）を卒業した者

1　高等學校
2　大學豫科
3　師範學校第二部
4　高等師範學校
5　臨時教員養成所
6　實業教員養成所
7　神宮皇學館
8　陸軍士官學校　海軍兵學校　海軍機關學校

9　專門學校（東京美術學校、音樂學校、外國語學校、藥學專門學校、高等工業學校、高等農林學校、高等蠶糸專門學校、高等商船學校、鑛山專門學校、各大學專門部、測候技術官養成所、高等工藝學校、高等園藝學校）体操學校

四、其　他

1　高等學校―大學

2　高等工業學校―工科大學

3　高等農林學校―農科大學

4　高等商業學校―商科大學

五、獨學によつて進むには

1　專門學校入學者檢定試驗（專檢）

試驗科目―中等學校各學科目に於ける卒業程度

合格者資格―專門學校師範二部等受驗資格

2　高等學校高等科入學資格檢定試驗（高檢）

試驗科目―中學四年終了程度の各必須學科目

3　高等試驗受驗資格檢定試驗（高資）

試驗科目―國語、漢文、歷史、地理、數學、物理、化學

4　普通文官試驗（判任文官の任用資格試驗）

試驗科目―中等校卒業程度五科目以上

5　高等文官試驗（高等文官の任用資格試驗）

七條試驗―高文豫備―高本試

6　裁判所書記登用試驗

7　商業實務員學力檢定試驗試驗

科目―作文・習字・算術・算珠・商業・簿記等

8　工業實務員學力檢定試驗

9　小學校教員檢定試驗

イ、小學校本科正教員（小本正）

ロ、尋常小學校正教員（尋正）

ハ、小學校准教員

ニ、尋常小學校准教員

ホ、專科正教員

(二)　女　子

一、尋常小學校を卒業した者

1 高等小學校
2 青年學校普通科
3 高等女學校
4 實科高等女學校
5 農業學校
6 商業學校

二、高等小學校を卒業した者

1 師範學校第一部
2 青年學校本科
3 大學病院看護婦養成所
4 大學病院助産婦養成所
5 農蠶學校女子部
6 遞信講習所普通科
7 職業學校第二部

三、高等女學校を卒業した者

1 師範學校第二部

2 高等師範學校
3 公私立女子專門學校
4 蠶糸專門學校
5 美術學校
6 音樂學校
7 体操學校
8 高等女學校高等科
9 高等女學校補習科
10 高等女學校專攻科
11 職業學校專攻科
12 日本赤十字社救護看護婦
13 圖書館員養成所

四、獨學によつて進むには

1 專門學校入學者檢定試驗（專檢）

試驗科目—修業年限四年の高等女學校の各學科目

合格者資格—專門學校、師範二部等の受驗資格

2　商業實務員學力檢定試驗

試驗科目―作文、習字、商業、算術、珠算、簿記、英文タイプライター

3　小學校教員檢定試驗

イ、小學校本科正教員(小本正)

ロ、尋常小學校正教員(尋正)

ハ、小學校准教員

ニ、尋常小學校准教員

ホ、小學校專科正教員

4　看護婦試驗

試驗科目―人体の構造及主要器官の機能、看護法衛生及傳染病の大意、消毒方法及治療器械取扱大意、救急處置

受驗資格―一ヶ年以上看護の學術を修業したるもの

5　助産婦試驗

試驗科目―正規姙娠分娩及其取扱法正規産褥の經過及褥婦生兒の看護法異狀分娩及其取扱法姙婦産婦褥婦生兒の疾病消毒の方法

6　幼稚園保姆

資　格―小學校准教員免許狀所持者以上及高女卒

3　不適職調査

身体的障碍による不適職を明示して豫め不可能の職を知らしめ、自己身体に適應したる職業の選定に努めしむ

身体的障碍ニ對スル不適職業一覽表

	身体的障碍	不適當ナル作業ノ性質	不適職業例
1	全身的衰弱	強健ナル体力ヲ要スル作業	鑛工、鑄型工、鍊造工、鍛冶工、車匠、指物師、大工、麵麭燒工、高職、土工、炭工夫、海員、看護人、(紡績女工、農婦、家政婦、体操女教師、看護婦、乳兒保姆)
2	近視	充分ナル視力ヲ要スル作業	精密機械工、時計工、複寫々眞工、交通從業員、食堂給仕、理髮師(刺繍女工)
3	色盲	色彩、陰影等ヲ詳細ニ區別スベキ作業	レンズ工、硝子工、硝子器具工、金銀細工工、象嵌細工師、染色工、皮師、鞍製造職、數物製造職、印刷工、着色石版工、オフセット印刷工、石版工、製丁、理髮師、海員、寫眞師、畫工(美容師、裁縫婦、美術工藝女工、幼稚園保姆)
4	難聽	災害ノ危險多キ作業又ハ耳ヲ使フ事多キ職業	樂器工、鍛冶工、錠前工、時計工、桶職、屠牧職、左官、印刷工、理髮師、賣子、動力作業ノ從事者(女理髮師、賣子、女給、家政婦、幼稚園保姆、看護婦)
5	發音障害	流暢ナル辯舌ヲ要スル職業	教師、商人、食堂給仕、辯士(女理髮師、女給、賣子、電話交換手)
6	味覺障害	嗜好品製造等試食ヲ要スル職業	菓子工、料理人、桶職、食料品賣子、(料理婦)
7	嗅覺障害	藥品、化粧品、料理等ニ關係ヲ有スル職業	化粧品屋、藥劑師、料理人
8	肺疾患	塵埃多キ作業、酸、瓦斯、蒸氣等ヲ高溫又ハ低溫中ニ被フ作業及食物嗜好品ヲ製造スル作業又ハ他人ノ身体ニ接觸シテ世話スルガ如キ職業	鑛工、鑄型工、鑄造工、鑢鐵工、電氣工、器具工、鍛力工、機械工、レンズ工、旋盤工、錠前工、鍛冶工、時計工、豆大工、桶職、機織工、皮揉工、鞍製造工、數物工、毛皮工、靴工、金細工工、彫刻師、木彫師、指物工、製陶工、瓦工、鍍金工、硝子工、硝子磨工、製本工、植字工、腐蝕版工、印刷工、畫工、大工、左官、石磨工、煙突掃除夫、農夫、園丁、門番、理髮師、賣子、食堂給仕、料理人、麵麭燒工、動力車手、看護夫、(農婦、紡績女工、裁縫婦、洗濯婦、女賣子、女理髮師、美容婦、女給、家政婦、看護婦、乳兒保姆)

9	10	11	12	13	14	15	16	17
心臟病	皮膚病	惡臭	脊手	不器用	脚腰平足及下肢血管痙攣（跛症ヲ含ム）	身體的動作不敏	癲癇	レウマチス性体質
重量作業殊ニ危險災害ノ多キ職業及常ニ立働ヲ要スル作業	非常ナル塵埃ヲ發シ又ハ酸及其他腐蝕品ニ接觸シ家具其嗜好品ノ製造又ハ直接身体ニ觸ルル物品ノ製ル及他人ニ接スル作業觸	其ノ手ヲ以テ他人ノ皮膚ニ接觸スル作業、家具及飲食物ヲ取扱フ職業及汗脂ニテ損ジ易キ機械材料ヲ取扱フ職業	敏活ヲ要スル作業又ハ兩手ヲ要スル作業	直立ヲ要スル作業及長途ヲ歩ムベキ職業	危險傷害ノ多キ職業（練習ノ結果次第ニ動作ガ早クナル場合ハ別）	階段ノ昇降重キモノノ取扱、機械ノ使用又ハ鋭尖ナルモノ、酸火等ヲ取扱フ職業、即チ大部分ノ金屬機械工業、重量品取扱作業	屋外作業水ニ濡レ又ハ温度ノ變化多キ職業
電池工、鉱力工、敷物工、旋盤工、菓子工、化學工、印刷工、鞣工、釀造工、家具工、鍍金工、染色工、鞍製造工、ブラシ工、毛皮工、左官、ペンキ職、石磨キ、煙突掃除夫、麺麭焼工、彫刻師、寫眞師、藥劑師、齒科技工、理髪師、賣子、食堂給仕、料理人、（洗濯婦、家政婦、女給、幼稚園保姆、看護婦	理髪師、食堂給仕、齒醫者（女理髪師、女給）	鐵砲工、金細工工、器具工、機械工、レンズ工、旋盤工、時計工、電機工、鍍金工、織物工、製本工、製帽工、仕立職、毛皮屋、理髪師、寫眞師、食堂給仕、料理人、齒科技工、（女理髪師、美容婦、看護婦、裁縫婦）	鐵砲工、機鐵工、電機工、機械工、鑄型工、旋盤工、錠前工、鍛冶工、金細工工、器具工、時計工、織物工、製本工、鞍製造工、指物師、木彫師、硝子細工師、製帽工、仕立職、大工、左官、床屋、齒科技工、鼈工、（理髪師、美容婦、裁縫婦、幼稚園保姆）	機鐵工、鑄型工、鑄造工、鍛冶工、旋盤工、鍍金工、植字工、製帽工、屋根職、農夫、樵夫、牧夫、料理人、食堂給仕、理髪師、賣子、齒科技工、看護人、寫眞師、（洗濯婦、女給、女賣子、女理髪師、看護婦）	鑄造工、鑄型工、造船工、左官、大工、屋根職、建築鉄力工、ペンキ職、煙突掃除夫、食堂給仕、賣子、（女給、賣子）	鐵砲工、鑄型工、鑄造工、鑞工、鍛冶工、機械工、時計工、皮操工、兵器製造工、敷物工、印刷工、植字工、凸版工、指物師、建築鉄力工、屋根職大工、左官、硝子、磨麺麭焼工、鼈工、理髪師、食堂給仕仕、料理人、（女給看護婦）
農夫、漁師、桶工、桶職、左官、大工、石磨、染色工、皮採工、製陶工、製帽工、バタ製造人、動力車手、兵士、料理人、（農婦、洗濯婦、料理婦、女給）								

18
脚腸
重キモノヲ擔ゲ又ハ支ヘル作業（即チ腸壁ヲ衰弱又ハ過重セザル作業）
鐵鑄工、鑄型工、錠前工、鍛冶工、旋盤工、皮採工、大工、左官、石磨工、桶職、指物師、車大工、麺麭焼工、（看護婦）

4 雇傭先調査

職業指導網の實際活用、職員の出張、緣故關係の調査等或ひは方法を通じ卒業兒童進路の開拓に專念す、敢て求人申込を待つを以て本体とせず、これ過去に於ける就職斡旋の事實を見るに、學校紹介に依るものは、殆ど開拓紹介なり、故雇傭先調査票及求人一覽表に依り、求人先に關する諸調査を整理し就職斡旋の參考に資す。

1 雇傭先調査票

（昭和　年　月　日調査）

職業								
雇傭者	氏名				屋號			
	營業所				電話	番		
	家族數				使用人數			
採用人	性別	男	名	女	名			
	學歷	商工卒	名	高等卒	名	高等卒	名	卒
	職務（どんな仕事をさせられますか）							
	勤務（通勤ですか住込ですか）							

用條件											
待遇	執務時間	修養機會	應募手續	人物						其他必要條件	處理
					學業成績	体格	性質	特技	其他		
（初給は 將來は）	自午前 時 至午後 時 夜業の有無	（青年學校へ通學が許されますか其他）	（必要書類及締切期日）	望ましきもの・							
				避けたきもの							

5 可能職業調査

聽力及視力につき其の障害程度正常程度に應じたる可能職業名を示し選職指導の好資料とする。

聽力ニヨル可能職業一覧表

聽力度	可能職業例 男子職業	可能職業例 女子職業
1 普通聽力者及輕度難聽者ノ職業	官公吏、教師、僧侶、車掌、商店員、百貨店員、仲買商人、藥種商、タイピスト、轉轍手、料理人、郵便局員、旅館雇人、給仕、運轉手、理髮師、電氣技師、鐵道技師、火夫、赤帽、消防手、鐵工場職工、警察官、獵夫、大工、潜水夫、硝子製造工、瓦斯職工、桶職、鍍工、機械工、銅版印刷工、黄銅鑄造工、鍛冶職、組立工、金箔工、鎔鑛爐職工、車輛製造工、金庫製作工、精密機械工	女子事務員、女店員、女子吏員、保姆、家事教師、教師、通信事務員、給仕、女工監督、タイピスト、速記者、出納係、看護婦、手傳夫、侍女、産婆、女結髮
2 輕度及中度難聽者ノ職業	測量師、建築技師、工場監督、書記、齒科醫、屠殺夫、水車業、鋪石工、紙商、香料商、鑄物工、帽子製造工、馬具工、石工、銃器工、皮革商、煉瓦製造工、陶磁器職工、瓦職、轆轤工、鞣皮工、時計製作工、罐詰職工、樽工、バン職工、点燈夫、石鹸製造工、器具鍛冶工、家畜飼育、倉庫番人、亞鉛版職工、帆布毛布製造工	紡績女工、料理婦、織物女工、女中、衣裳着付
3 高度難聽者ノ職業	彫刻師、畫工、簿記係、出納係、圖書館員、代書業、園丁、着付師、統計係、篩製造工、寫眞師、農夫、養蜂業、建築工、硝子畫工、裁縫師、養畜、製革工、紙器工、刀劍磨工、石版工、針工、木版工、印刷工、籠編職工、植字工、靴工、家具工、造花工、井戸掘職、指物職、桶職、塗物工、染物工、貴金屬工、護謨工、製油工、製本工、製糖工、蠶製造工、釀造工、生花商、家禽商、ゴム職工、小賣商人、電氣鍍金工、寶石研磨工、寫眞製版工、銅版彫刻工、象牙彫刻工、針金細工、活字鑄造工、眼鏡製作工、亞鉛凸版工、模型製作工、團扇製造工、玩具製造工、洋傘製造工、起重機製作工、シャツ製造工、牛乳加工業、組紐製造工、大理石細工職、青銅版製作工	裁縫教師、裁縫工、刺繡教師、洗濯婦、室內勞働者、美術工藝品製作
4 早聾者及聾啞者ノ職業	植字工、裁縫師、籠細工、石版工、活字鑄造工、製本工、養鷄業、爪掛業、撒水夫、化學職工	草花栽培、農婦、蔬菜栽培、組紐製造工
5 高度難聽者ニシテ劣等視力者ノ職業	草花栽培、農夫、穴掘、水汲、ブラシ製造工	袋張女工、製本折工

視力ニヨル可能職業一覽表

視力度	可能職業	
	男子職業	女子職業
1、普通視力（〇、七以上）	建築師、醫師、齒科醫、齒科技工、裝飾師、消防手、飛行士、信號手、彫刻家、畫家、製圖師、測量師、寫眞修整工、寫眞師、百貨店員、自動車運轉手、車掌、兵士、海員、機關手、技師、會計係、電信技手、理髮師、意匠畫工、陶磁器畫工、寫眞師、裁縫師、水平係、電信係、硝子磨工、眼鏡製作工、洋服裁縫師、和服裁縫師、時計製作工、製藥機械工、光學機械器具製作工、金庫製造工、鍛冶職工、指物職工、製作工、鍛冶工、氣工、貴金屬工、石版印刷工、亞鉛版工、鉱工、植字工、文選工、大工、錺師、屋根職、陶磁器工、鉱力職、染料製造工	刺繍教師、刺繍職工、寫眞修整工、寫眞師、裁縫師、解版工、製絲女工、織物女工、百貨店員、紡績女工、製絲仕上女工
2、不良視力者（〇、四―〇、七）	音樂家、自然化學者、簿記係、官公吏、辯護士、公證人、宗教家、巡査、郵便事務員、代書人、藥劑師、ペンキ塗工、馬丁、商店員、料理人、居殺夫、旅館便用人、商人、錺物工、鉛錫鎔造工、錺型職工、硝子器製作工、硝子畫工、金箔職工、鍛金工、黃銅鎔造工、錺職壇職工、時計師、活字鑄造工、管絃樂器工職工、研磨工、刃物鍛冶、大理石細工職工、鍛冶工、金屬彫刻工、荷馬車挽工、革細工職工、金網及飾製作、針工、製本工、ピアノ・オルガン職工、看板工、帽子製作工、洋傘職工、織物工、製紙工、帆布毛布製造工、シャツ製造工、桶職工、官職工、造花職工、製革工、製瓦職工、錬瓦職工、井戸掘職工、石工、左官職工、煙突掃除人、獸皮加工職工、製油職工、鐵管敷設工	運送事務員、女子事務員、秘書係員、タイピスト、出納係、圖書館員、産婆、生花師匠、保姆、速記者、機械製作工、看護婦、守、家政婦、子、美顏術師、給仕、女工監督、帽子製造工、料理人、婦、製本工、活字仕上工、造花職、三味線琴師匠、女中、按摩、火熨女
3、劣等視力者（〇、四以下）	點燈夫、バン製造、洗濯工、纏結工、纏工、袋張職工、煉瓦製造工、錺工、靴下製造、包裝工、洗濯婦、樽職、漂白工、洋傘枚製作工、鞣皮工、煙草職工、薪炭商、上下水道掃除夫、柾木職、農夫、香料商、鳥牛肉商、皮革商、ブラシ製造職、乾物設類商	從傳婦、家婦、花輸造、仲買人、手傳夫、一般勞働者、人夫、日雇、荷揚夫、青物商

知能檢査は時と場所、檢査人と被檢査人との心理作用其の他環境身体狀況等を徹底的に一定條件となすを得ざる故にこの檢査によりて以て信賴すべき結果は絶對に出ません。のみならず茲に揭ぐる規準表は幾多多くの實驗テストの結果得たるものとしても其の範圍は其の間に於てのみ普遍性をもち萬人に對して絶對性を强ひることは出來ない。

依つて知能檢査の結果該表によつて選職せしめんとするは甚だ危險多きものと言はねばならぬ。本校に於ては斯る体度は絶對忌避し、これは觀察基調の態度に對する一參考とするに過ぎない。

一般知能ニヨル學校職業選擇規準表

知能段階	知能指數	百人中ノ人員	一般的特徴及ビ職業水準	教育程度	職業例
最上知能	一三一以上	3	創造的統率的努ニ適スル知能力高級專門的職業水準	大學ニ於テ優秀ナル成績ヲアゲ得ル能力	編輯者（大新聞、雜誌）、法律家、外交官、教師（大學）、技師（機械、電氣、土木、化學）、宗教家（管長、司教級）、統計家、幹部社員（大會社）會計士、勅任行政官、陸海軍將官、教師（專門學校）
上知能	一三〇―一一八	10	行政的事業的指導的努力ニ適スル知能專門的職業水準	專門學校等ニ於イテ平均的成績ヲアゲ得ル能力	記者（新聞雜誌）學者、教師（中等學校）實業家（大商人、銀行家）秘書役、行政官、司法官、支配人、工場長、設計家、仕入掛、事業家、齒科醫、通信員、外交員（保險）宗教家

普通知能		普通知能		普通知能		下知能	
一一七一一〇八		一〇七一九三		九二一八三		八二一七一	
18		38		18		10	
小規模ノ行政的指導的位置ニ適スル知能、抽象的能力ヲ要スル高級熟練機械作業ヲナス優秀ナル能力技術的職業水準	中等學校或ハアル種ノ專門學校ヲ終リ得ル能力	キマリキツタ熟練作業ニ適スル知能、複雜ナ抽象的能力ヲ要スル作業ハ殆ンド出來ナイ熟練的職業水準	高等小學校或ハアル種ノ中等學校ヲ終リ得ル能力	アル種ノキマリキツタ熟練作業ニ適スル知能、半熟練及ビ低級熟練職業水準	尋常小學校ヲ終リ得ル能力	單純ナルキマリキツタ作業ノミニ適スル知能、監督指導ヲ要スルコト多ク大體ニヨル指示ヲ理解シ得ズ不熟練ハ最低熟練職業水準	尋常四學年程度特別學級
教師(小學校)速記者、簿記方、保姆、會計事務員、販賣人(卸實業家(小商人)鐵道事務員、牧師(休操、音樂、家事)運輸事務員、寫眞師、電信技手、無電技手、鐵道車掌、樂隊員、郵便局事務員、電氣技手、現場監督(土木建築)倉庫、書記、船舶事務員、運送書記、藥劑師、職工長、(工場)陶磁器原型工、タイピスト、交書整理掛		機關手(汽車(電話交換手、左車品照査掛、機械職、巡査、自動車組立工、機關手(汽船)鈑工、木工、自動車エンヂン工、洗濯夫、銃工、給管工、パイプ工、旋盤工、自動車運轉手、洋服屋、婦人服屋、婦人帽製造人、保線手、機械工(一般)オートバイ乘、劃動手、役者、屠殺者、火夫(汽車)鍛工(一般)工場職工(鐵道)活字鑄造工、植字工、印刷工、石版製版工、製本工、大工、運轉手(市街電車)車掌(市街電車)パン燒人、料理人、鐵山掘鑿人、塗工、農夫、コンクリート工、園藝家、庭師、貨物自動車運轉手、煉瓦積工、賄方、調馬師、靴屋、機關夫(固定的)理髮師、結髮師、販賣店員、馬丁、蹄鐵工、倉番人(製造工場)飛行機士、汽罐製造工(一般)船舶船具工、馭者、赤帽、給仕		漁夫、勞働者(不熟練)仲仕、荷造人夫、タドン製造人、掃除人夫、石切人夫			
				看護人、石工、左官、材木伐出人、番人、機械、靴工、荷造人、消防手(常備)機工、板金工、土木建築人夫、家事使用人、工場雜役夫			

最下知能		
七〇以下		
3		
甚ダ單純ナルキマリキツタ作業ノミナシ得ル能力及ビソレ以下自ラ方向決定ヲナスコト全ク不可能、最低不熟練職業水準或ハ適職ナシ	尋常三年程度學特別學級或ハ特殊教育機關	勞働者(最モ單純ナル作業)草刈リ、穴掘リ、荷車後押シ

7　職員の教育及社會調査

教育及社會の抽象的概念的研究は現在及將來に於て現實的具象的なる國民生活を營まんとする兒童の人格陶冶に對し充分なる資材を給提し得ない。

吾人は常にこれ等教育及社會の具体相を觀察洞見して、自ら抱持する教育信の糧となし現實日本の情勢動向に遲れざる樣教育をなさねばならぬ。

これが爲め本校に於ては昭和九年以來次に掲ぐるが如き職員の視察會を組織し兩方面の調査研究に努めてゐるのである。

松任小學校職員視察會會則

第一條　本會ハ松任小學校職員視察會ト稱ス

第二條　本會ハ松任小學校全職員ヲ會員トス

第三條　本會ハ教育並ニ社會ノ實情視察ニヨリ學殖ノ深奥ト世相ノ洞察眼ヲ養成シ以テ當校教育ノ向上發展ニ貢獻スルヲ目的トス

第四條　本會ハ前條ノ目的ヲ達成スル爲メ創立ノ月ヨリ毎月會費トシテ會員一人ニ付キ金貳圓宛據出貯金ヲ爲スモノトス

第五條　本會ノ會期ハ滿二ケ年トシ昭和十一年七月二十一日ニ始マリ昭和十三年七月二十日ヲ以テ終ルモノトス

第六條　本會ニハ左ノ役員ヲ設ク

會長　一名　幹事　若干名

會長ニハ學校長ヲ推擧シ幹事ハ學校財務係ニ依囑ス
會長ハ會務ヲ總理シ幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ會務一切ヲ掌理ス

第七條　本會ノ觀察ニハ會長ノ承認ヲ受ケ一回參名宛トシ會期中拾回ノ觀察ヲ行フヲ以テ原則トス　但シ一回ノ期間ハ一週間以内トス

第八條　各會ノ觀察者ハ抽籤ニヨリ其ノ都度觀察未了者中ヨリ決定ス

第九條　本會員ノ觀察費ハ一人一回金四拾八錢宛トス　但シ途中入會者ノ觀察費ハ金四拾八錢ヨリ一回ノ掛金ニ創立ノ月ヨリ入會ノ前月迄ノ月數ヲ乘ジタル額ヲ差引タル金額トス

第十條　觀察者ハ該當觀察回次内ニ於テ交附シ當該回次ヲ過グルモ出發セザル場合ハ直チニ觀察費全額ヲ本會ヘ返納スヘシ　該當回次内ニ於テ觀察ヲ好マサルモノハ其レ以後適當ナル時期ニ於テ出發スルコトヲ得　但シコノ場合ハ會長ノ承認ヲ受クヘシ

第十一條　本會員ニシテ途中退會シタル者ニツキテハ左ノ規定ヲ設ク

一、觀察終了者ニシテ退會セントスル者ハ當人ノ觀察費ヨリ既往掛金ヲ差引キタル不足額ヲ退會ト同時ニ一時ニ本會ヘ返納スルモノトス

二、觀察未了者ニシテ退會シタル者ニハ掛金全部ヲ拂戻スモノトス　但シ利息ヲ附セス

第十三條　本會員ニシテ最終回次ニ至ルモ尚觀察ヲ望マサルモノニ付キテハ會期終了ト同時ニ掛金ノ全部ヲ拂戻スモノトス　但シ利息ヲ附セス

第十四條　本會ノ利息ハ會期終了會ノ費ニ充ツ

第十五條　本會ハ年一回會員ニ會計ノ報告ヲ爲スモノトス

第十六條　本會ノ觀察者ハ觀察終了後一ケ月以内ニ於テ會員ニ觀察ノ狀況ヲ報告スルモノトス

第十七條　本會ノ會員ハ本會ノ主旨ヲ体シ本會ノ名譽ヲ汚瀆スルガ如キ行爲アルヘカラス

附則

一、本會ノ觀察ハ左ノ期間中ニ於テ行フヲ原則トス

回次	期間	組別
一	昭和十一年九月二十二日ヨリ昭和十一年十一月二十一日迄	男
二	同　年十一月二十二日ヨリ昭和十二年四月二十一日迄	男
三	昭和十二年四月二十二日ヨリ同　年五月二十一日迄	女
四	同　年五月二十二日ヨリ同　年六月二十一日迄	男
五	同　年六月二十二日ヨリ同　年九月二十一日迄	男
六	同　年九月二十二日ヨリ同　年十一月二十一日迄	女
七	同　年十一月二十二日ヨリ昭和十三年四月二十一日迄	男
八	昭和十三年四月二十二日ヨリ同　年五月二十一日迄	女
九	同　年五月二十二日ヨリ同　年六月二十一日迄	男
十	同　年六月二十二日ヨリ同　年七月二十日迄	女

二、觀察者ハ同時ニ同一學年擔任者ヨリ一名トス

三、會費徴收方法ハ毎月ノ俸給額ヨリ差引タモノトス

第二章　教授

第一節　教授方針

國体觀念を明徴にし、國家鄉土の立場情勢等の理解を重んじ國民的情操の陶冶を忘らず記憶力偏重の教育を排して理解力觀察力應用力を主とした工夫創造的精神の涵養に努め、産業經濟國防職業公民的教養等に關する素地を充分得しむることを忘れざること。

教材に關しては兒童生活實際社會生活を觀察洞見し、其の實際化兒童化を計ると同時に、相互の有機的綜合的連絡を怠らざること。

學習指導に關しては兒童の自發活動を重んじ實驗觀察測定等の作業を尊び科學的研究態度を奬勵し明確なる指導批判を重じ曖昧朦朧を許さざること。

第二節　學習綱領

智識技能を各自の裡におさめ行く兒童の學習態度は以下の三綱領によつて定められるゝのである。

一、「**なにくそ**」ノ意氣デ學習セヨ。

（旺ナル意氣）

二、「一つわかつた又一つ」ト進メ。（理解漸進）
三、「どつしり」シタ態度デ學習セヨ。（打開完成）

一、「なにくそ」ノ意氣デ學習セヨ。

斯くすればかくなるものと知りながら
やむにやまれぬ大和魂

忠義の精神、尚武の氣象に燃へたつ、幕末勤王の志士吉田松陰先生のこの歌の心持こそ、今言はんとする何くその意氣である。「凡そ共れ　皇國に生れて　皇恩に浴する者、身の爲すところ、家の營む所、國の謀る所、天下の擧ぐる所、一として　皇家のために非ざるものなし」として如何なる逆境の身に迫るも、如何なる迫害の身に及ぶも屈せず、何くその魂を殺氣立てゝ進まれしは純正大和魂の權化とも見るべきである。身も魂も　皇國に受け、　皇國の臣民として世界に乘り出でんとする我々に何ぞそれ日本精神の宿らざる。忠孝一本至誠奉公の魂をひつさげて、　上御一人に對し奉り臣下としての務めを果し　皇國の發展に身を投ぜんとする信念に燃ゆるものの生力は、何くその態度にあらすして何であらうか。

この精神、この意氣、この態度は、まだうら若き兒童等にも生れながらにして其の素地を有するのみならず、皇國日本教育のあらゆる機會を透して涵養せられつゝあることなれば、彼等の學習態度をこの意氣をもつて臨ましめなば如何なる難事と雖も習得して挫折することなく、更に新らしき知識技能の發掘に邁進して止まぬのである。兒童學習時に於ける斯る何くその態度が將來世に處し、　君に對し奉り獻身的犧牲的の態度となつて表はれる。

「皇國の御爲をはかる外何することありて世の中に立つ」の氣慨を有せしむることゝなるのである。

二、一つわかつた又一つト進メ（理解漸進）

「一つ判つた又一つ」これ即ち努力精進の姿である。而して其の爲さるゝ努力も順序正しく一歩一歩進むべき事を教へるのである。松坂の一夜加茂眞淵先生が本居宣長先生に教へられた言葉の如く、淺きより深きに學問の系統を尋ねて順序正しく、而も已まざる努力をもつて精進する所に、漸進的に理解が深められ行くのである。千里は足下より始まるの譬、曉望の高山も一歩一歩の累積によりて征服せらるるのである、斯る堅忍不拔の進取的氣象は我が武士道精神の表徴にして斯る精神を兒童學習の綱領と定め知識技能の徹底的理解と漸進的なる發展とを企圖して止まぬのである。

而してこの知識技能の徹底的理解も漸進的發展も自己一身の發展向上のためでなく常に　皇國の御爲への理解であり漸進であることを片時も忘れてはならぬ、佐久良東雄先生の歌に

一歩みあゆめばあゆむ度ごとに、
みさとに近くなりしうれしさ。

これは一歩一歩あゆむ度毎に　陛下の御膝元、京都に近づくは誠にうれしい事であるとの心地にして、この精神を學習にうつして一つわかつた又一つと進むごとに　皇國の御役に立つて居るのだと觀念せしめ奮闘努力させたい。

三、「どつしり」シタ態度デ學習セヨ、

聖堂に端坐して無念無想、靜かなること泰山のごとき禪僧のどつしりした態度は、迷妄を打破し、一事專念全精力を傾注して事に當るの力を培ふものと言はねばならぬ、凡てを去つて一事に專念し、全力を傾倒して當らねば學習能率が昇進するものではない。其れが爲めには先ず環境を整理し容儀をあらため、姿勢を直して、冥目靜思することを忘れてはならぬ。動搖せる心をもつて如何なる學習作業をなしても効果が擧らないばかりか却つて誤解を生ずる基となる。故に學習當初は心の沈靜を保ち、不動の態度を持して靜慮することを忘れてはならぬ、斯る態度を持して學習に專念するとき、あらゆる難問懐疑が解けさつて清朗なる魂魄となることを得、而してこの魂魄は禪の規定する「定」の境地にまで誘導し得て、安心立命大道を濶歩するの風格を有せしめ、本來具有し來つた傳統的國民精神を尺度として自主的能動的に外來文化を消化して　皇運扶翼の實を完うし明朗日進の　皇國建設に眞に力ある堂々たる國民となり得るのである。

第三節　園學習雰氣の醸成

學習雰圍氣の醸成なくして、充實せる學習なく、眞劍なる學習活動はない。吾々は何時何處に於ても學習し得らるべきものではなくして、斯る雰圍氣の充滿して居るところに熱烈なる學習活動が展開せられ得るのである。而してこれが醸成の具体的方策としては

一、學習環境の整備

教室内は清潔整頓を嚴守し兒童の學習上便宜なる教材物を時空を考慮して整然と置き、教場を一聖堂たるの觀念を固く保持せしめて絶對喧騒ならざる様維持すべきものである。

學校内に於ては講堂兒童控所廊下等を利用して兒童の學習心を喚起する様種々なる雰圍氣を構成するものとし、家庭に於ては學習に必要なる書籍教科書、書棚机等を一間に整備せしめ常に其の整頓に留意して成るべく家人の話聲や、ゆききのために防げられざる處を選ばしめ、この一室に入れば自ら學習心を誘發して勇みたつて臨むの環境たらしむること。左に學校、教室、家庭に於て學習雰圍氣を醸成するに適當なりと思惟せらるゝものゝ具体的例を擧げやう。

1、學校内に於けるもの
　イ、校訓の掲揚
　ロ、偉人の肖像
　ハ、偉人の書(字句の意義尊重)
　ニ、朝禮式
　ホ、掲示教育
　ヘ、標準學用品掲示

ト、兒童圖書室
チ、兒童博物館
リ、職業指導室
ヌ、優良成績品揭示
ル、兒童作品展
ヲ、雜誌「フタバ」刊行
ワ、体育環境

2、教室内に於けるもの
イ、學習系統案の揭示
學習豫定表
學習進度表
ロ、學級教授時間割表
ハ、課外運動時間割表
ニ、學級優良成績品揭示板の設定
ホ、級訓級則の制定

3、家庭に於けるもの
カ、運動會
ヨ、自習時間の特設
タ、學藝會
レ、競書會
ソ、寫生會
ツ、校舍の清潔、整理等
ネ、學級日誌
ナ、學習係の制度
ラ、看護生の監督指導
リ、學級會の活動
ヌ、偉人の肖像揭示
ル、偉人の言辭指示等

一、學習室の整備
イ、室の清潔整頓
ハ、偉人の肖像畫、書等の揭示
ロ、机、書棚、等の布置
ニ、其の他環境一汎整理

第四節　各科教授主眼点の確立

修身科　1、忠君愛國の信念を得しめ國体觀念を明徵ならしむること。
2、國民道德の實踐躬行を尊重すること。
3、鄉土及兒童環境中より教授實踐の資料を求むること。
4、兒童生活に即したる指導たること。

讀方科　1、國民的思想文章によつて國民性の陶冶をなすこと。
2、漢字の讀み書き等形式的方面を閑却せざること。
3、讀破力を深化せしめ他人の思想の正確なる理解と批判的態度を養ふこと。
4、朗讀話し方の明確暢達を期すること。
5、興國的發展氣分を養ふこと。

綴方科　1、内省に即したる正確なる表現指導をなすこと。
2、生活の深化と發展的態度を助長し、表現内容を豊富にすること。

3、指導者の偏見に捉はれず、兒童生活、兒童の發育程度に即したる指導をなすこと。

書方科　1、用筆法を精習し、書の精神を閑却せざること。

2、間架結構に留意し、正確、迅速に書寫し得るの能を養ふ。

3、全精力の傾注をもつて揮毫せしむること。

4、環境整理、精神統一を充分なすべきこと。

5、國民的情操字句並偉人の書を鑑賞書寫せしめて感奮興起せしむること。

算術科　1、事實と算法との發生的關係、算法と事實との應用的關係を密接ならしむること。

2、論理的思考力と、系統的判斷力の陶冶を圖ること。

3、實驗實側作題等、問題の事實的學習を重んずること。

4、珠算をはじめ、日用諸算法を精習すること。

5、算術的常識、統計的觀念を養ふこと。

國史科　1、萬邦無比の國体尊嚴に關し、徹底的理解と信念を充分把握せしむること。

2、國民性、國民道德の陶冶を尊重すること。

3、國史に流るゝ傳統的國民精神によつて現代生活を理解せしむること。

4、我が國勢の理解、鄉土の歷史的理解を重ずること。

5、忠臣孝子義士等の行蹟を憧憬せしめて兒童生活を善導すること。

地理科　1、國家鄉土の要求に鑑み其情勢の理解を尊重すること。

2、人類の生活狀態國際關係より我が國の世界的地位を洞察せしめ愛國心を養成すること。

3、讀圖製圖力を重んじ統計年鑑の利用能を涵養すること。

4、國防智識を與ふることを閑却せざること。

5、自然と人生との關係に對する眼識力を養ふこと。

理科　1、兒童の環境日常生活に即し自然的綜合的に教材を取扱ふこと。

2、實驗實測を重んじ繼續せる觀察を行ひ精密なる科學的考察を遂げ旺盛なる觀察力應用力工夫力を養ふこと。

3、鄉土の自然物に對する愛好の念を養ひ敬虔の情を高むること。

4、發明發見家の傳記に親しましめ工夫創作に對する奮起心を養ふこと。

圖畫科　1、美的創造並美的鑑賞の能力を養ひ生活の美化擴充深化を圖ること。

2、綿密なる觀察力と正確精緻なる表現の能力を養成すること。

3、商工藝美に對する關心を培養すること。

4、國家產業上の進步開發を助成し、經濟發展に寄與せんとする資質の養成をなすこと。

唱歌科　1、儀式唱歌の反覆練習を尊重すること。

2、興國的國民的歌謠を鑑賞練習して國民的情操を陶冶すること。